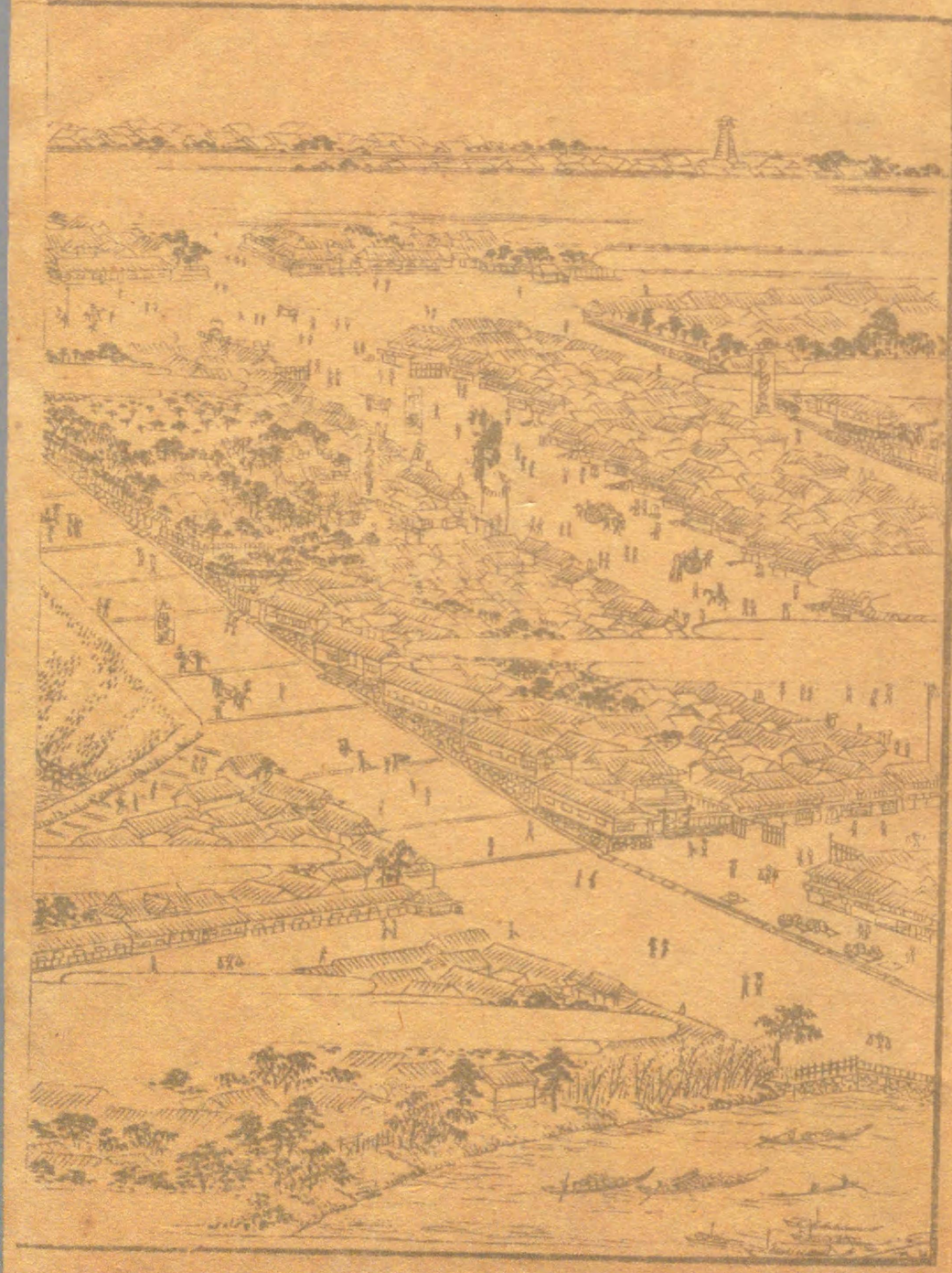
Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 12

291.36
G56
T
75W05259

0 複写

本三十八の付録

御府内沿革圖考 第二篇下



飯田町
中坂
九段坂

Z4136
一
104584-2
GC65
358
29131
G56
T
(II)

文久元酉年調繼

御府內往還其外沿革圖書 三

發行所寄贈本

目錄

番町之內

一、田安御門前ゟ三番町通北側裏四番町通南側之部
一、牛込御門內裏四番町通北側土手通迄之部
一、表六番町通北側四番町土手通市谷御門內之部
一、東之方御堀端壹番町邊ゟ西之方法眼坂通迄之部
一、半藏御門外麹町大通北側御堀端壹番町ゟ裏貳番町通迄之部
一、表六番町通南側法眼坂通西側裏貳番町北側麹町七丁目横町通迄之部

迄之部

一、裏貳番町通南側麹町大通を限同四丁目横町通迄之部
一、四谷御門內麹町大通北側同七丁目横町通を限九町目横町通迄之部

75W05259

文化五辰年

番町之内

田安御門前火除明地ゟ西之方三番町通大島雲九郎屋鋪西脇通有來道式限北之方裏四番町通南側東之方石谷隼人屋鋪邊迄

屋鋪々並道式共

右地所者、延寶之頃ゟ元祿九子年迄、田安御門前通一段引下り火消御役屋鋪ニ有之、四方道式有之、（御廣道ニ有之。）西之方道向當時三番町通有來道式折廻角阿部越中守・北續田村助太夫・越中守西續三番町通道之側大橋新五左衞門・油川五郎太夫・齋藤久右衞門・三宅彌次兵衞・阿部伊勢守屋敷ニ有之、助太夫西續四番町通有來道之側高木彌市郎・山角六郎右衞門・雨宮勘兵衞・田中宇右衞門・小幡太郎左衞門、都合拾貳人屋鋪地續一纏ニ有之、四方道式有之、西之方道向三番町通道之側島次左衞門・小菅又八郎、四番町通道之側內藤七次郎・服部久右衞門屋鋪ニ有之、西之方屋鋪續有之、且前書火消御役屋鋪北之方道向酒井土佐守其外屋敷續有

之、西南東三方道式ニる、西之方道向菅沼三五郎・本郷庄三郎・青木角太夫・中島權左衞門・菅沼藤十郎、北之方屋鋪續ニる、西南東三方道式有之、西之方道向五味金右衞門・島藤左衞門・服部又次郎・梶川庄右衞門・小笠原傳一郎、右五人屋鋪地續一纏、四方道式有之、西之方道向都る屋鋪續有之。

一、元祿十丗年半藏御門外ゟ北之方御堀端通田安御門外元飯田町鶸木坂邊迄御用地被召上、廣場ニ成、其節右火消御役屋鋪初メ前書名面屋鋪々々都合貳拾八人分、此場所ニる被召上、廣場ニ成、同年十二月右廣場內西之方三番町通道之側齋藤瀨兵衞・北續關根左太夫・飯高新太郎・西續宇都野作右衞門、同所北之方道向ゟ裏四番町通有來道式迄之內、矢島五左衞門・加茂宮万五郎・牧野半三郎、都合七人屋敷被下之。

一、元祿十一寅年九月前書廣場內、右七人屋鋪東續南之方坂部三十郎・北續稻生下野守屋鋪被下、下野守北通ゟ道式出來、右道式ヲ隔、北之方ニる前田長十郎屋鋪被下、右三人屋鋪西之方三番町通ゟ裏四番町通ゟ續南北筋違之新道出來、且長十郎東續南之方間宮采女・北續新見傳兵衞・鈴木源左衞門屋鋪被下、殘地所之內、田安御門前ゟ三番町通道之側新規馬場壹ヶ所出來、四方小土手ニ成、圍外四方道式ニ成、右道式東之方ゟ北後ロ之方ゟ折廻、當時火消御役屋鋪前之方迄廣道ニる有之、（此火消御役屋鋪之澤牛込御門內ゟ土手四番町邊之部ニ記有之。）同十二卯年六月前書稻生下野守・坂部三十郎屋鋪上り、割屋敷ニ成、下野守上ケ地內永井清太夫・井戶又十郎・大平彌五兵衞・有田縫殿頭・久保源兵衞、右五人屋鋪被下、三十郎上ケ地內大橋左兵衞・久松太左衞門屋鋪被下、西續割殘明地有之。

一、元祿十四巳年二月前書田安御門前馬場圍北之方廣道內、東之方岩間、久五郎・淺羽市右衞門・西續松平豐前守右三人屋鋪被下、地續一纏ニる

四方道式ニ成、豐前守屋鋪北續之所廣道ニ有之。同十六未年八月前書坂部三十郎上ヶ地割殘明地內東曆屋敷渡之、殘地所同十七申年三月竹村權左衞門屋敷被下、其後此邊屋鋪主代り候所も有之。

一、寶永七寅年之頃、田安御門前馬場取壞ニ成、馬場跡之內同年三月西之方南角平岡和泉守・東續安藤信濃守屋敷被下、同年五月信濃守東續田安御門前迄之內、松野壹岐守・松平內膳正・大岡土佐守屋鋪被下、土佐守・內膳正北續東角西尾久四郎・西續長田次右衞門・間宮新八郎屋鋪被下、同八卯年之頃前書四番町通之方前田長十郎屋鋪者、又五郎代之節上ヶ地ニ成、同年二月割屋鋪ニ成、芝山平九郎・早川平四郎・打越次右衞門・山中忠左衞門・大森三郎四郎・九鬼左兵衞・松田孫次郎・小花和太兵衞、右八人屋鋪被下之。

一、享保九辰年正月此邊屋敷々類燒後、前書平岡和泉守屋鋪并西之方道

向大橋平左衞門（先左兵衞）・永井清太夫・武藤五郎兵衞（先又十郎）・齋藤庄左衞門（先主大平彌五兵衞）・有田忠右衞門（先縫殿頭）・右七人屋鋪御用地被召上、明地貳ヶ所出來、西之方明地內新規馬場壹ヶ所出來、同所北續四番町通道式ヲ隔、打越左太夫（先次右衞門）・早川十兵衞（先平四郎）・小花和伊織（先太兵衞）・同所西續道式ヲ隔、大久保幸三郎（先主矢部五左衞門）・森友益（先主加茂宮万五郎）・北條安房守（先主牧野半三郎）・都合六人屋鋪被召上、明地貳ヶ所出來、西之方明地內新規馬場壹ヶ所出來、同十二未年十二月東之方明地內四番町通道之側東角小南大助拜借地ニ成。

一、享保十四酉年類燒後、同年二月田安御門前大岡右近（先土佐守）屋鋪并北續稻垣大隅守（先主西尾久四郎）・同續道向長谷川與左衞門（元岩間久五郎）・淺羽右近（先市右衞門）・右四人屋鋪御用地被召上、跡有來道式共廣道ニ成。

一、享保十七子年閏五月右廣道西側松平內膳正屋敷ゟ同續長田金左衞

門先次右衛門・神谷武右衛門先主間宮新八郎・松野豐後守先壹岐守・安藤出羽守先信濃守・右五人屋鋪御用地被召上、跡明地ニ成、同十八丑年十一月前書四番町通明地内小南大助拜借地西續ニる、永井九右衛門屋鋪被下之。

一、元文二巳年四月右四番町通明地内西之方馬場有之場所引下り、有來道式共廣道ニ成、殘明地割屋鋪ニ成、荒川數馬・黒田甚九郎・松平又十郎・橋本外記・加茂宮勘解由・高井主水・松崎求馬、右七人屋鋪被下、其節明地間有來道式も取壞ニ成、前書廣道ゟ外記數馬屋敷間々又十郎屋鋪前北之方ゟ折廻、裏四番町通ゟ續道式出來、且前書田安御門向之方廣道内同所明地附之場所、右明地内ゟ圍入ニ成、北續新規明地壹ヶ所出來、四方道式ニ成、其節右御門前一躰之明地、壹番ゟ四番迄之番附出來、壹番貳番明地間々南北ゟ之新道出來、此明地番附田安御門前壹番明地ニ而、西續貳三之明地、新規出來之明地者四番ニ有之。右貳番明地内西之方ニる新規馬場壹ヶ所出來、四番明地之内東之方道之側北角之所引下り、同所廣道内ニ成、同三午年三月三番明地内西之方北角之所丸毛一學屋鋪被下、同年六月同所南續内藤友次郎屋鋪延享二丑年壹番貳番明地間々新道左右之場所、御藥草植場地所小普請方ゟ渡、其後右新道も年月不知藥草植場内ニ成、殘地所矢張明地ニる、御藥草植場共同五辰年ゟ向寄大名ゟ御預ケニ成。

一、寶曆六子年九月貳番三番明地内松平民部少輔屋鋪被下、有來馬場貳ケ所并間々道式共同人屋鋪内ニ成、南續者矢張明地ニ有之、民部少輔屋鋪東通ゟ道式附替、同年十月直ニ上ケ地ニ成、如最前明地ニ成、道式も如元附替、西之方ニる乘込馬場壹ケ所出來、且前書御藥草植場外廻明地、同八寅年ゟ同十二午年迄之内、追々右御藥草場添地渡之、同十三未年四番明地者一圓御勘定所ゟ渡之、人參製法所ニ成、其外屋鋪主代

り候所も有之、寛政元酉年御藥草植場西之方明地内ニ成、近藤左京拜借馬場出來。

一、寛政三亥年三月右御藥草植場并人參製法所共一圓、一橋中納言殿屋鋪被進之。

一、寛政四子年近藤左京拜借馬場、右屋鋪内ゟ圍込ニ成、西續明地者其儘有之、同年七月此邊屋敷々類燒後、同九月一橋殿屋鋪初メ西續明地末之方黒川與市元久保源兵衞・丸毛肥後守先一學屋鋪并同所北之方道向四番町廣小路東側永井主膳先九右衞門・荒川數馬・横地太郎兵衞元橋本外記・加茂宮六郎右衞門先勘解由・野本富五郎元高井主水・松崎求馬、都合九軒屋鋪御用地被召上、火除明地四ケ所出來、右明地之内四番町廣小路明地者、西之方廣道之側北之方ゟ筋違ニ引下り、同所廣道内ニ成、且前書田安御門外明地内元人參製法所跡之邊、東之方道之側石谷肥前守當時肇人・西續飯田能登守當時大夫郎

兩人屋鋪被下、南脇通ゟ能登守屋敷前通ゟ折廻、有來道式ゟ續新道出來、其外屋鋪主代り候所も有之。

一、寛政六寅年三月田安御門外火除明地西之方有來道式并馬場等迄一圍ニ成、四方ゟ小土手出來、諸向大的稽古場ニ成、西之方ゟ道式附替、同續明地内ゟ新規乘込馬場壹ケ所出來、當時三番町馬場。同十午年四月右明地内桑山鎌橋屋鋪被下、同十二申年同所北之方四番町廣小路火除明地貳ケ所共、澁江長伯御預り御藥園ニ成、享和元酉年三月御藥園間々東西ゟ有來道式御藥園内ゟ圍込ニ成、東之方菅沼伊豫守屋鋪前ゟ四番町通りゟ續道式附替、文化二丑年右御藥園長伯一手持御預り地渡之、向寄大名御預者相止、其外屋敷主代り候處も有之。

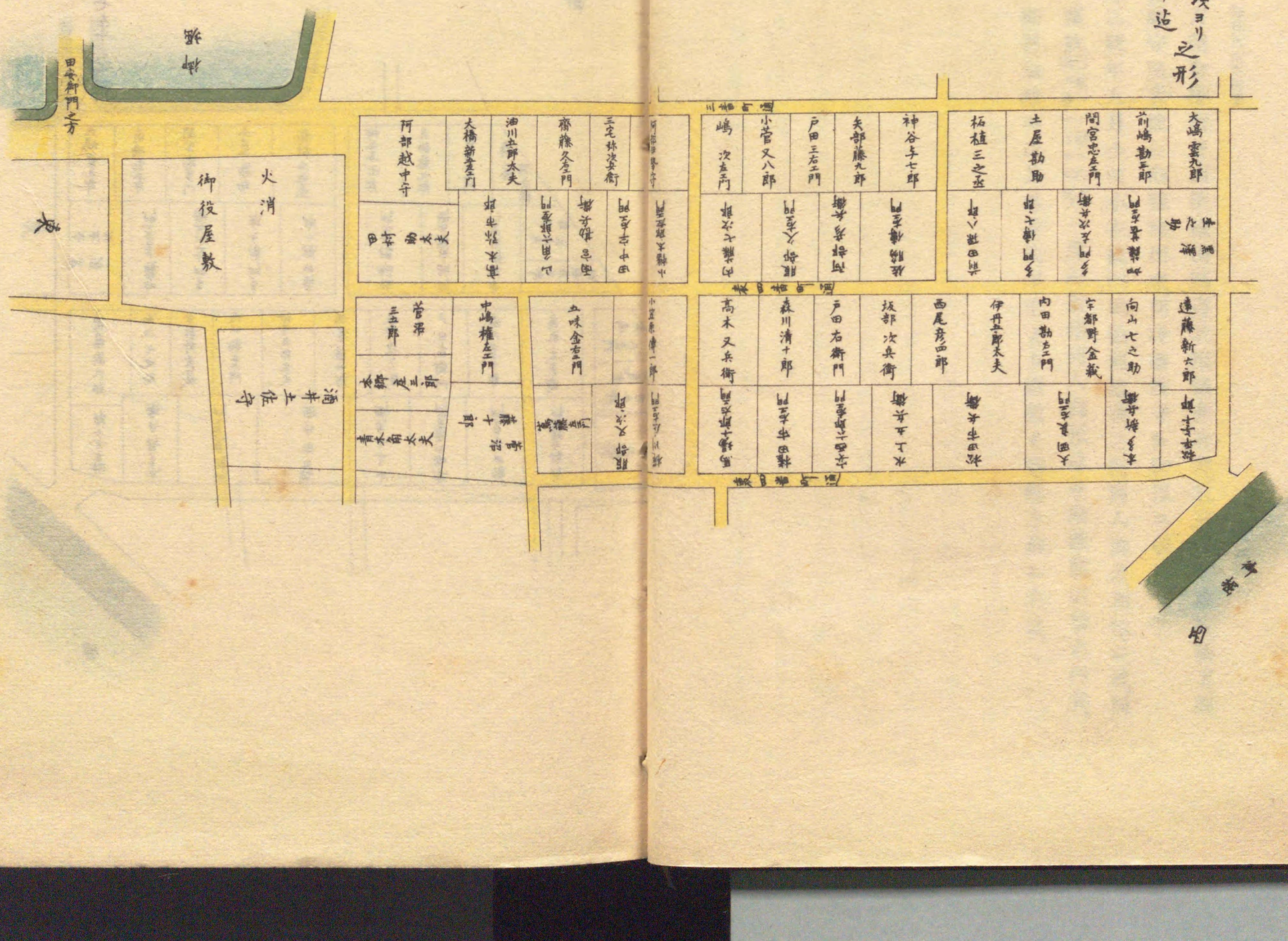
一、天保六未年十月前書澁江長伯御預御藥園并西之方廣道之内相加、東

南之方朝倉播磨守・西續織田圖書・北續城秀次郎、右三人屋敷ニ被下、前書播磨守屋敷後ゟ割殘地出來、同時播磨守ゟ御預ニ成。

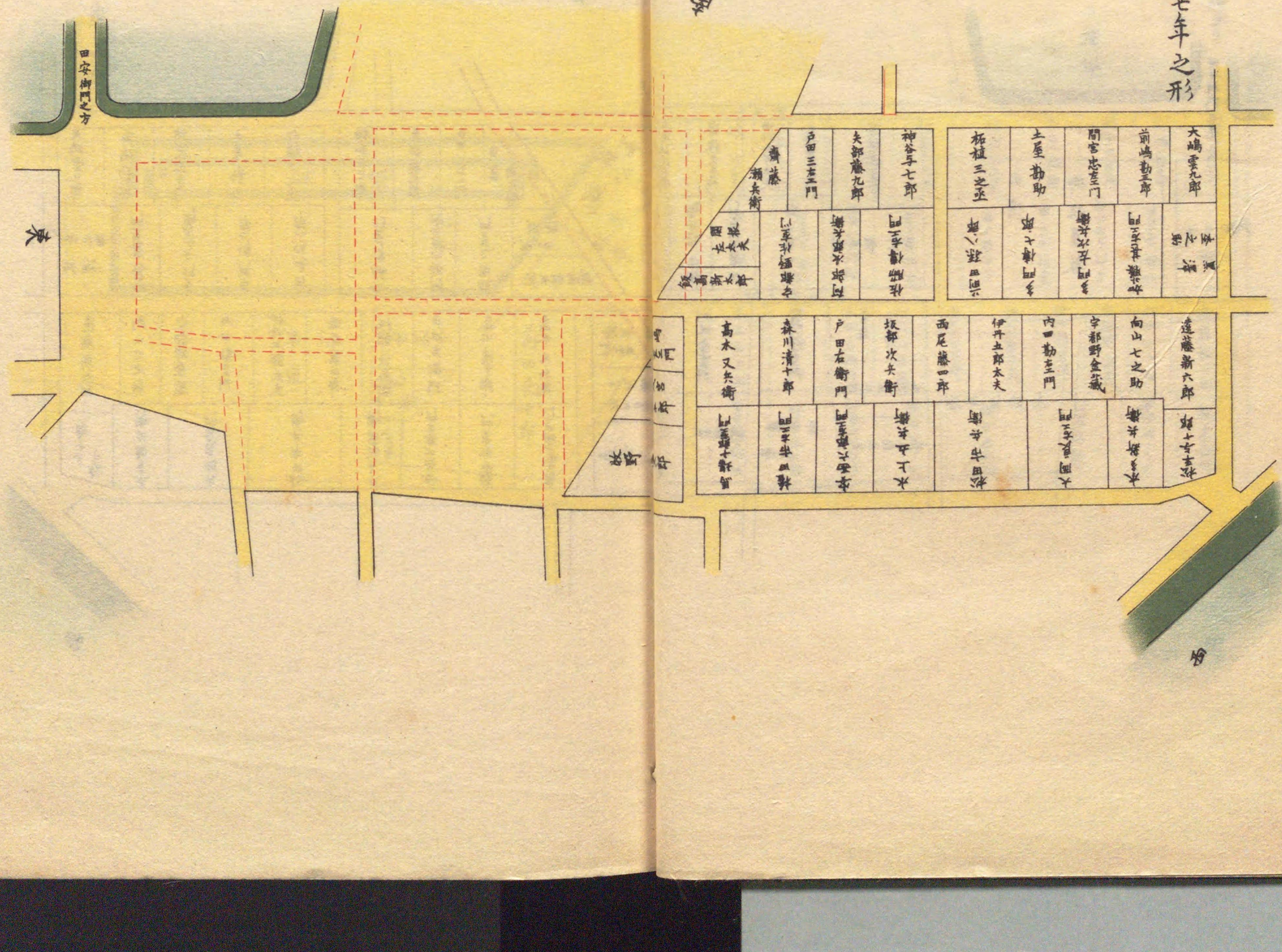
一、安政三辰年九月小田小左衛門屋敷前道敷之内、同人御差加地ニ成、同所内藤欽〇欽、一ニ歡ニ作ル、一郎屋敷續同人御預地并屋敷前道敷之内共、同人御差加地ニ成、其外安政年中より道敷も當時之形ニ有之。

延宝貞之頃ヨリ之形
元禄九子年迄

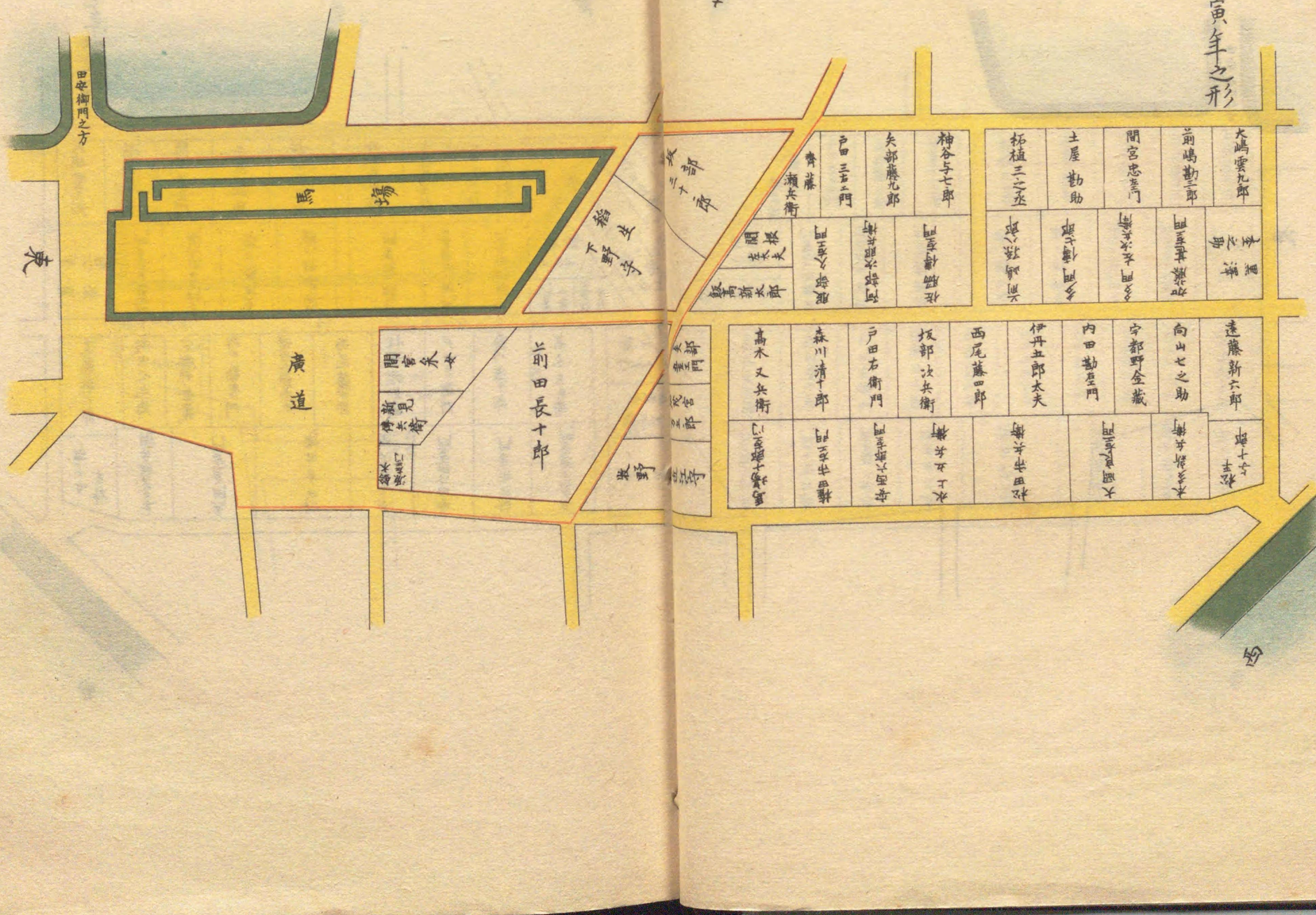
凡例



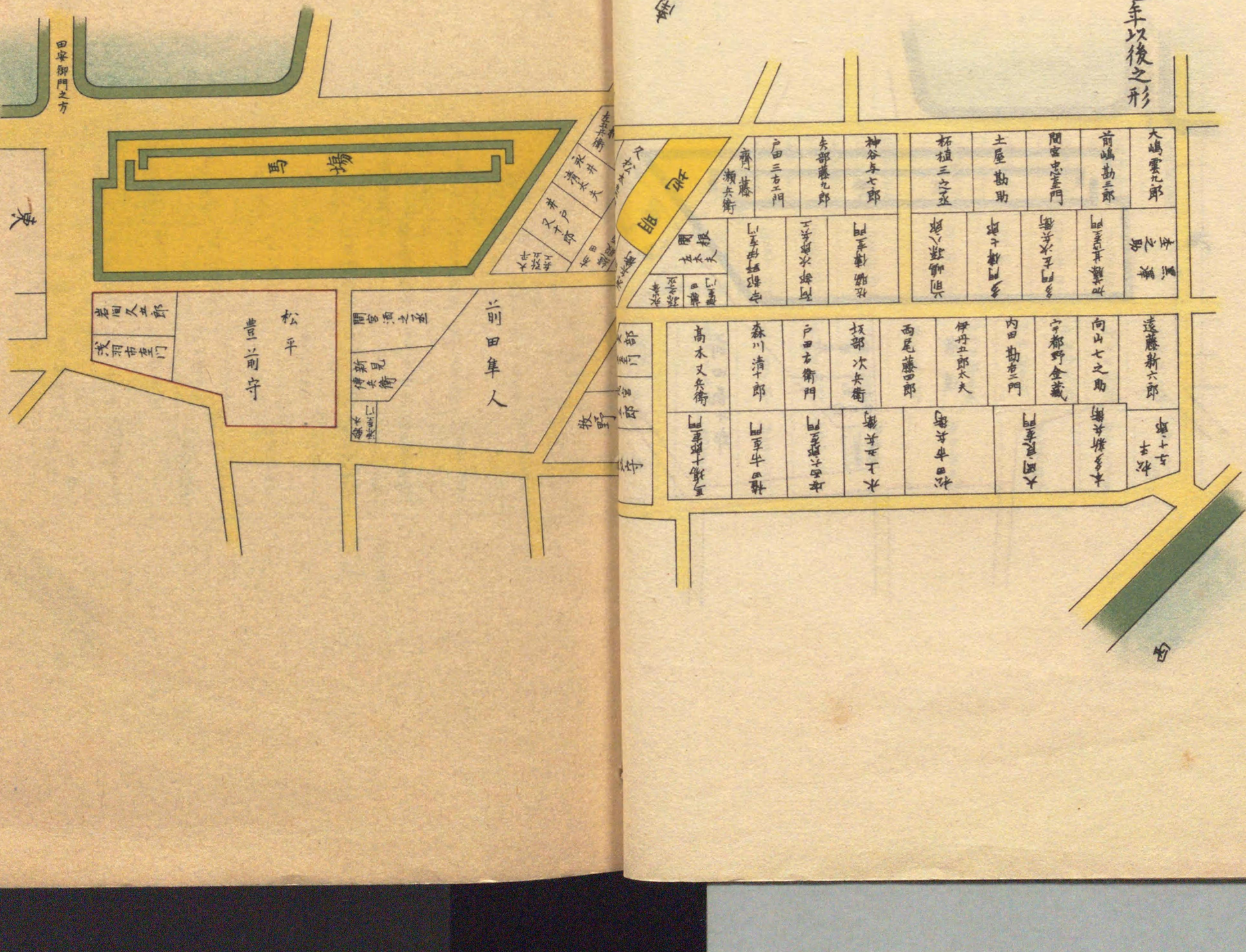
元禄十七年之形


南
大嶋雲九郎
前嶋勘三郎
間宮忠左エ門
助屋勘七
柘植三之丞
神谷与七郎
夫部藤九郎
戸田三左エ門
遠藤新六郎
向山七之助
宇都野金蔵
内田勘左エ門
伊丹五郎太夫
西尾藤四郎
坂部次兵衛
戸田右衛門
森川清十郎
高木又兵衛
田安御門之方
北

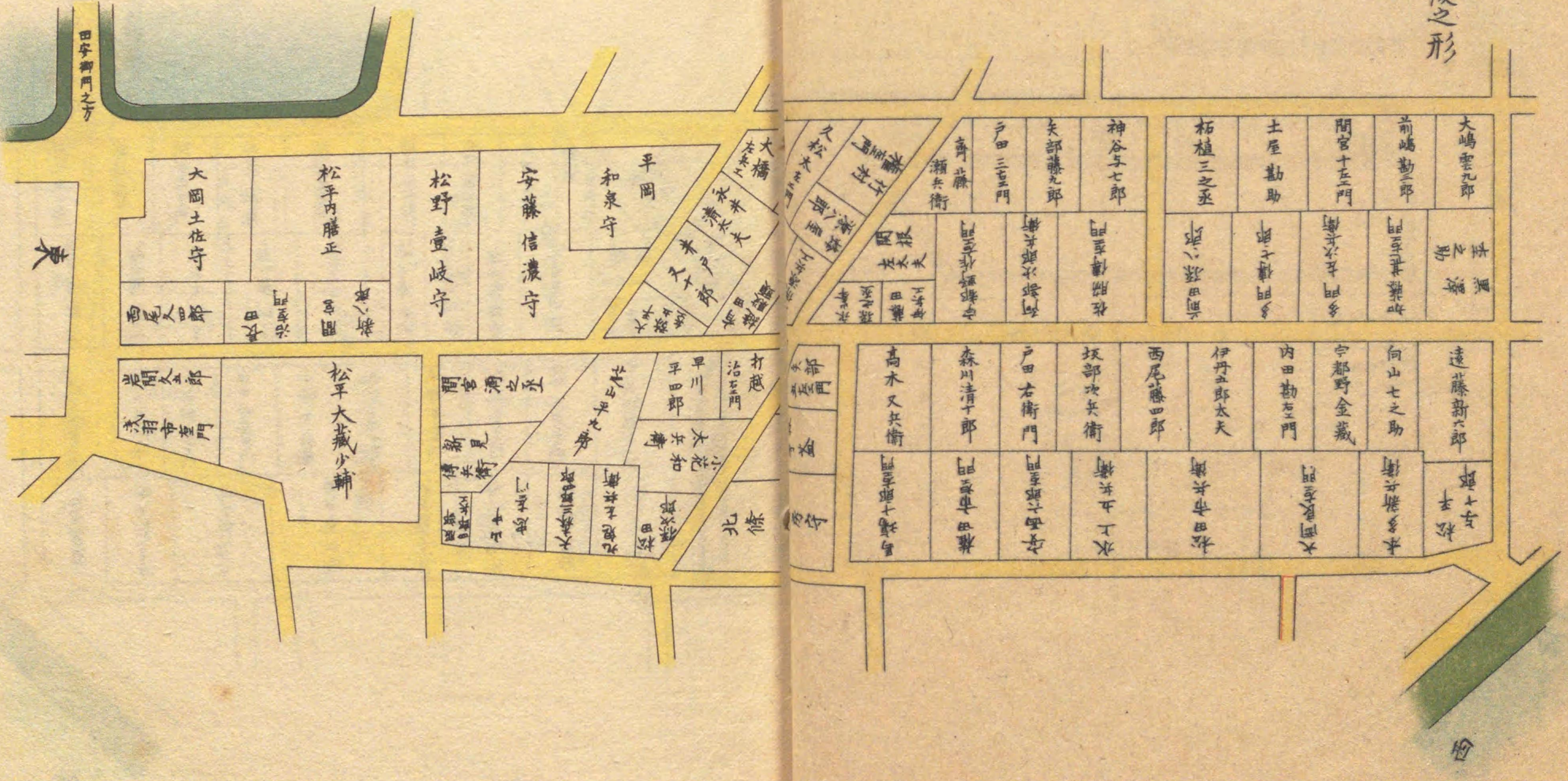
元禄十一寅年之形


大嶋雲九郎
前嶋勘三郎
間宮忠左門
土屋勘助
柘植三之丞
向山七之助
遠藤新六郎
内田勘左門
宇都野金蔵
伊丹五郎太夫
西尾藤四郎
坂部次兵衛
戸田右衛門
森川清十郎
高木又兵衛
神谷与七郎
矢部藤九郎
戸田三右ヱ門
青藤瀬兵衛
廣道
前田長十郎
田安御門之方

元禄十四巳年以後之形


馬場
田安御門之方
松平豊前守
前田隼人
戸田三右エ門
神谷与七郎
大嶋雲九郎
前嶋勘三郎
間宮忠左門
土屋勘助
杤植三之丞
向山七之助
遠藤新六郎
内田勘右ヱ門
伊丹五郎太夫
西尾藤四郎
戸田右衛門
森川清十郎
高木又兵衛

寶永七八年以後之形


田安御門之方
東
西
大岡土佐守
松平内膳正
松野壹岐守
安藤信濃守
平岡和泉守
松平大蔵少輔
北條
大嶋雲八郎
前嶋勘三郎
土屋勘助
柘植三之丞
神谷与七郎
矢部藤九郎
齋藤瀬兵衛
遠藤新六郎
向山七之助
宇都野金蔵
内田勘左衛門
西尾藤四郎
戸田右衛門
森川清十郎
高木又兵衛

享保九辰年以後之形

東

大嶋平十郎　前嶋三郎左門　間宮忠左門　土屋勘助　柘植甚左門

神谷与七郎　矢部藤九郎　戸田金平　曲淵平次郎

遠山三兵衛　安藤伊勢守　松野八郎兵衛　松平内膳正　大岡土佐守

明地

馬場

遠藤新六郎　向山七之助　本多清兵衛　三宅弥次郎　宇都野金左門　四中市郎左門　小林九兵衛　坂部市左門　西尾藤四郎　松波平左門　藪三郎左門　中嶋次郎左門

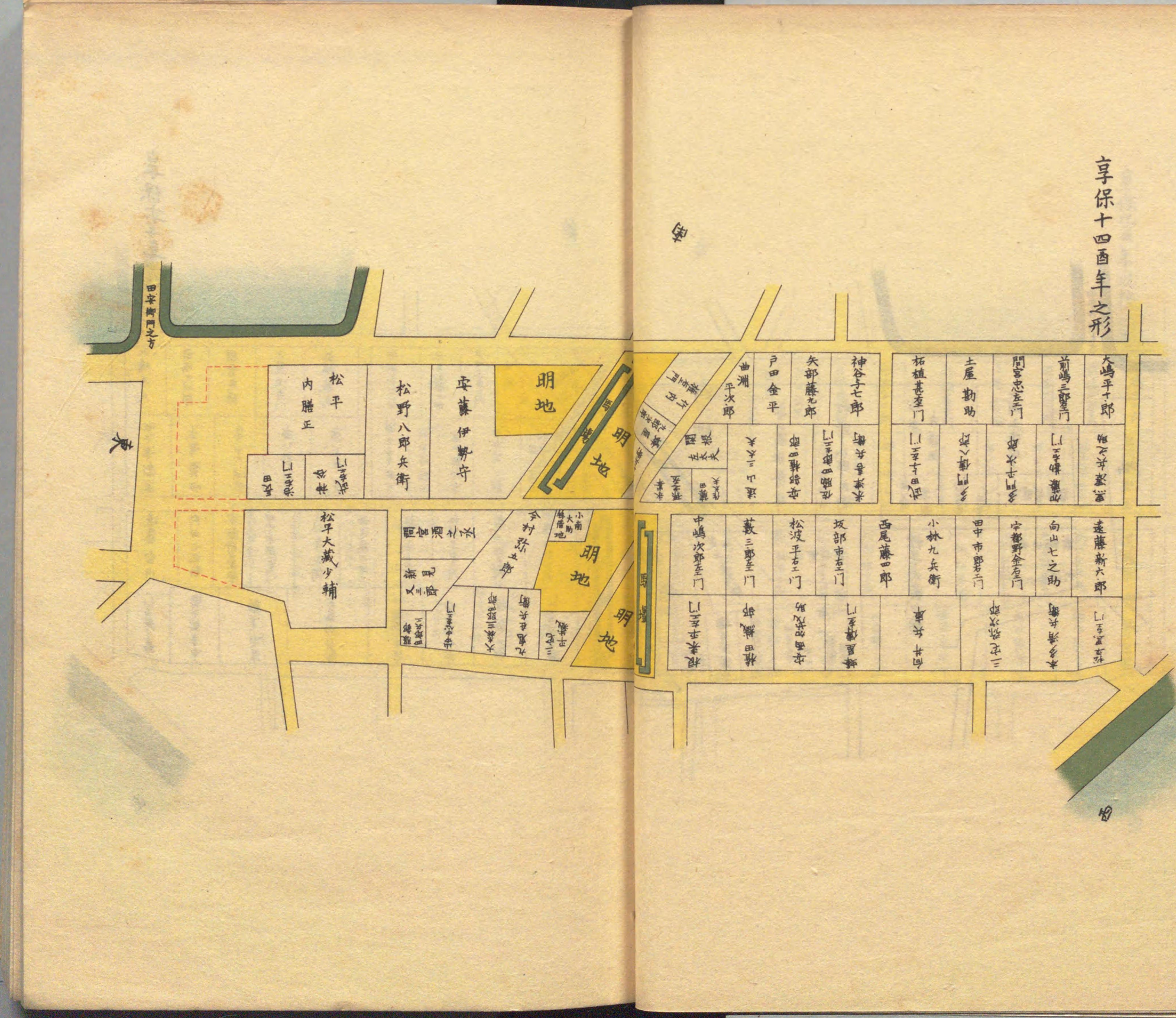
明地

松平大蔵少輔

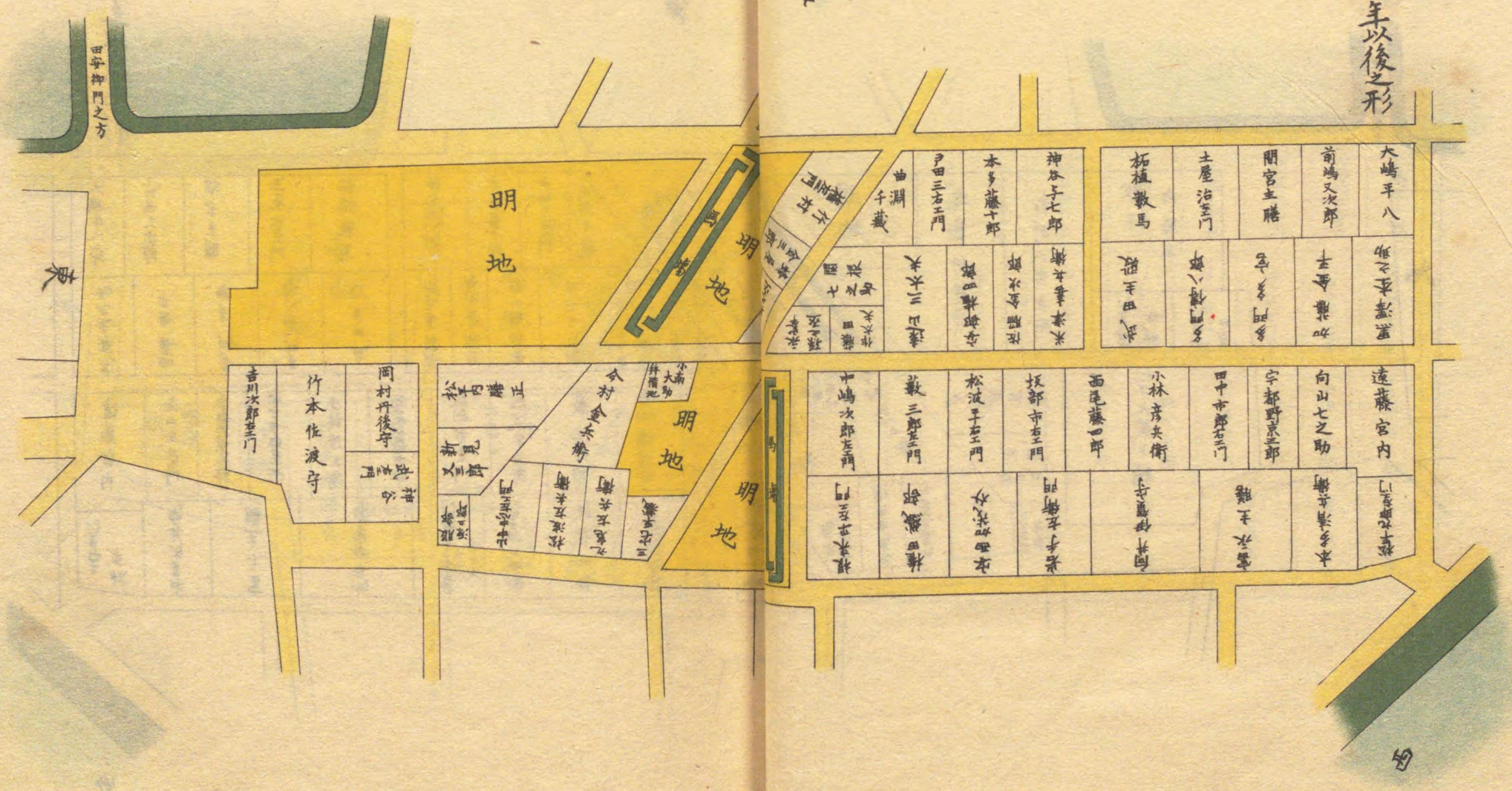
田安御門之方

南

享保十四酉年之形

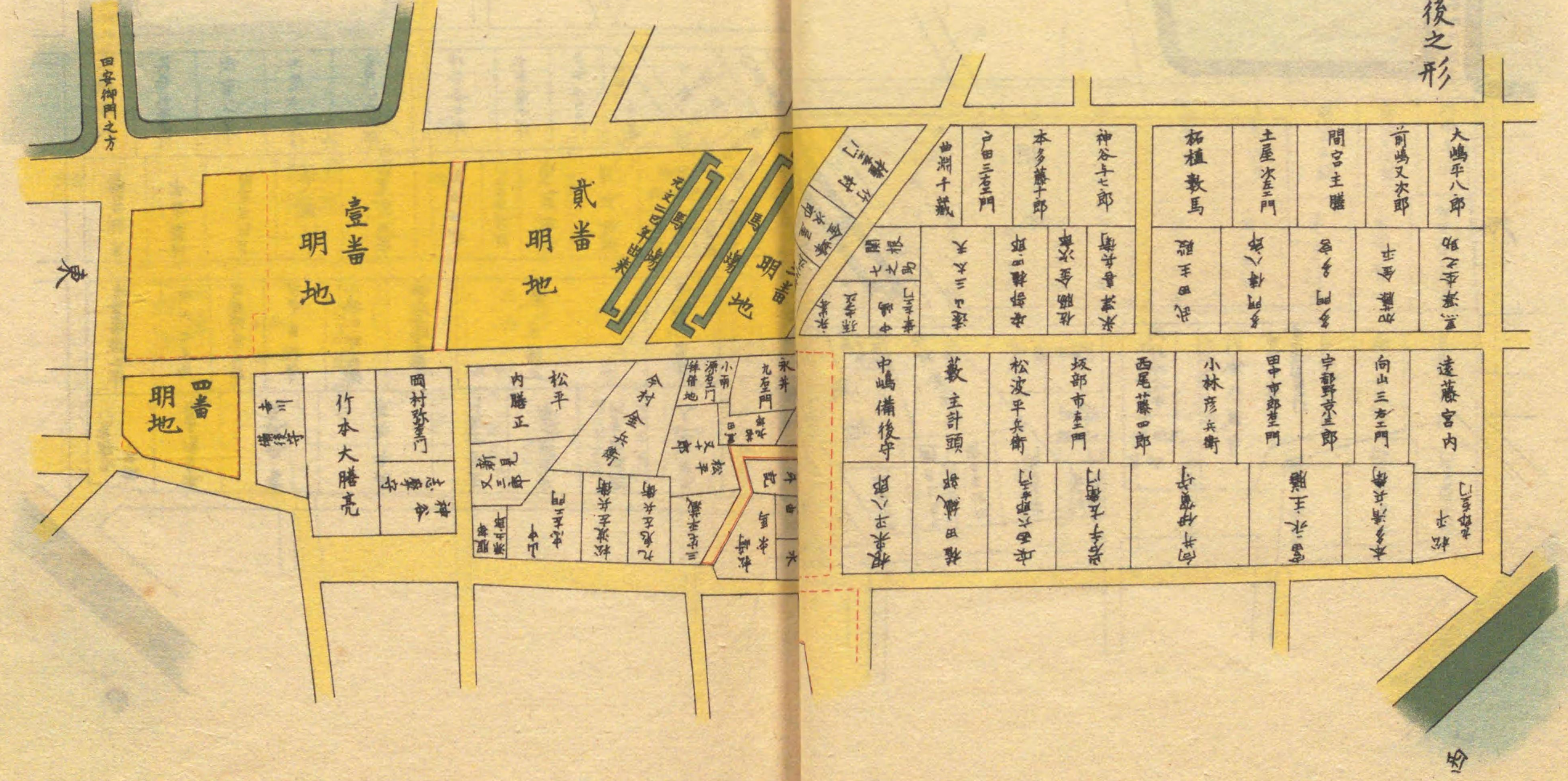

田宅御門之方
明地
松平内膳正
松野八郎兵衛
安藤伊勢守
松平大蔵少輔
神谷十七郎
矢部藤九郎
戸田金平
曲淵平次郎
大嶋平十郎
前嶋三郎左門
間宮忠左門
土屋勘助
柘植甚左門
遠藤新六郎
向山七之助
宗都野金左門
田中市郎兵衛
小林九兵衛
西尾藤四郎
坂部市左門
松波平右エ門
蔵三郎左門
中嶋次郎左門

享保十七子年以後之形

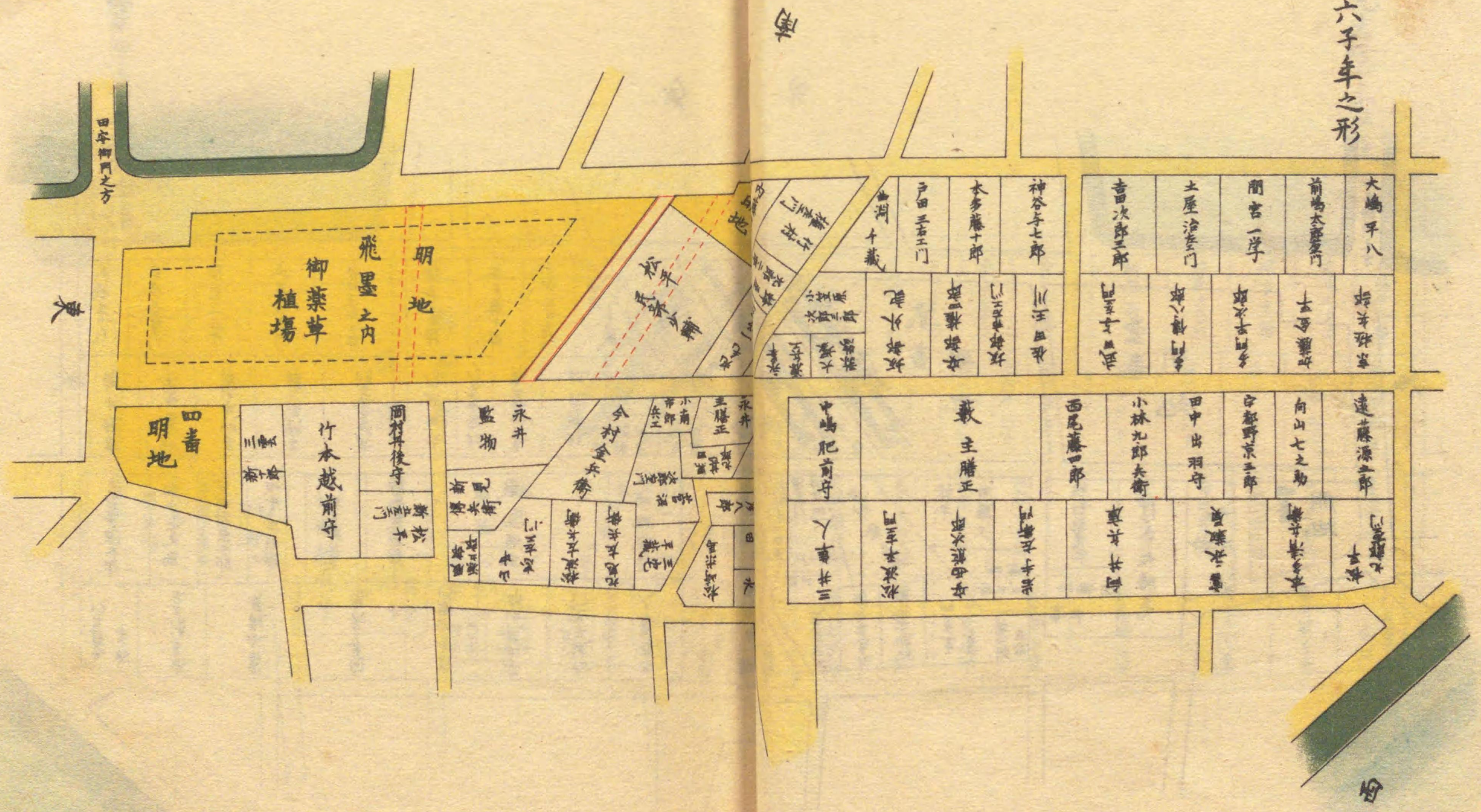


田安御門之方
東
西
明地
明地
明地
明地
大嶋平八
前嶋又次郎
間宮主膳
柘植数馬
神谷千七郎
本多藤十郎
遠藤宮内
向山七之助
小林彦兵衛
西尾藤四郎
中嶋次郎左衛門
岡村丹後守
竹本佐渡守
今村金兵衛

元文二巳年以後之形

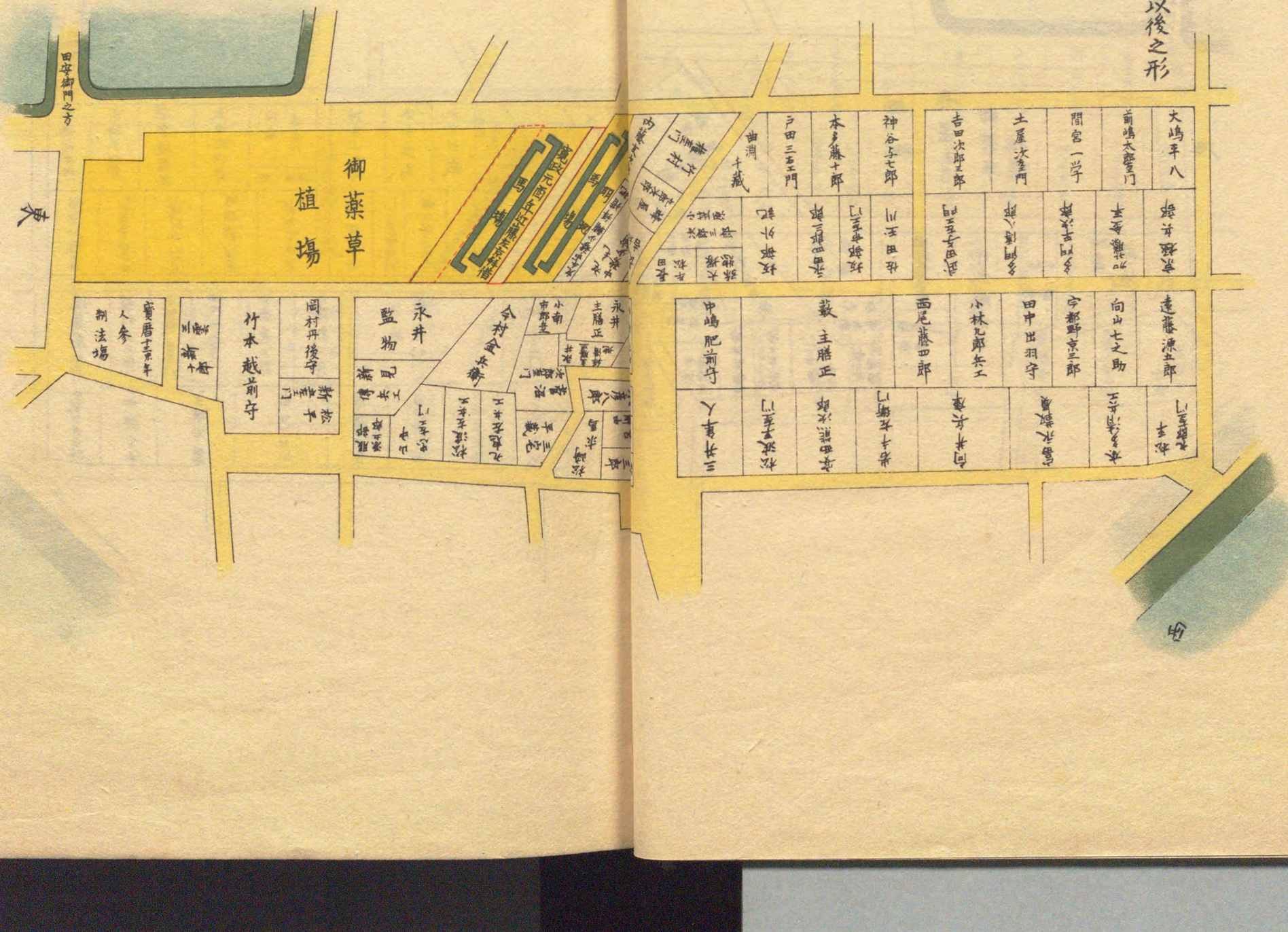

田安御門之方
東
西
壹番明地
貳番明地
四番明地
大嶋平八郎
前嶋又次郎
間宮主膳
柘植數馬
神谷十七郎
本多藤十郎
曲淵千藏
遠藤宮内
小林彦六衛
西尾藤四郎
松波平兵衛
藪主計頭
中嶋備後守
竹本大膳亮
松平内膳正
今村金兵衛

寶暦六子年之形

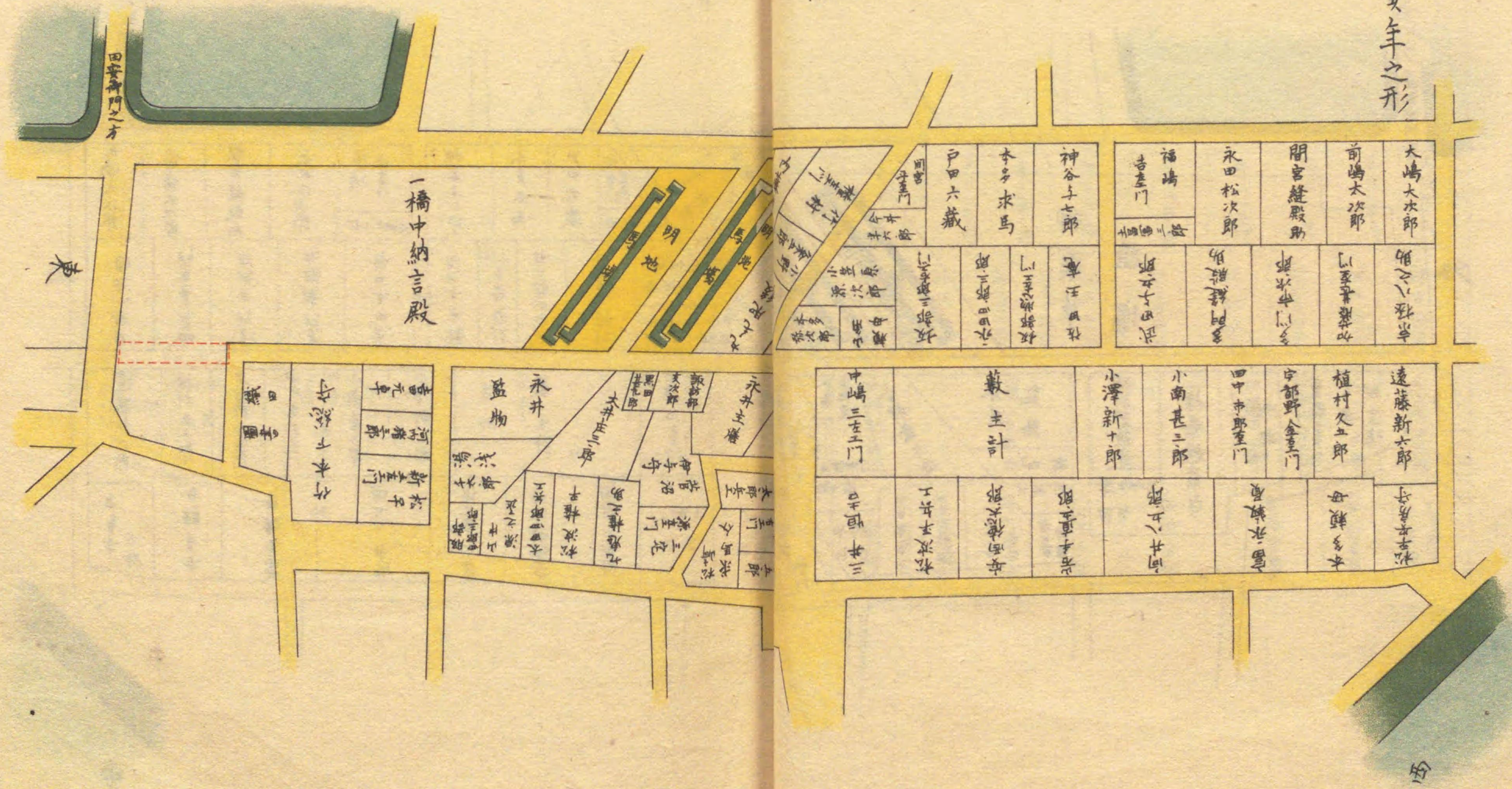


東
田安御門之方
明地
飛墨之内
御薬草植場
四番明地
竹本越前守
岡村肥後守
永井監物
今村金兵衛
大嶋平八
間宮一学
土屋治左衛門
吉田次郎三郎
神谷平七郎
本多藤十郎
遠藤源五郎
向山七之助
小林九郎兵衛
西尾藤四郎
田中出羽守
主膳正
中嶋肥前守

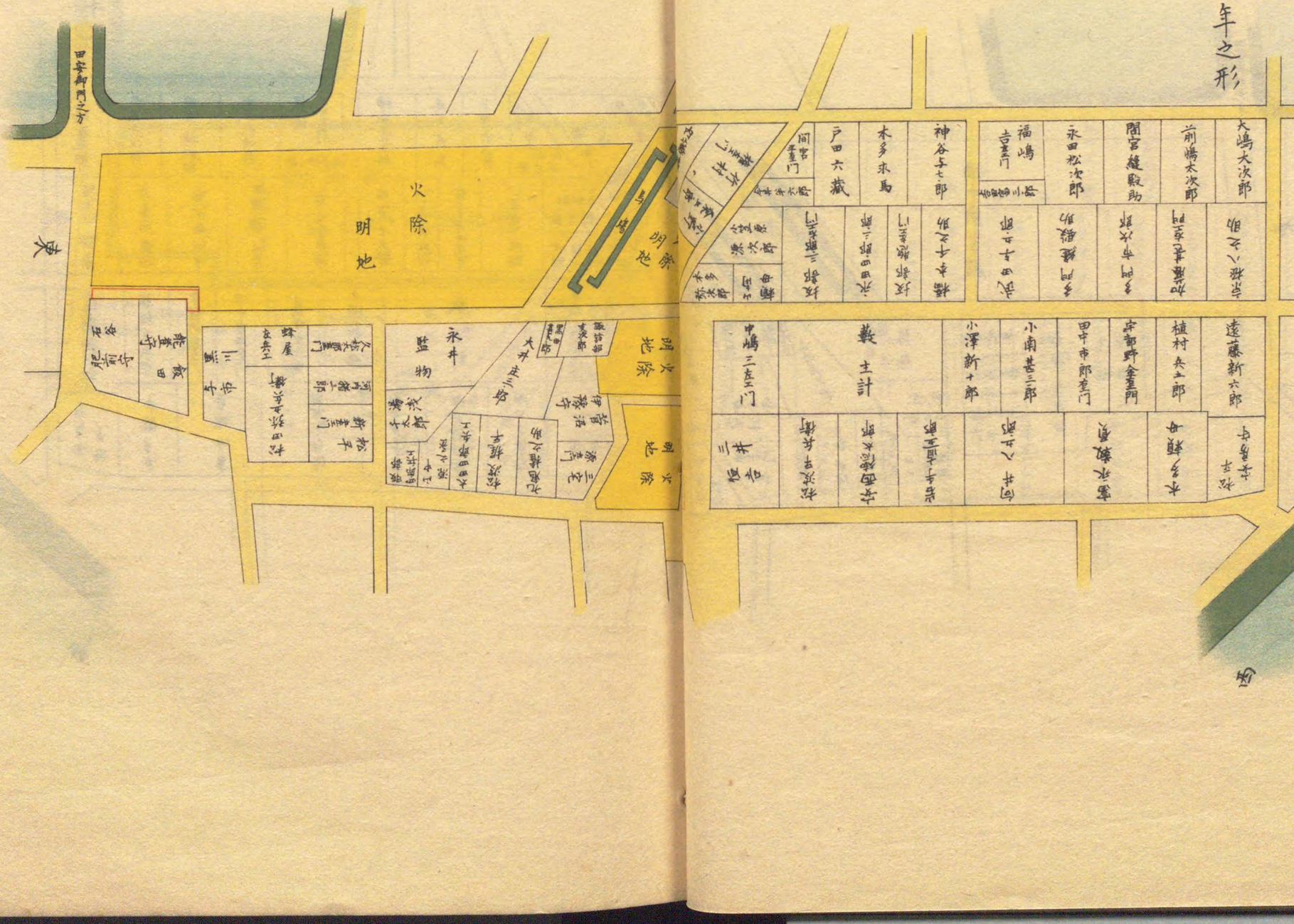
寶暦六子年以後之形


御薬草植場
田安御門之方
大嶋平八
前嶋太壁門
闇宮一学
土屋次左門
吉田次郎左衛門
遠藤源五郎
向山七之助
宇都野京三郎
田中出羽守
小林九郎左エ
西尾藤四郎
主膳正
中嶋肥前守
三井集人
神谷七郎
本多藤十郎
戸田三五門
曲淵十蔵
永井監物
竹本越前守
岡村丹後守
暦算十二家人参制法場

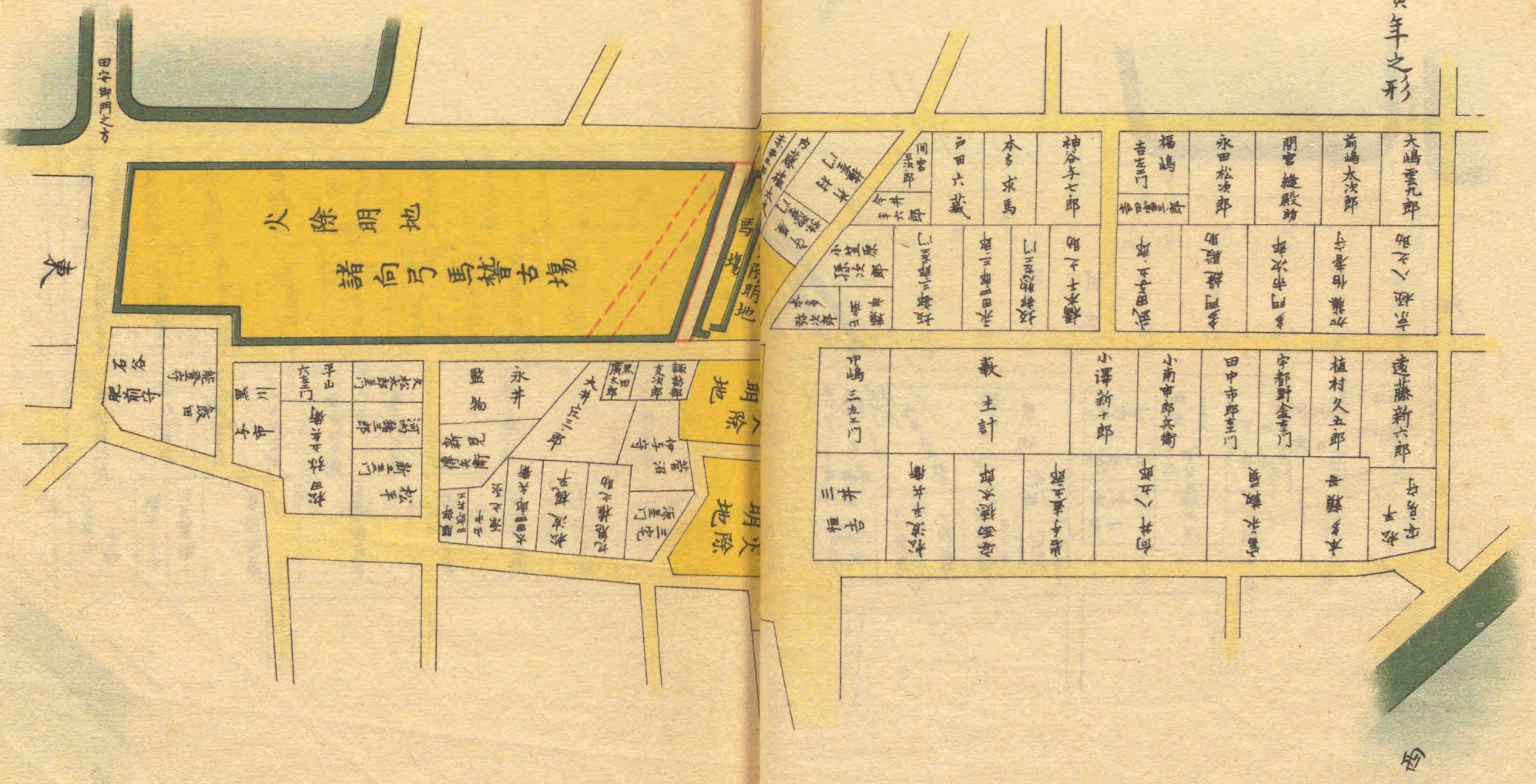
寛政三亥年之形


田安御門之方
一橋中納言殿
東
西
戸田六蔵
本多求馬
神谷千七郎
福嶋
永田松次郎
間宮縫殿助
前嶋太次郎
大嶋大次郎
永井監物
中嶋三左エ門
藪主計
小澤新十郎
小南甚三郎
植村久五郎
遠藤新六郎

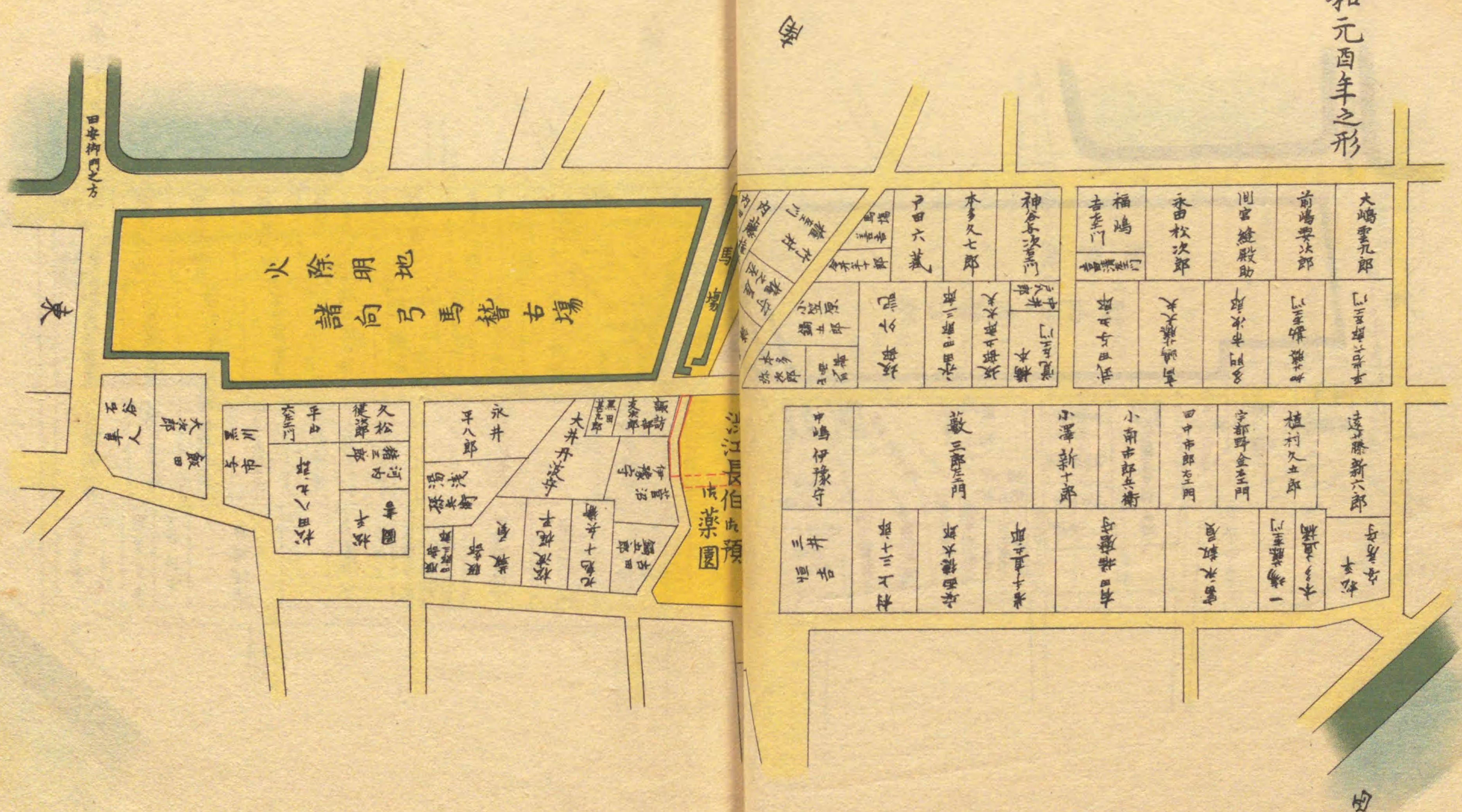
寛政四子年之形


田安御門之方
火除明地
永井監物
大久保三郎
遠藤新六郎
植村兵二郎
宇都野金五門
田中市郎左門
小南甚三郎
小澤新十郎
戸田六藏
本多来馬
神谷七郎

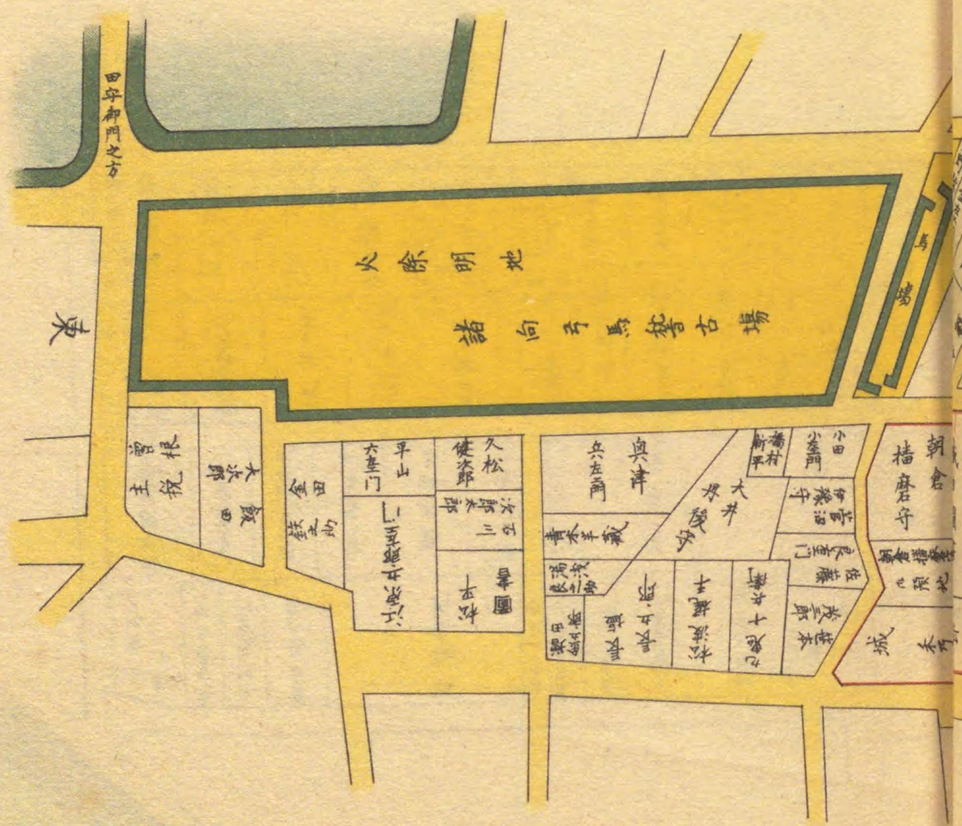
寛政六寅年之形

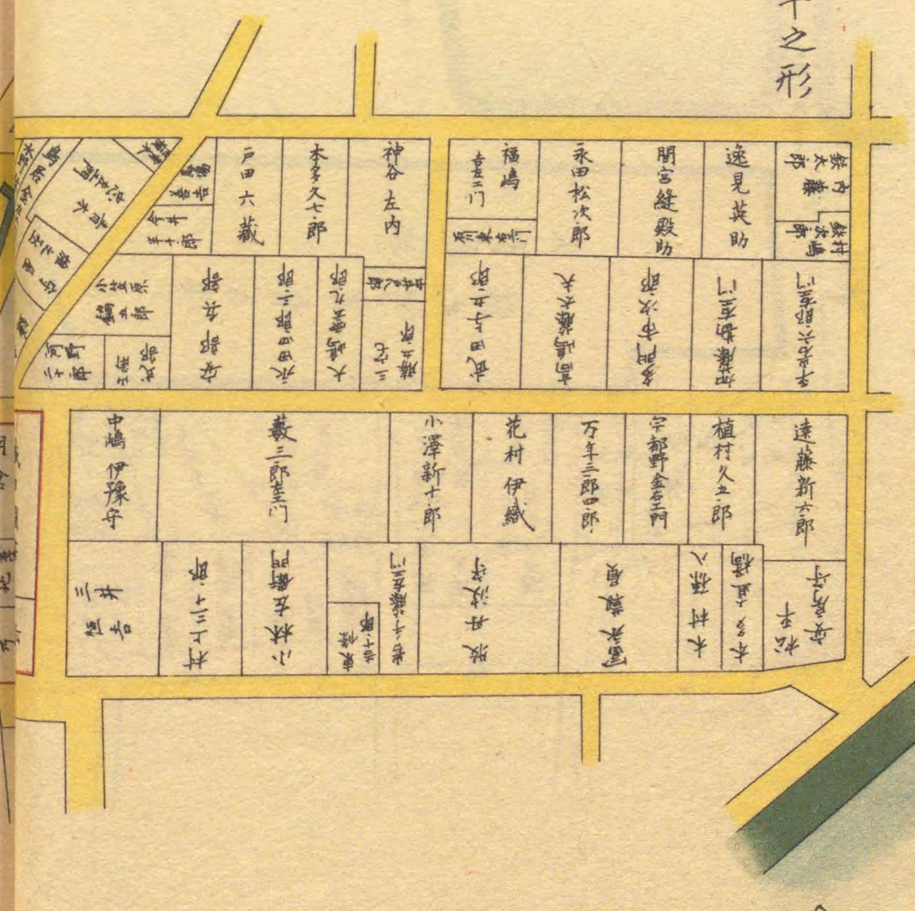

火除明地
諸向弓馬稽古場
東
西
大嶋雲九郎
前嶋太次郎
間宮縫殿助
永田松次郎
福嶋
本多求馬
戸田六蔵
遠藤新六郎
植村久五郎
小澤新十郎
主計
永井
火除明地
火除明地

享和元酉年之形

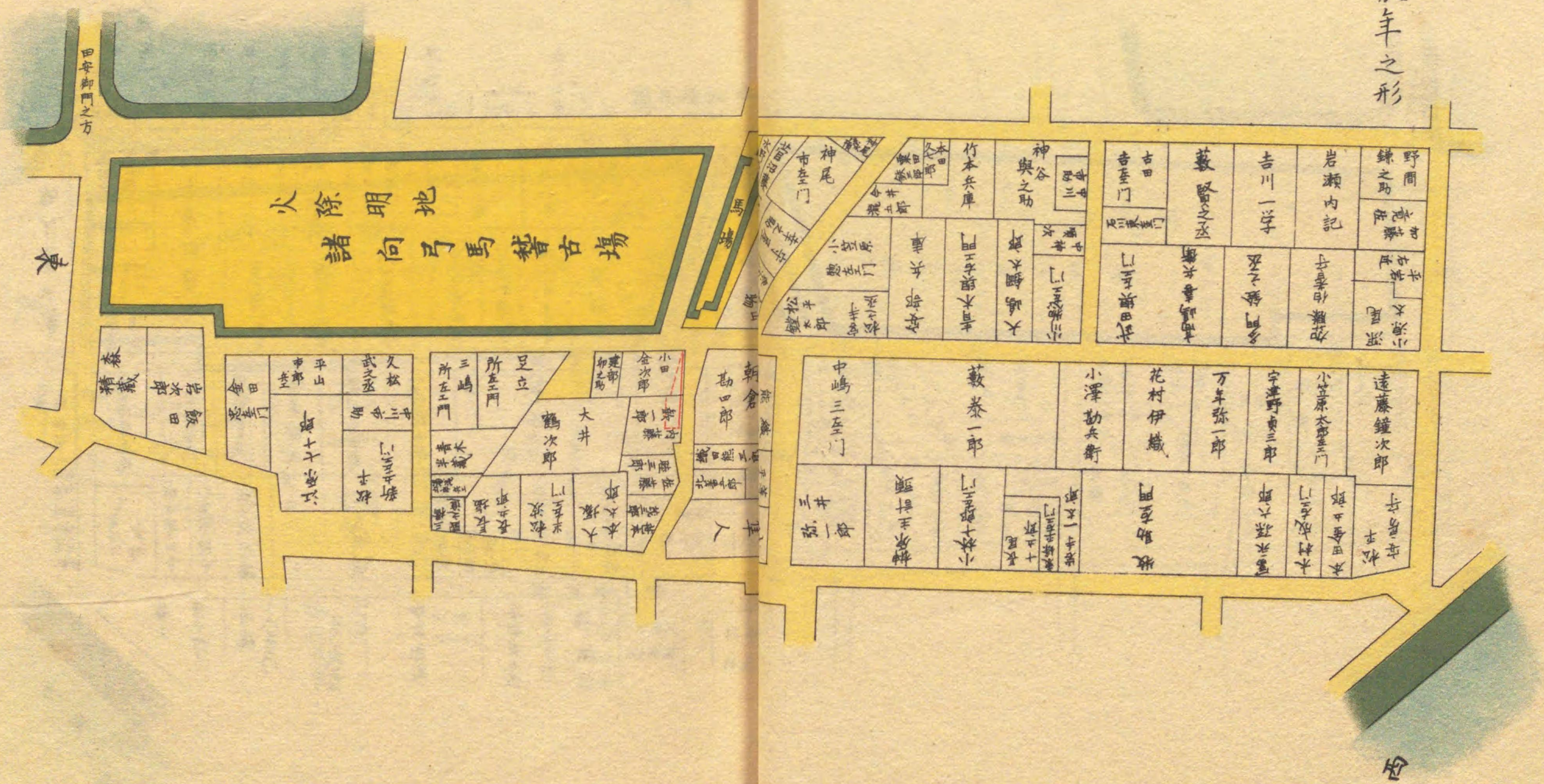

火除明地
諸向弓馬稽古場
東
大嶋雲五郎
前嶋要次郎
永田松次郎
福嶋吉左衛門
本多久七郎
戸田六蔵
遠藤新六郎
植村久五郎
宇都野金左衛門
田中市郎左衛門
小南市郎兵衛
小澤新十郎
中嶋伊豫守
御薬園
永井平八郎
三井

天保六未年之形

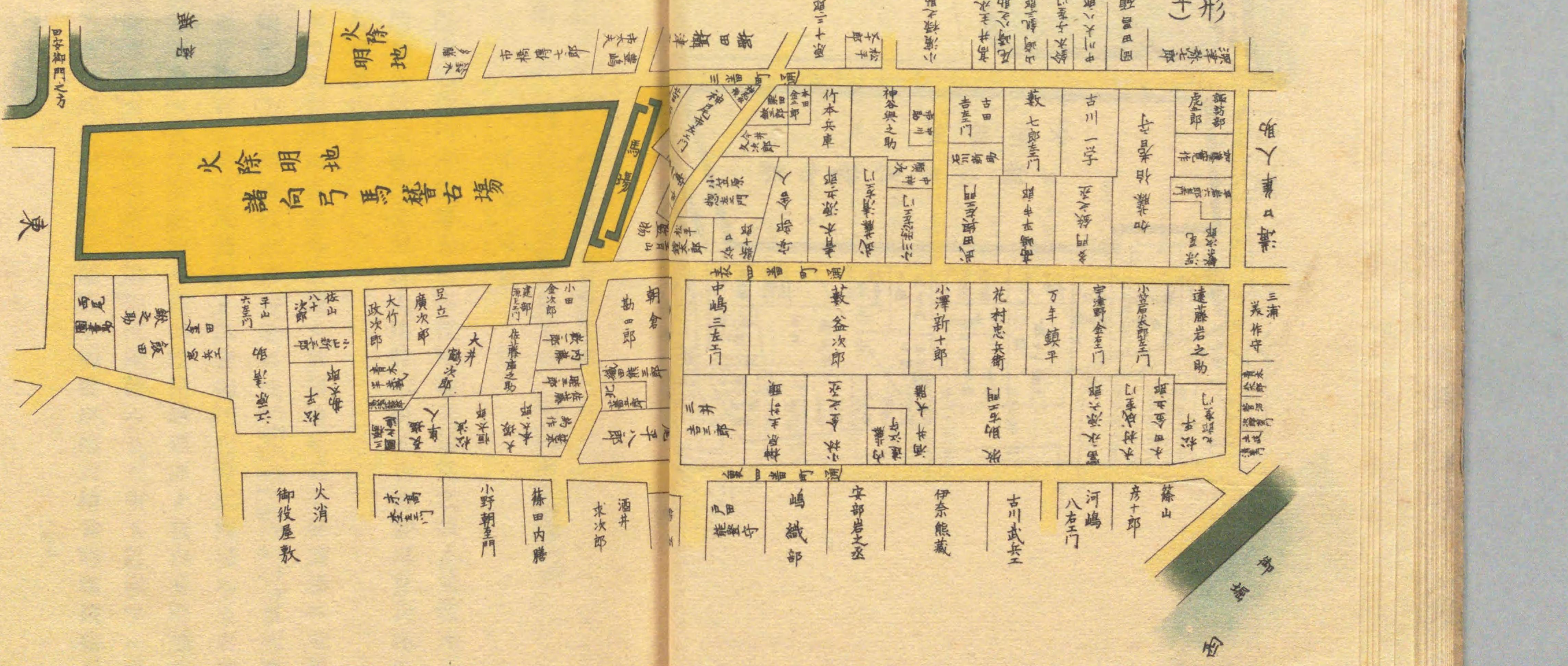

東
北御門之方
北明神
向嶋古墳場
大久保
松平
圖書
久松
佐渡守
平山
左京亮
大岡
越前守
大久保
加賀守
大井
筑後守
小田
切土佐守
朝倉
播磨守
奥津
兵左衛門
本多
内匠頭
戸田
采女正
神谷
左内
本多久七郎
戸田六藏
大嶋雲八郎
松平
主殿頭


西
遠見英助
間宮縫殿助
永田松次郎
福嶋
壹二門
高嶋藤太夫
多門市次郎
加藤勘兵衛
戸田十左衛門
遠藤新六郎
植村久五郎
宇都野金三郎
万年三郎四郎
花村伊織
小澤新十郎
義三郎
小林左膳門
村上三十郎
中嶋伊豫守
松平
安房守
本村孫八
冨永數馬
牧丹次守
東
北
南
西

安政三辰年之形


東
西
田安御門之方
火除明地
諸向弓馬稽古場
野間鉢之助
岩瀬内記
吉川一学
遠藤鐘次郎
万年弥一郎
花村伊織
小澤勘兵衛
中嶋三左衛門
新倉
勘四郎
大井
鶴次郎
神尾
竹本兵庫
神谷
與之助
足立
三嶋

當時之形（文久元年）



火除明地
諸向弓馬稽古場
火除明地
火消
御役屋敷
藤田内膳
酒井
求次郎
伊奈熊藏
古川武兵エ
河嶋
八右エ門
篠山
彦十郎
遠藤岩之助
花村忠兵衛
小澤新十郎
中嶋三左エ門
朝倉
三浦
美作守

牛込御門内火消御役屋鋪

前ゟ裏四番町通道式北側　屋鋪々並道式共

土手通迄之内

文化五辰年

番町之内

右地所之内、牛込御門内當時火消御役屋鋪者、延寶之頃ゟ元祿九子年迄、水野左門・知久伊左衞門・金田新太郎・鈴木新五兵衞・齋田喜兵衞・内藤勘助、右六人屋鋪ニ有之。

一、元祿十丑年田安御門向通其外屋鋪々御用地被召上、跡廣場ニ成候節、右六人屋鋪被召上、火消御役屋敷替地ニ成、（此御役屋鋪元祿九子年迄田安御門前ニ有之。）東西脇通有來道式者其儘有之、御役屋鋪前ゟ田安御門向通迄廣場ニ成、右廣場同十一寅年ゟ追々被下屋鋪等ニ成、御役屋鋪前通ゟ裏四番町通有來道式迄續廣道出來、其後引續火消御役屋鋪ニ成、天明五巳年十一月地尻之所上ケ地ニ成、曲淵又市屋鋪被下、御役屋鋪西續當時鵜殿藤三郎

屋鋪西脇通有來道式限り、北之方土手通牛込御門迄之內一體屋敷續ニ
ゟ、延寶之頃ゟ追々主代り候所有之候得共、道式者相替儀無之、且前
書鵜殿藤三郎屋鋪西脇通道式ヲ隔、西之方當時酒井大內記・池田筑前
守・美濃部六郎・內方鐵五郎・大田波（○太田ニ作ルハ誤。）之丞屋鋪邊ゟ、裏四番町通道式北側
西外レ篠山吉之助屋鋪限り、土手通板倉內膳正屋鋪邊迄之內、屋鋪々
并道式共右地所者、延寶之頃ゟ裏四番町通道式北側東角駒木根長三
郎（當時酒井大內記屋鋪邊。）屋鋪有之、北續向坂清三郎・黑田源右衞門・美濃部菅三郎・横
山半太夫、右五人屋鋪、西續飯河傳右衞門・覺五郎太夫・菅谷平八郎・米津
才兵衞・鵜殿藤兵衞・中根孫十郎、都合拾壹人屋鋪地續一纏、四方道式有
之、（南之方裏四番町邊。）西之方道向裏四番町通道之側ゟ北之方土手通迄之內、菅
沼新八郎・松平新九郎・松田六郎左衞門・松田彌五兵衞・內藤五郎右衞門・
多門平左衞門・荒川重右衞門・山角左兵衞・水野刑部・篠山勘右衞門・岡部
平助・東條源右衞門・須田久兵衞・長坂血鎗九郎、右拾四人屋鋪地續一纏
ニ
ゟ、四方道式有之、北之方道向土手通植村熊藏・難波田庄右衞門其外
屋鋪續有之、元祿十丑年十月前書駒木根長三郎・向坂清三郎・飯河傳右
衞門・覺五郎太夫・菅谷平八郎、右五人屋鋪上ケ地ニ成、長三郎・清三郎屋
鋪并間ゟ通路共酒井下總守（當時大內記）屋鋪被下之、傳右衞門・平八郎・五郎太
夫上ケ地阿部遠江守屋鋪被下、且前書植村五郎八（先熊藏）屋鋪南後口ゟ
土手通ゟ續有來道式、同人屋鋪ゟ圍込、右屋鋪東脇通りゟ道式附替、其
後此邊屋鋪主代り候所も有之。

一、寶永八卯年二月裏四番町通西之方前書水野刑部屋鋪上ケ地ニ成、跡
割屋鋪ニ成、戶田新五郎・中山平十郎・宮城三郎右衞門・塚原四郎右衞門
屋鋪被下、其節裏四番町通ゟ右四人屋鋪間西之方ゟ折廻し、土手通ゟ
續新道出來。

一、享保九辰年正月前書裏四番町通阿部出雲守(先遠江守)・西續米津喜兵衛(先才兵衛)・大木伊兵衛(先主鵜殿藤兵衛)・右三人屋鋪西之方道向松平新九郎・布施孫兵衛(先主松田六郎左衛門)・長坂式部(先血鎗九郎)・内藤頼母(先五郎右衛門)・都合七人屋鋪御用地被召上、跡明地貳ヶ所出來、東之方明地内有來道之側新規馬場壹ヶ所出來、同十巳年右馬場東續、御小姓組・御書院番・新御番遠的稽古場ニ成、同十八丑年西之方明地内、東之方道之側山名彦次郎屋鋪被下、同十九寅年七月彦次郎北續、深谷左源太屋鋪被下之。

一、元文二巳年前書明地内馬場并遠的稽古場共取壞ニ成、裏四番町通ゟ北之方ゟ折廻、明地間有來道之側中根茂助(彌十郎)屋敷際迄引下り、有來道式共廣道ニ成、殘明地三田采女・谷口新九郎・松平帶刀・安藤庄左衛門、右四人屋鋪被下、西之方明地内前書山名彦次郎・深谷左源太屋鋪西續ニ成、宮重彦右衛門・岡田牧右衛門屋鋪被下、兩人屋鋪西通南之方行留新道出來、右新道西側明地末西南角本多田宮・北續成田八右衛門・淺羽外記屋鋪被下、其節土手通ゟ外記・八右衛門屋鋪前東之方ゟ折廻、前書之廣道ゟ續廣道出來、同年九月右廣道内西南折廻角加藤彌七郎屋敷被下之。

一、寛政四子年七月此邊屋鋪々々類燒後、同年九月前書酒井大内記屋鋪西續ニ成、蜂屋左兵衛・榊原主計(此兩人屋鋪先主三田采女)・北續石谷肥前守(先主谷口新九郎)・肥田十郎兵衛(元松平帶刀)・松倉彦五郎(元安藤庄左衛門)・同續中根仁左衛門(先茂助)・右六人屋鋪御用地被召上、跡火除明地ニ成、(此明地内東之方者寛政六寅年安富軍八大的稽古場拜借地ニ成。)且土手通ニ成る松野八兵衛(元植村熊藏)・南續松田彌五兵衛(先久米之助)兩人屋鋪同時ニ被召上、跡火除明地ニ成、同十二申年十二月澁江長伯御預り御藥園ニ成、其外屋鋪主代り候所も有之。

一、文化三寅年七月前書御藥園并向寄廣道南續青木傳八郎(先主加藤彌七郎)・澤井

善次郎（先主岡田牧右衞門）屋鋪上ケ地共一圍ニ成、板倉內膳正屋鋪被下、南脇通ゟ後口之方ゟ折廻、土手通ゟ續道式附替、且同人屋鋪東之方南角ゟ裏四番町通迄、有來廣道內同所火除明地之側內膳正屋鋪向迄、右明地內ゟ圍入ニ成。

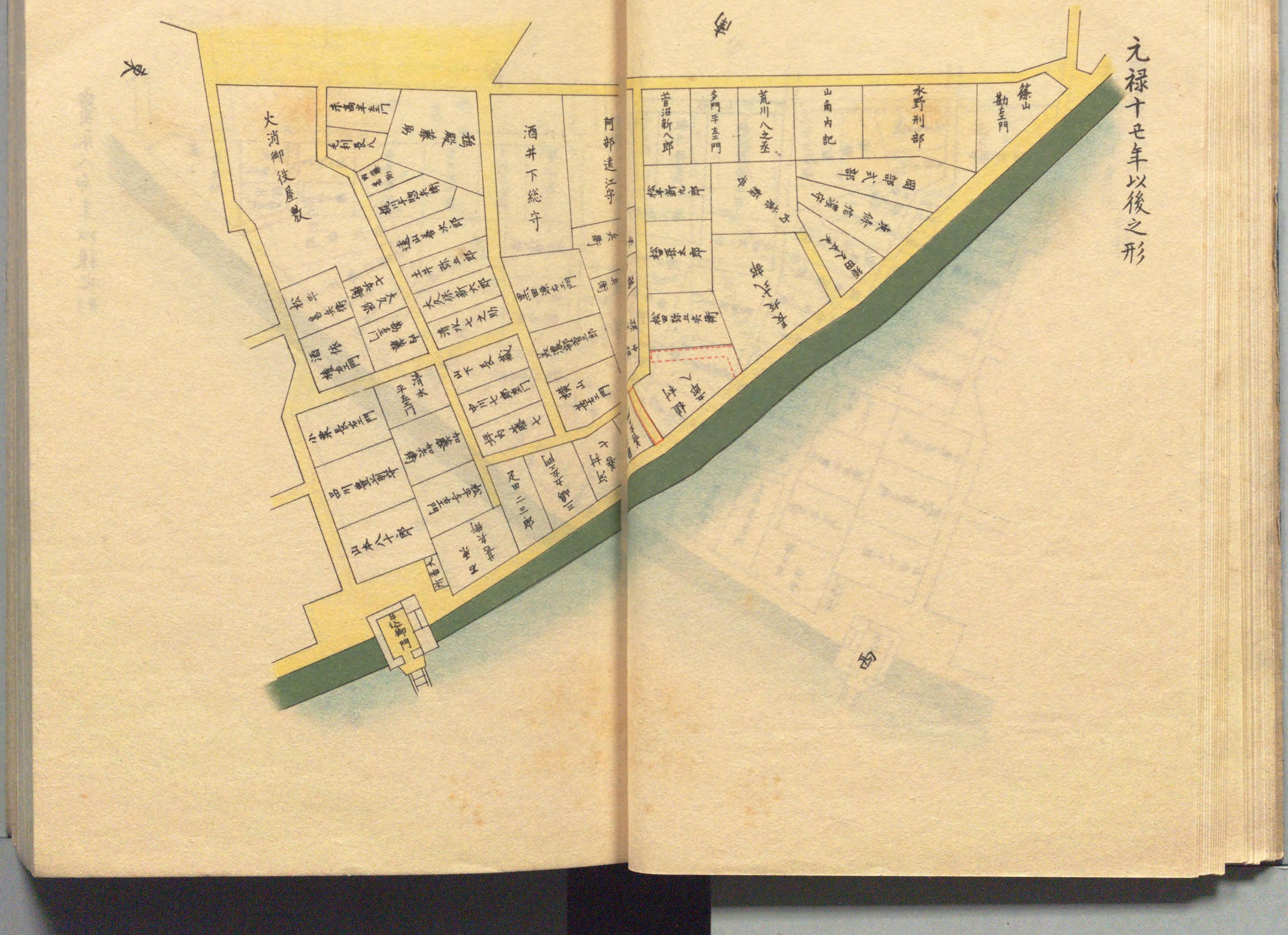
一、文化八未年五月前書火除明地、（此明地內東之方安富軍八稽古場拜借地有之。）西之方板倉內膳正屋鋪前明地內ゟ幅壹間通引下り道式內ゟ成、殘明地并東西之方廣道式之內共、醫學館附藥草植場拜借地ニ成、同時右拜借地東之方廣道之內澁江長伯柾木植置場拜借地ニ成、其外屋敷々主代り候處も有之。

一、天保六未年正月前書板倉刑部少輔（先內膳正）屋敷、東之方道向藥師寺修理亮（先主深谷左源太）屋敷相對替、刑部少輔ゟ間道敷圍込ニ成、東之方古賀彌助屋敷脇ゟ道敷附替ゟ成。

一、安政六未年二月板倉內膳正屋敷前道幅狹候ニ付、前書醫學館附藥草植場拜借地之內、西南之方廣道ニ成、同年同月右拜借地之內石川忠左衞門・野村貫三郎・森用左衞門・大久保又藏・關口雄助・本多隼之助六人屋敷ニ被下、割殘地出來、同年十月右割殘地之內竹內下野守・竹內玄同・伊東貫齋・遠田澄庵四人屋敷ニ被下、猶又割殘地出來、同時ニ伊東傳六郎ゟ當分御預（萬延元申年十二月澤井文左衞門・菊澤左兵衞兩人屋敷ニ被下。）ニ成、其外安政年中より道敷ゟ當時之形ニ有之。

延寶之頃ヨリ元禄九子年迄之形

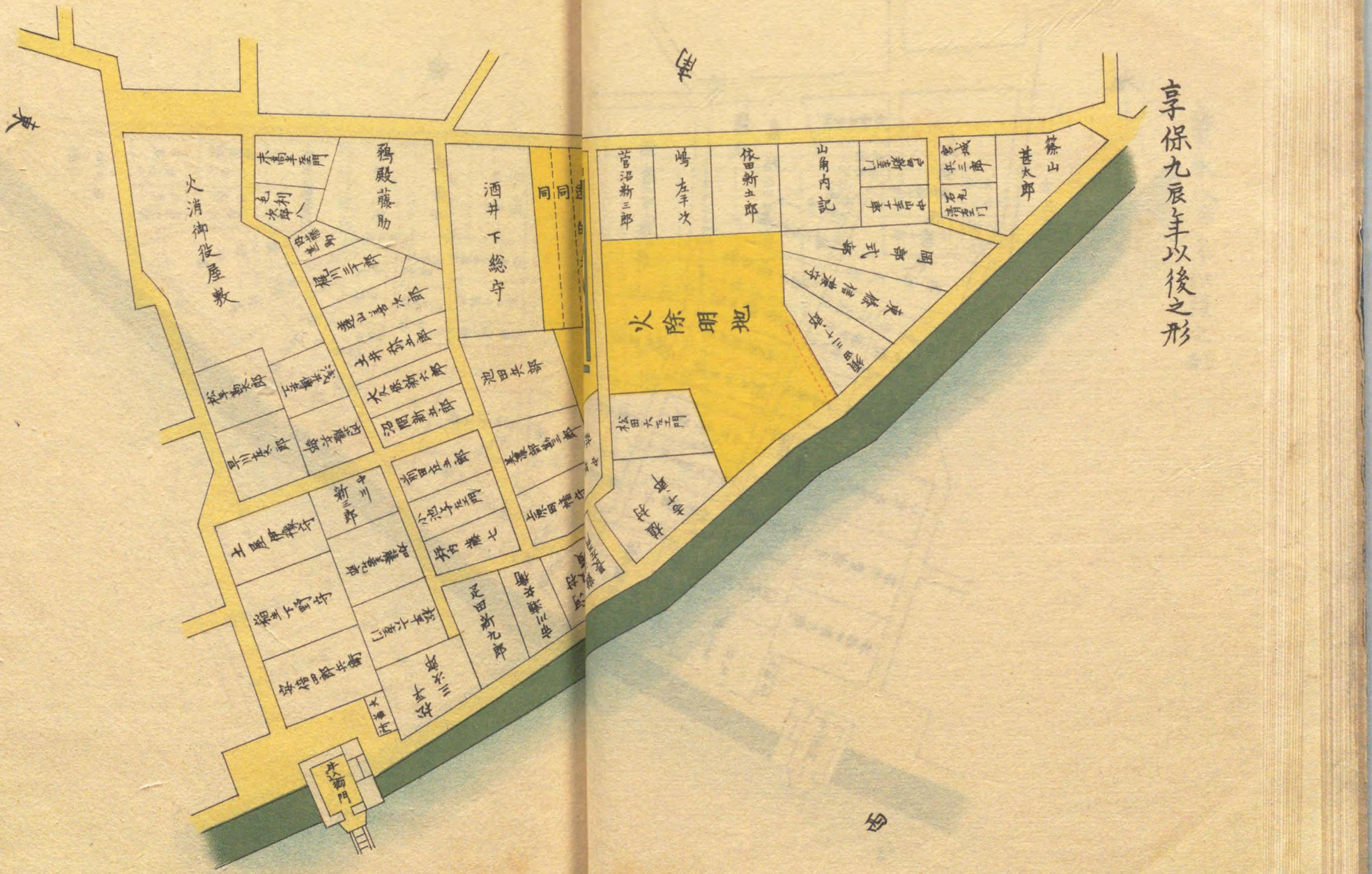
元禄十七年以後之形



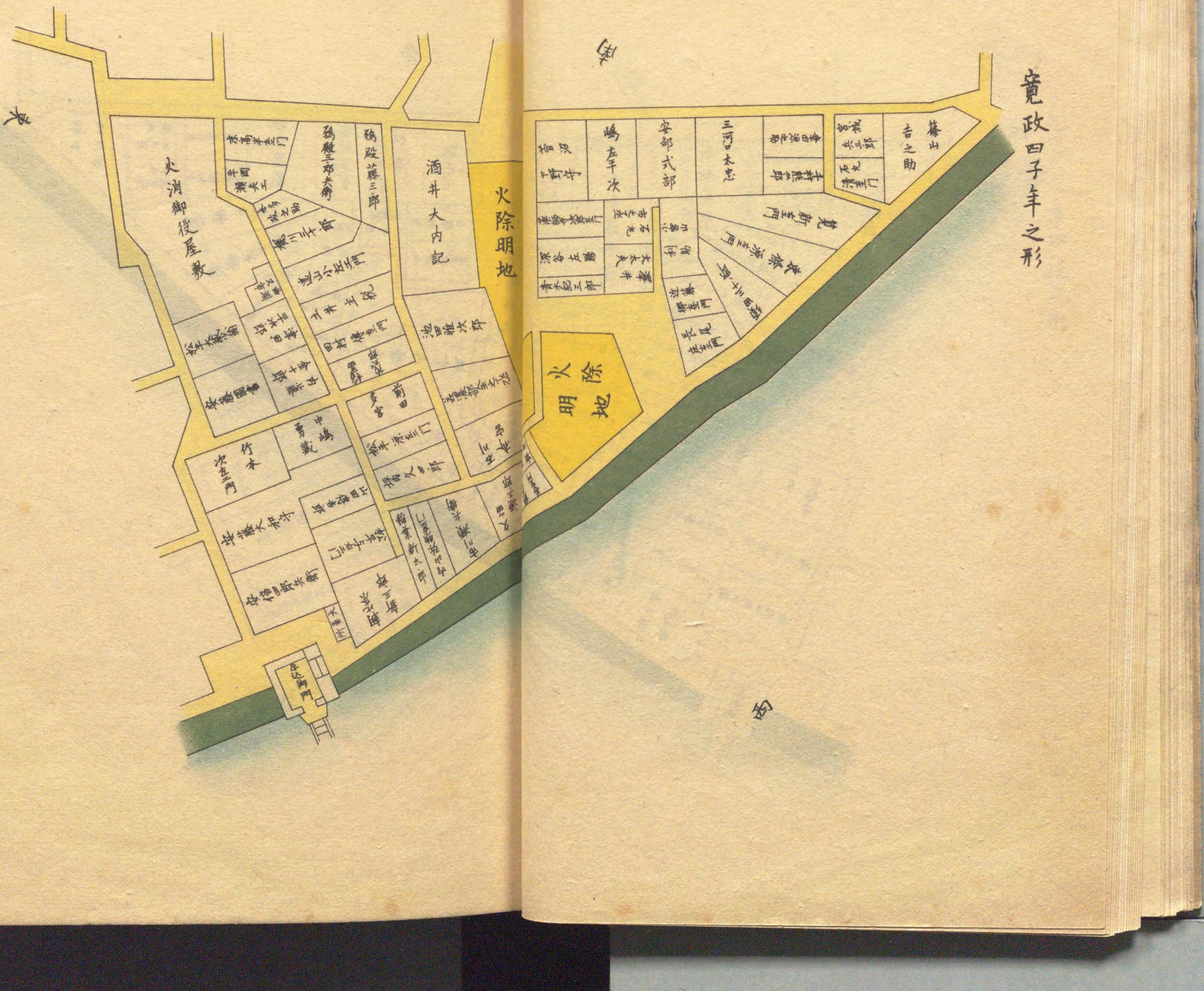
寶永八卯年以後之形

東
西
火消御役屋敷
鶴殿藤助
酒井下総守
阿部出雲守
篠山吉之助
山角内記
依田新五郎
多門平左門
菅沼新八
松平弥兵衛

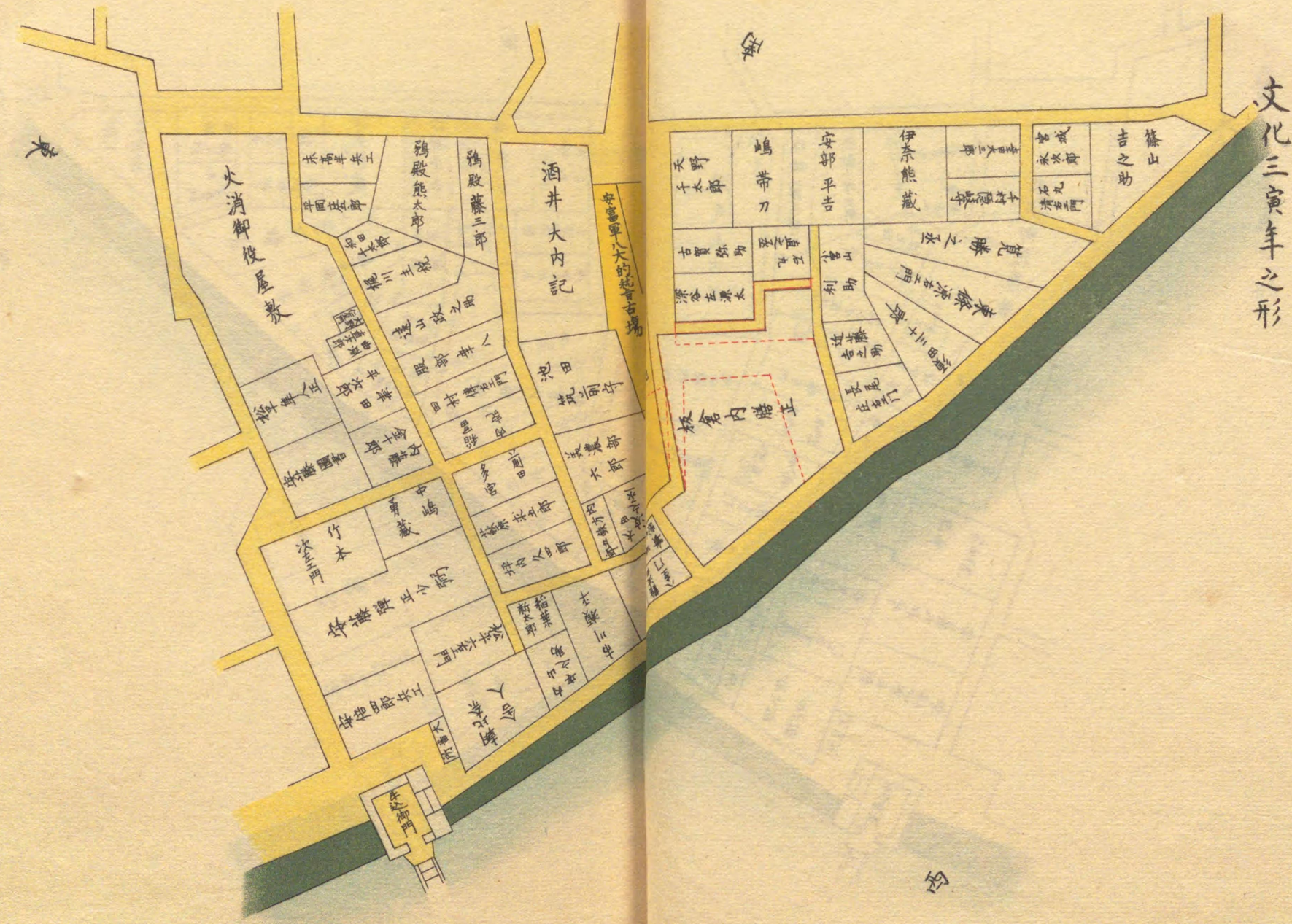
享保九辰年以後之形



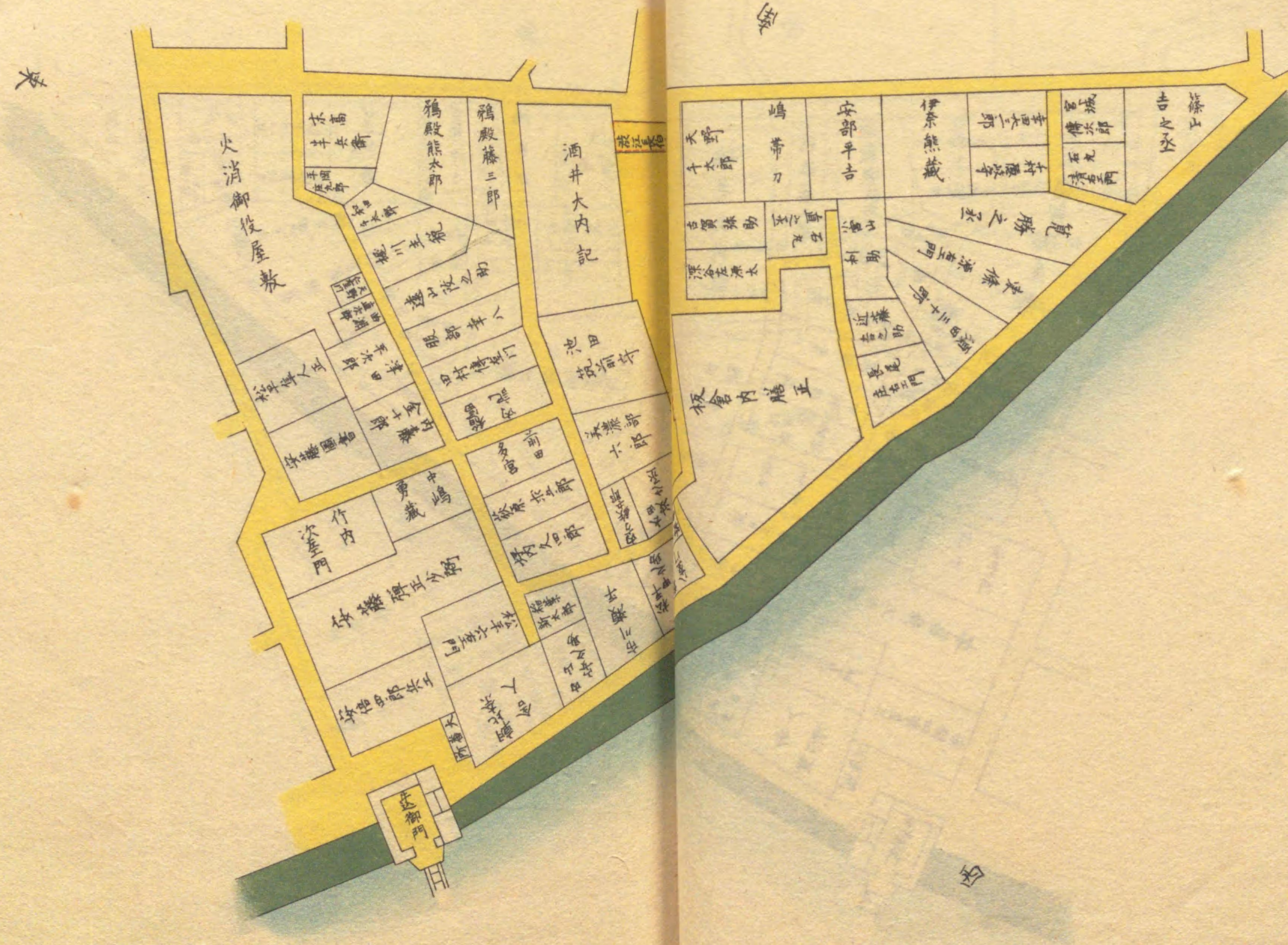
元文二巳年以後之形


寛政四子年之形
火消御役屋敷
酒井大内記
火除明地
篠山吉之助
安部式部
嶋本半次
三河口太忠
鷲殿藤三郎
鷲殿藤三郎太寿
火除明地

文化三寅年之形



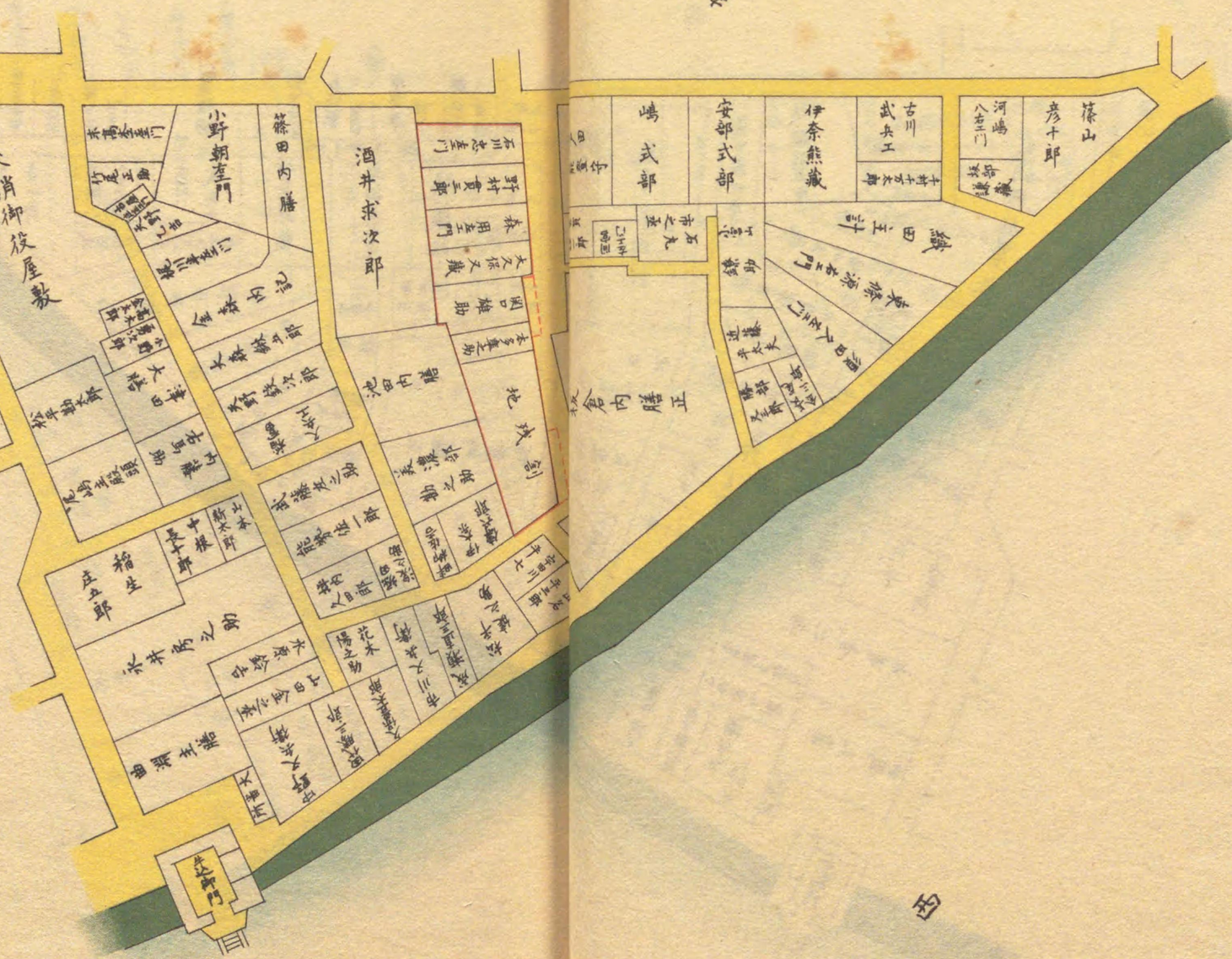
文化八未年之形



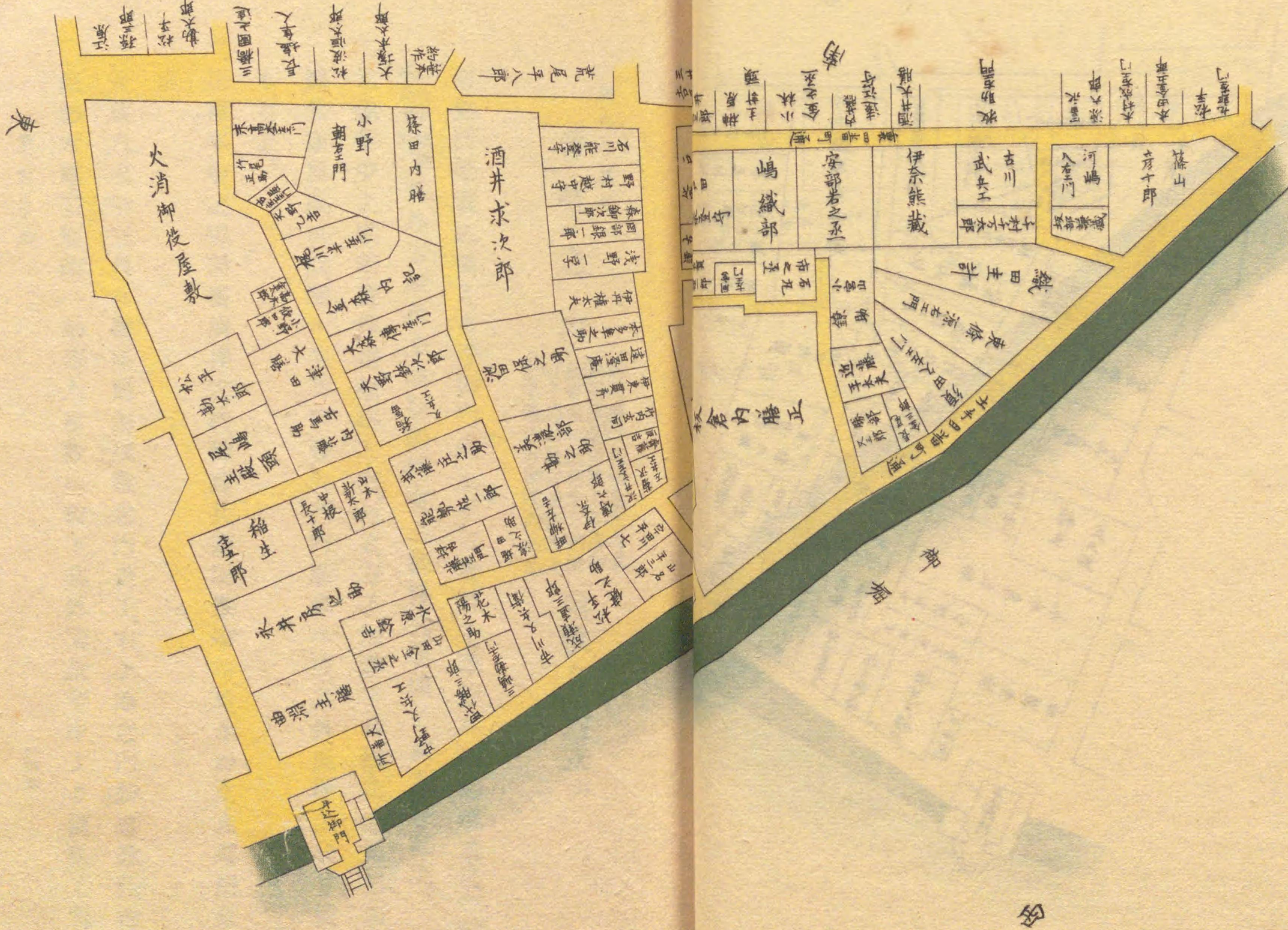
天保六未年之形

酒井大内記
火消御役屋敷
鴉殿熊次郎
篠田藤四郎
池田筑後守
前田多宮
松倉刑部少輔
伊奈熊蔵
鳥帯刀
戸田織部
篠山吉之助

安政六未年之形



當時之形
（文久元年）



文化五辰年

番町之内

表六番町北側通之内武藤庄兵衛屋敷ゟ久留和泉守屋敷迄北之方四番町三浦和泉守屋敷邊ゟ土手通市谷御門内邊迄

屋敷々並道式共

右地所延寶之頃も、市谷御門内土手三番町土手附ニ馬場地有之、此馬場町方持之由申傳候得共不詳。其外者屋敷主違ひ候所有之候得共、地續も如當時有之。

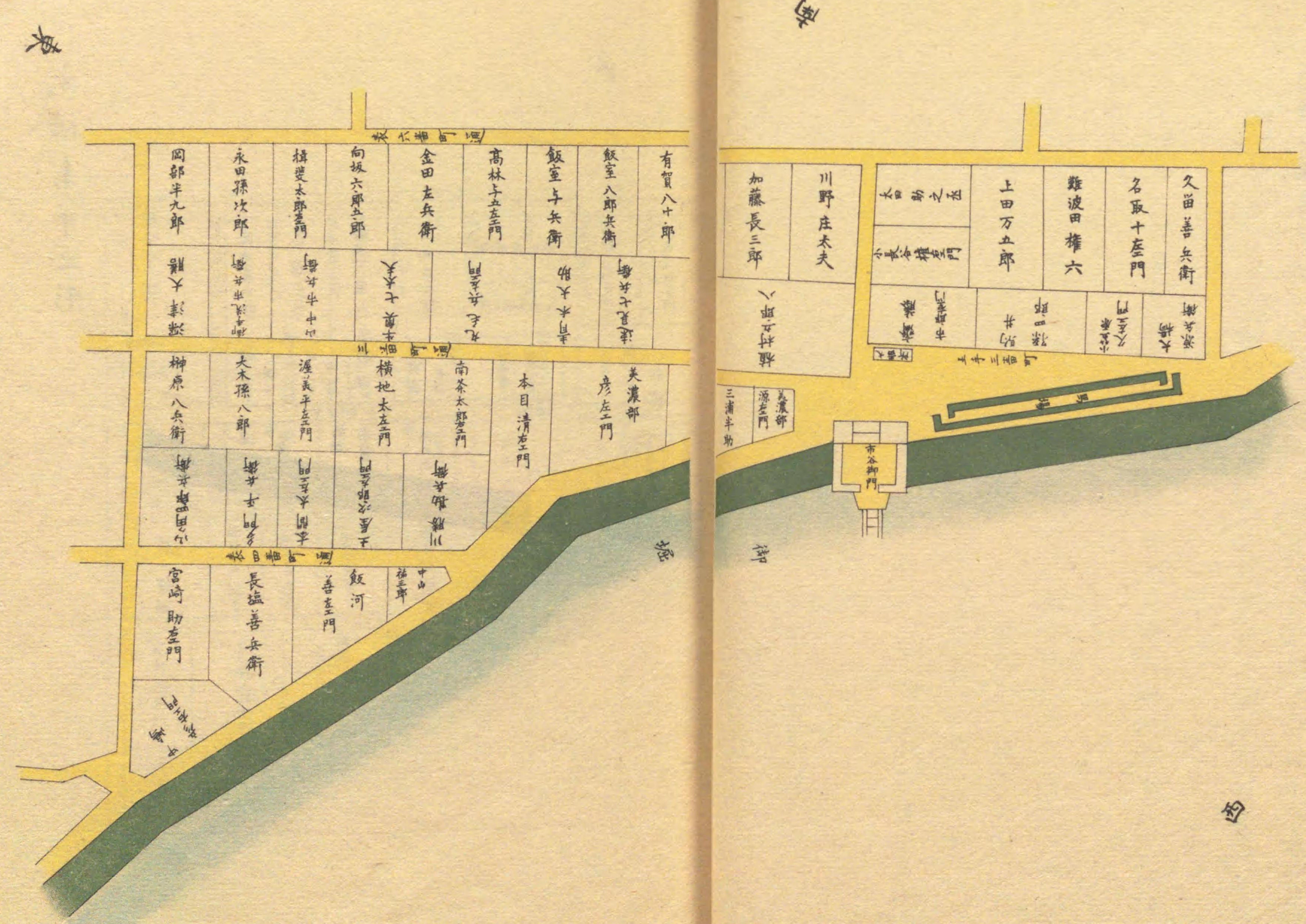
一、元祿年中之頃前書馬場地跡之内、西之方ゟ加藤宇兵衛・横地兵三郎・伴孫兵衛屋敷ニ成、殘ル地所市谷御門内廣場ニ成、其外屋敷主代り候所も有之。

一、正德年中之頃前書廣場之内、伴孫兵衛屋敷續ニ而、水野文九郎屋敷ニ成。

一、安政六未年三月多羅尾民部屋敷之内差上、右上地之内新道敷仕附、小堀勝太郎・石原清一郎兩人屋敷ニ被下、其外安政年中より道敷も當時

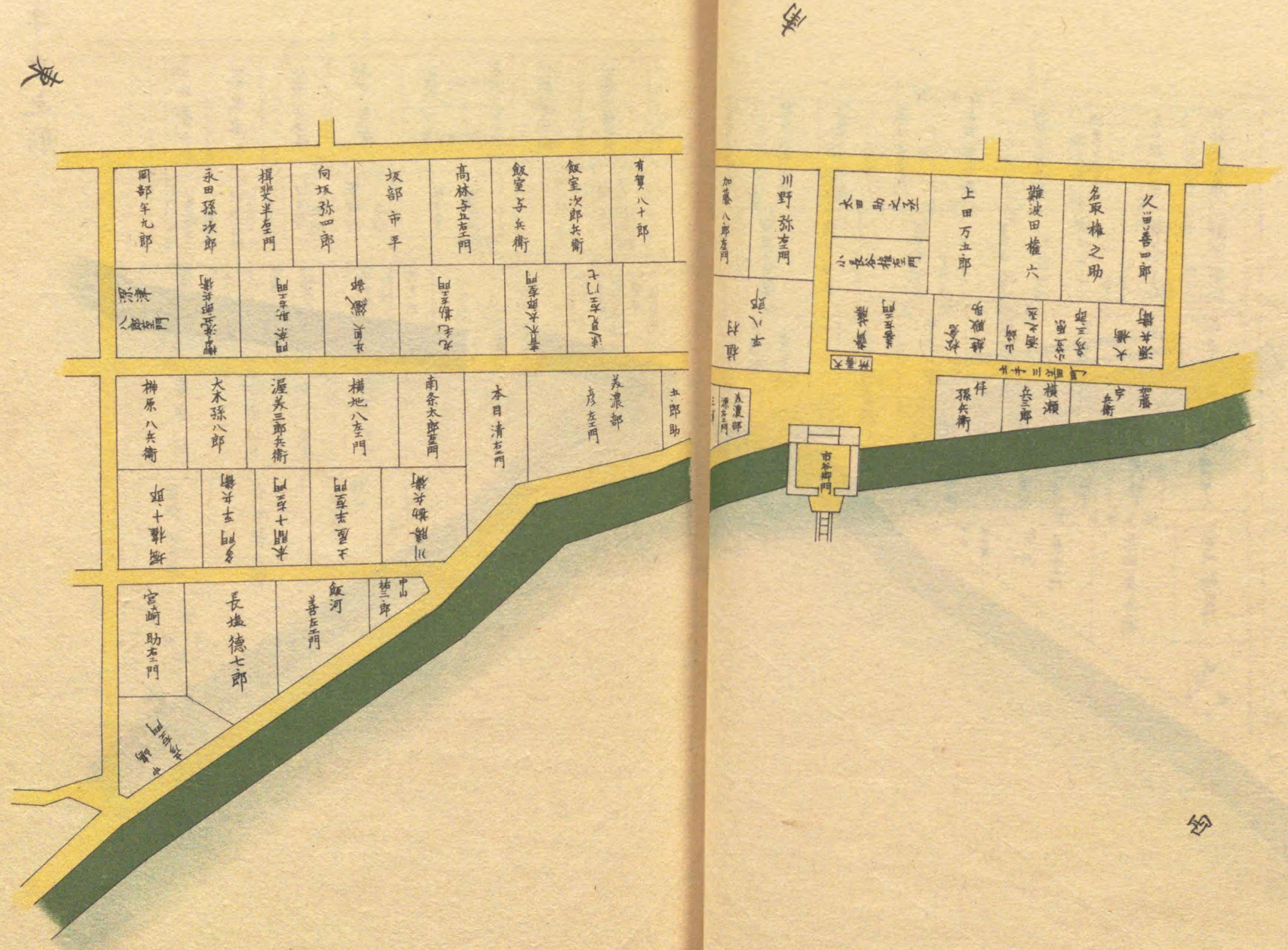
之形ニ有之。

延宝年中之形

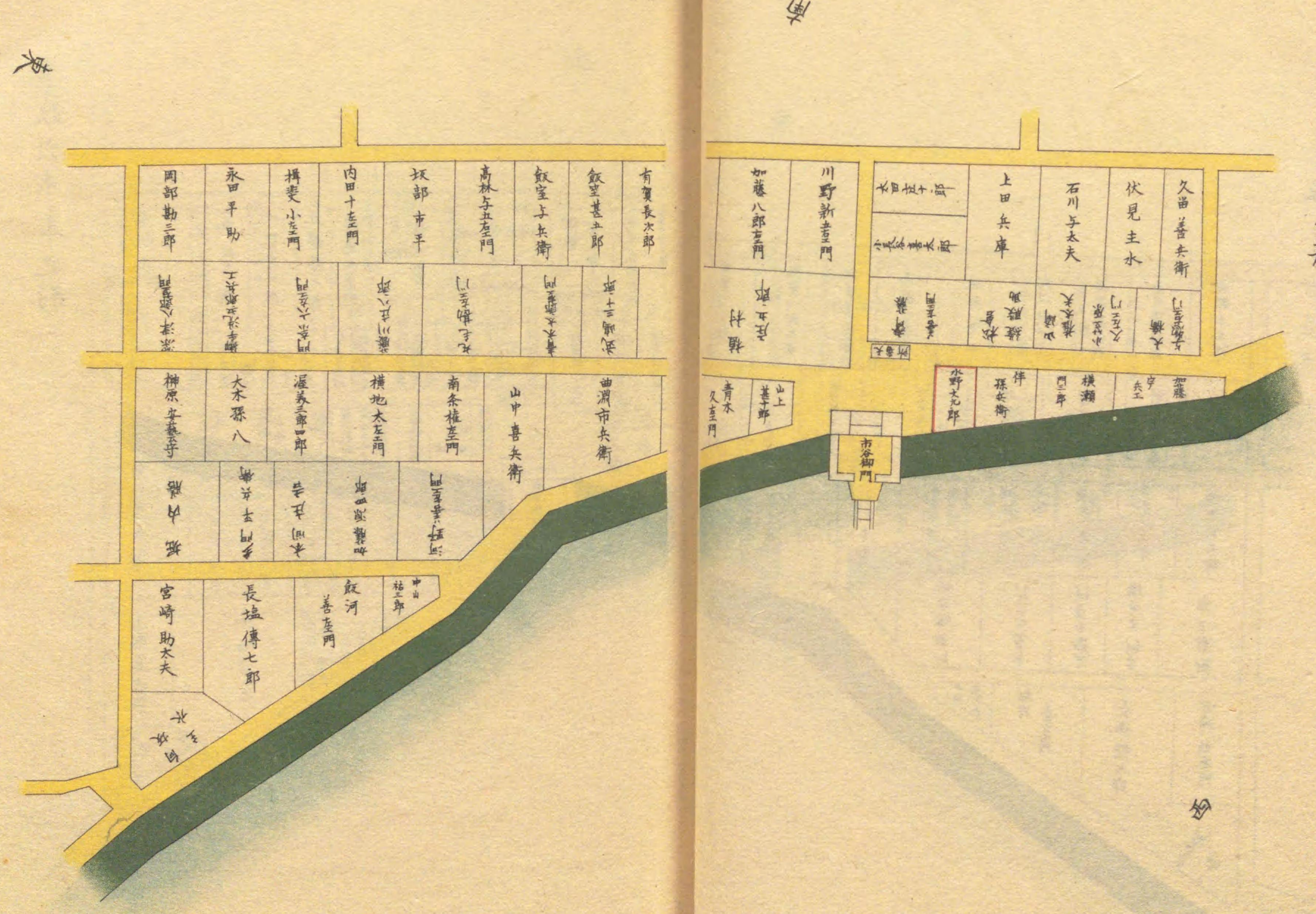


東
西
有賀八十郎
飯室八郎兵衛
飯室千兵衛
金田左兵衛
向坂六郎五郎
永田孫次郎
岡部半九郎
加藤長三郎
川野庄太夫
上田万五郎
難波田権六
名取十左衛門
久留善兵衛
榊原八兵衛
大木孫八郎
横地太左衛門
本目清左衛門
美濃部彦左衛門
宮崎助左衛門
長塩善兵衛
飯河善左衛門
三浦半助
堀
御

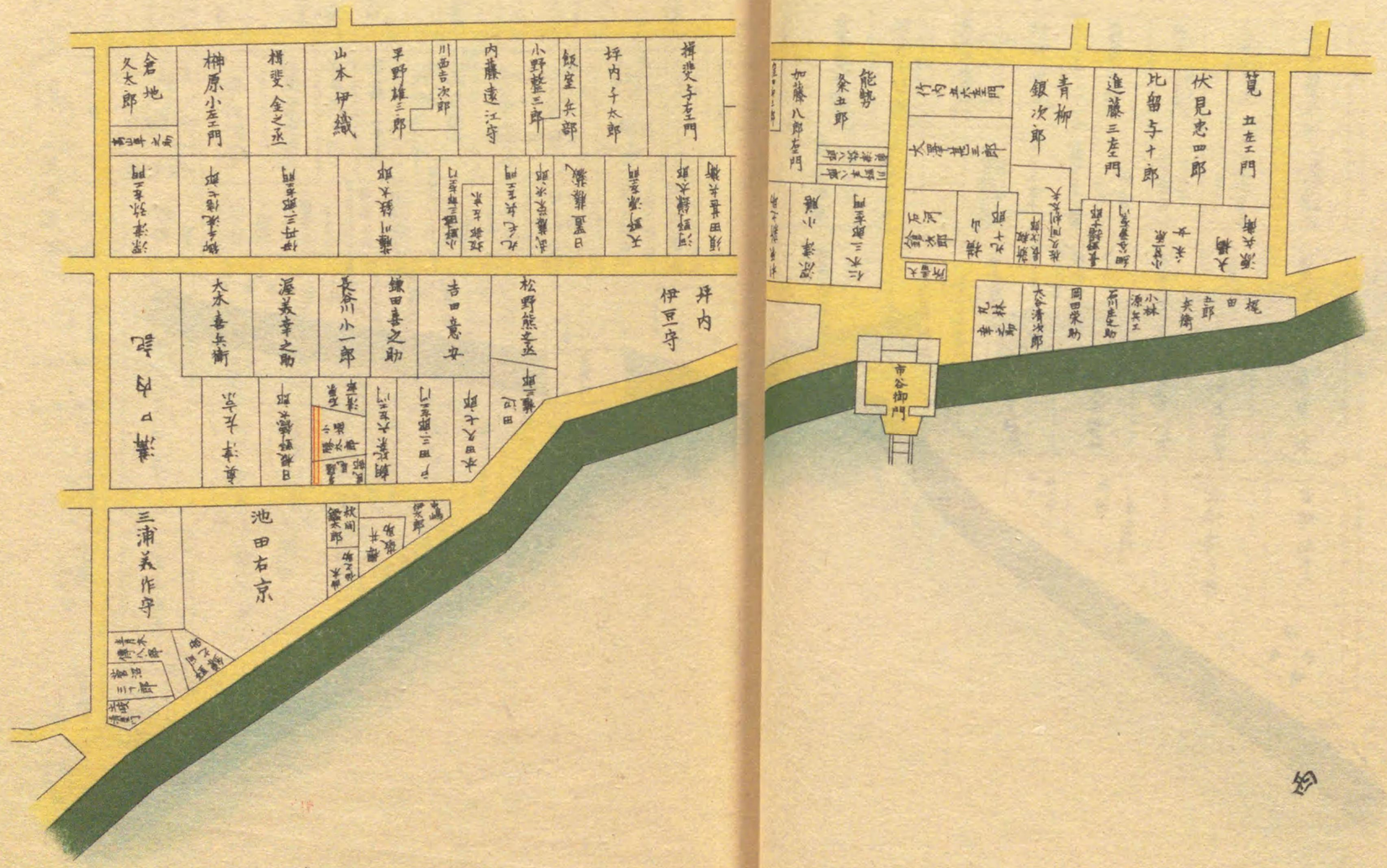
元禄年中之形


東
西
川野弥左衛門
上田万五郎
難波田権六
名取権之助
久田善四郎
飯室次郎兵衛
飯室与兵衛
高林与五左衛門
坂部市平
向坂弥四郎
永田孫次郎
有賀八十郎
榊原八兵衛
大木孫八郎
横地八左衛門
宮崎助左衛門
長塩徳七郎
飯河善左衛門

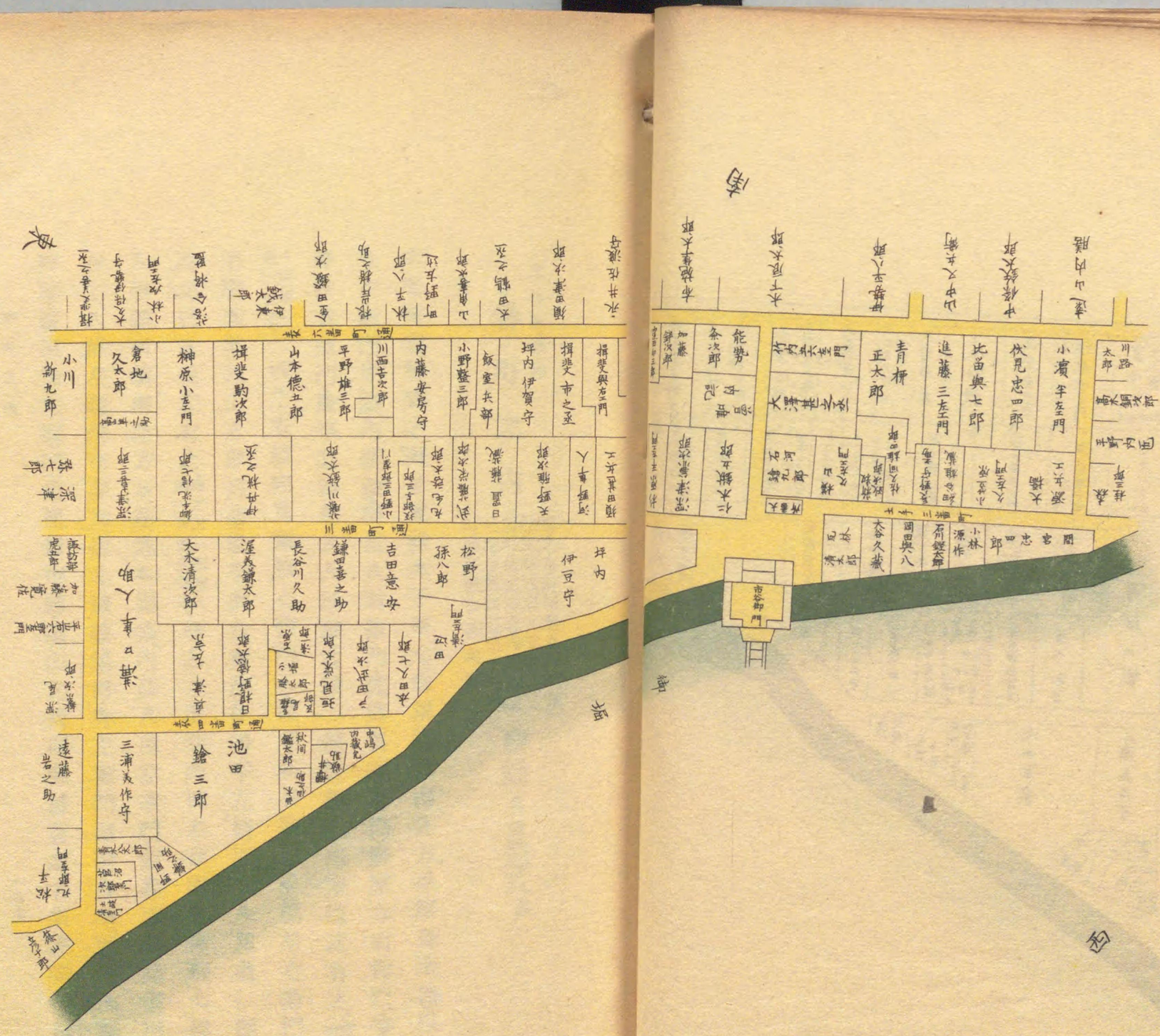
正徳年中之形


東
南
西
市谷御門
宮崎助太夫
長塩傳七郎
飯河善左門
曲淵市兵衛
山中喜兵衛
横地太左門
大木孫八
岡部勘三郎
永田平助
内田十左門
坂部市平
高林与五左門
飯室与兵衛
有賀長次郎
加藤八郎左門
川野新左門
上田兵庫
石川与太夫
伏見主水
久留善兵衛
青木久左門
山上善十郎

安政六未年之形



當時之形（文久元年）


北
東
南
西
市谷御門
牛込御門
小川町
神田橋
大手
本郷
水戸
小石川
青柳正太郎
小濱半左門
伏見忠四郎
北條與七郎
進藤三左門
小林源作
岡田與八
太谷久藏
石川鐵太郎
岡田忠四郎
大橋源左エ
小笠原
久左エ門
松平
左近將監
松平
伊豆守
内藤
紀伊守
松平
大和守
松平
越中守
松平
肥後守
松平
越前守
松平
加賀守
松平
土佐守
松平
阿波守
松平
讃岐守
松平
安藝守
松平
筑前守
松平
薩摩守
池田
鑰三郎
三浦義作
吉田意安
松野
孫八郎
大木清次郎
渡邊
勇次郎
山本德五郎
平野雄三郎
川西吉次郎
内藤安房守
小野鑒三郎
飯室兵部
天野隆次郎
河野專八
平野内伊賀守
揖斐與左エ門
揖斐市之丞
揖斐勳次郎
榊原小左エ門
小川新九郎
神田川
小川町
淡路坂
錦小路
紺屋町
鎌倉河岸
呉服橋
常盤橋
鍛冶橋
數寄屋橋
日比谷
山下門
馬場先門
和田倉門
桔梗門
櫻田門
幸橋
虎之門
赤坂門
四谷門
麹町
半藏門
清水門
田安門
一橋門
神田
駿河臺
小川町
淡路坂
錦小路
紺屋町
鎌倉河岸
呉服橋
常盤橋
鍛冶橋
數寄屋橋
日比谷
山下門
馬場先門
和田倉門
桔梗門
櫻田門
幸橋
虎之門
赤坂門
四谷門
麹町
半藏門
清水門
田安門
一橋門

文化五辰年

番町之内

東之方御堀端ゟ西之方法眼坂通限リ北之方三番町通南側之内深津彌七郎屋敷西脇通ゟ六番町法眼坂ゟ續道式迄

屋鋪々並道式共

右地所者、延寶之頃ゟ元祿九子年迄、御堀端通南之方塚原長十郎・根來五左衞門・佐脇內藏助・榊原八右衞門・佐野善左衞門・榊原六右衞門・宇都野作右衞門・松平源四郎八人屋鋪地續一纏、東西北三方道式有之、南之方直ニ御堀ニ而道式無之。西之方道向筧彌惣右衞門・三浦五郎右衞門・松波平右衞門・三宅惣九郎・西山六郎兵衞・松平次右衞門・伊勢平左衞門七人屋敷一纏、東西北三方道式有之、南之方ハ御堀入隅ニ而道式無之。西之方道向岡部左兵衞・伏見勘七郎、兩人屋鋪西續南之方ゟ筋違ニ出張、內藤八郎左衞門・飯高市郎兵衞屋鋪有之、八郎左衞門・市郎兵衞北西續須田與左衞門屋鋪ニ而、西續加藤源四郎・飯田惣左衞門・松浦彌市郎・遠山久次郎屋鋪有之、右與左衞門屋鋪

北續中根六右衞門・津金右衞門七、西續牧野助十郎・都筑又兵衞・板橋與五右衞門・服部半左衞門、都合拾五人屋鋪一纏、四方道式有之、（西之方法眼坂通。）北之方道向東之方御堀端ゟ西之方法眼坂通迄之內、御堀端松平助之丞・蜂屋勘五兵衞・石川與太夫・成瀨小三郎・大岡忠四郎五人屋鋪一纏、四方道式有之、西之方道向筧助兵衞・朝比奈彥右衞門・榊原五郎左衞門・遠山四郎右衞門・川井次郎兵衞・大久保三十郎・仙波太郎兵衞・大岡忠右衞門八人屋敷一纏、四方道式有之、西之方道向三浦甚五兵衞・加藤又四郎・松平新五左衞門・恒岡佐太夫・松波八兵衞・加賀美金右衞門・西山與兵衞・澤次郎右衞門・福井清右衞門・飯河甚四郎・小笠原源太郎・杉浦長太郎拾貳人屋鋪一纏、四方道式有之、（西之方法眼坂通。）北之方道向東之方御堀端ゟ西之方法眼坂通迄之內、御堀端通山岡對馬守・森川市右衞門・岩瀨吉左衞門・松前九左衞門・鈴木又助・大岡宇右衞門・佐橋勘兵衞・富永喜三郎・中根兵九郎・小栗仁右衞門拾人屋鋪一纏、四方道式有之、西之方道向松下半六・村上彥太郎・大津又左衞門・梶川與惣兵衞・馬場新右衞門・筧源左衞門・筧助右衞門・小林太郎右衞門・太田善兵衞・多田三八拾人屋敷一纏、四方道式有之、西之方道向伊丹左京・跡部茂兵衞・稻垣三左衞門・紅林勘左衞門・伊藤三右衞門・藁科八兵衞・今村傳右衞門・長田理兵衞、右屋鋪々北續東之方松波六右衞門・西續近藤平左衞門・奥（○異）津善次郎・武藤八郎右衞門・南條小兵衞・横山次郎右衞門・久保傳兵衞・淺岡彥次郎・落合小平次・大河內兵右衞門、都合拾八人屋鋪一纏、四方道式有之、（西之方法眼坂通。）北之方道向東之方御堀端ゟ西之方深津彌七郎（○圖ニ彌右衞門トアルヲ正ト ス。彌七郎ハ其子也。）・小川新九郎屋鋪迄之內、御堀端大塚五兵衞・西續近藤備中守・松平喜太郎・鈴木四郎左衞門、右屋敷々北續東之方揖斐與左衞門・西續大久保荒之助・大久保新八・曲淵市郎左衞門・松平四郎三郎・黑川與左衞門、都合拾人屋鋪一纏、四方道式

有之、（北之方三番町通。）西之方道向淺岡又四郎・間宮次郎兵衞・青木與右衞門・森本惣兵衞、右屋鋪々北續東之方山岡七右衞門・小宮山喜右衞門・廣戸半十郎・久貝惣左衞門・小野左兵衞、都合九人屋鋪一纏、四方道式有之、（北之方三番町通。）西之方道向伊達平八郎・朝比奈助右衞門・川添金左衞門・市川藤左衞門・小川新九郎、右屋鋪々北續東之方內藤半彌・渡邊半左衞門・橫地十兵衞・佐野次郎兵衞・深津彌右衞門、都合拾人屋鋪一纏、四方道式有之、（北之方三番町通。）前書一體之名面屋鋪々凡百貳拾三軒程有之。

一、元祿十丑年半藏御門外ゟ御堀端通り北之方田安御門外元飯田町邊迄御用地被召上候節、前書一體屋敷續之內、西之方三番町通道之側渡邊半左衞門屋鋪ゟ南之方ゟ朝比奈助右衞門・武藏八郎右衞門・稻垣三左衞門・加賀美金右衞門・都筑又兵衞・飯田惣左衞門屋鋪邊ゟ、東之方御堀端迄之內、屋敷々凡八拾八軒程御用地被召上、跡一躰之廣場ニ成、同年十一月右廣場內西外南之方有來飯田惣左衞門屋鋪東續ニ成、鈴木清右衞門屋鋪被下、北續三番町通迄之內松波六右衞門・小宮山傳三郎・安藤次部右衞門・青木與右衞門・新見彥四郎・小林權太夫・牧野助十郎・榊原佐太夫・曲淵伊左衞門・中根兵右衞門・菅沼次郎右衞門・岡四郎左衞門、都合拾參人屋鋪被下、其節右次郎右衞門・兵右衞門屋鋪西脇通り新道出來、且前書被下屋鋪間々割殘明地四ケ所有之、（此割殘明地元祿十一寅年ゟ同十四巳年頃迄之內、追々被下屋鋪ニ成。）

一、元祿十一寅年前書一躰之廣場四方道式出來、（東之方者御堀端通、南之方者壹番町通、西之方者麴町三丁目谷通、北之方有來三番町通。）一構之明地ニ成、同年九月ゟ十月迄之內、右明地西之方南外レニる、遠山十郎左衞門・北續松本利兵衞・日比野八郎右衞門・田口傳次郎・原田與市左衞門・梶川與惣兵衞・矢頭權太夫・高尾惣十郎・青柳伊織、右屋鋪々東續粕屋與右衞門・伊丹加兵衞・安西彌十郎、都合拾貳人屋鋪被

下、南北割殘地貳ケ所有之、地續一纏ニ成、四方道式ニ成、北之方道式者、東之方ニ折廻御堀端通ニ續。北之方道向割殘明地ニ有之、明地北續伏見主水・板橋左五兵衛・正木甚五兵衛・保科兵部少輔屋敷被下、地續一纏、四方道式ニ成、北之方道式者、東之方道方一體之明地内ヲ貫キ、御堀端ニ續、當時六番町通ニ有之。北之方道向八木庄右衛門・市橋百助・一色數馬屋鋪被下、北續東角割殘地有之、地續一纏、四方道式ニ成、北之方三番町通。右被下候屋鋪々東通南北筋違出來之新道者、當時新道貳番町通有之、右新道東之方一躰之明地内前書貳ケ所新道出來ニ付、明地三ケ所ニ相成。

一、元祿十五午年ゟ同十六未年十月迄之内、前書新道貳番町通東之方三ケ所明地之内、北之方三番町通ゟ右新道折廻角本多若狹守・南續新見忠左衛門・森本市右衛門屋鋪被下、南之方道向建部隼人・鳥田孫太夫・猪股源六郎・石野權八郎・根岸三左衛門・櫻井庄八郎・内藤十郎兵衛・美濃部彦左衛門・松田善右衛門・稻葉河内守・戸田六兵衛・福王市左衛門・榊原金

左衛門・窪田伊右衛門・三浦半之丞・山岡吉左衛門屋鋪被下、半之丞・吉左衛門南續明地間有來道式も取壞ニ成、右道跡之邊割殘明地出來、明地南之方石來助六郎・塚原彌三郎・島田利兵衛・中澤八右衛門・樋口又兵衛・松田孫左衛門屋敷被下、右被下候屋鋪々東通南北筋違新道出來、右出來之道式者、新道壹番町通ニ有之。

一、寶永二酉年ゟ同三戌年迄之内、前書新道壹番町通東之方明地内、北之方三番町通り道之側三枝左兵衛・南續横山甚助・大竹源四郎・小島吉左衛門・伊藤五郎兵衛、南之方道向鈴木六右衛門・瀨名傳右衛門・深谷新左衛門・山角藤十郎・三橋太次右衛門・平田伊右衛門、都合拾壹人屋鋪被下、伊右衛門屋鋪南通ゟ東之方明地内ヲ貫キ、御堀端通ゟ續新道出來、右新道南之方堀源左衛門屋敷被下、源左衛門南續者明地ニ有之、明地南續早川庄七郎・朝比奈平助・山中忠左衛門・飯高又兵衛屋鋪被下、且同所西

之方道向有來割殘明地內西之方ニる川勝藤兵衞·大野重兵衞屋鋪被下、殘地所矢張明地ニ有之、其外一體之屋鋪々々主代り候所も有之。

一、寶永五子年四月前書麹町三町目谷通り道式東側之內中程ニる、正木甚五兵衞·板橋左五兵衞·伏見主水·松野七郎左衞門·堀田平左衞門·山下藤左衞門·眞野四郎左衞門、右七人屋鋪御用地被召上、同所南之方道向小林平次郎屋鋪者其儘有之、南續安西彌十郎·伊丹加兵衞·粕屋與右衞門·多田新左衞門四人屋鋪被召上、跡明地貳ケ所出來、同所東之方道向中程ニる、松田善右衞門·長谷川刑部屋鋪者其儘有之、兩人北續美濃部彥左衞門·內藤傳十郎兩人屋鋪被召上、明地ニ成、有來善右衞門·刑部屋鋪南續戶田六兵衞·福王市左衞門·窪田伊右衞門·山岡吉左衞門·榊原金左衞門·三浦半之丞·川勝藤兵衞·大野重兵衞·石來助六郎·塚原四郎左衞門·島田利兵衞·中澤八右衞門·樋口又兵衞·松田孫左衞門、右拾四人屋鋪被召上、跡明地ニ成、同所東之方道向中程ニる、堀源左衞門·平田伊右衞門屋鋪者其儘有之、伊右衞門北續三橋太次右衞門·溝口佐左衞門（先主山角）·藤十郎·深谷新左衞門·瀨名傳右衞門四人屋鋪被召上、跡明地ニ成、明地北續鈴木六右衞門屋鋪者其儘有之、六右衞門北續道向伊藤五郎兵衞·小島吉左衞門·大竹源四郎·橫山甚助四人屋鋪被召上、跡明地ニ成、明地北續三枝左兵衞屋鋪者其儘有之、且前書有來堀源左衞門屋鋪南之方明地續早川庄七郎·朝比奈平助·山本忠左衞門·飯高又兵衞四人屋鋪被召上、跡明地ニ成、前書寶永五子年同時被召上候屋鋪々跡明地、都合七ケ所有之。

一、寶永六丑年二月前書七ケ所明地內、麹町三町目谷通東側中程明地之內、正木甚五兵衞·眞野四郎左衞門·堀田平左衞門·松野七之丞·伏見主水、右五人元屋鋪場所返被下、一纏地續ニる、屋鋪々間々割殘明地三ケ所

有之、（此三ヶ所明地寶永七寅年ゟ追々被下屋舗ニ成。）南之方道向有來小林彌兵衛〇（圖ニ平次郎トアルヲ正トス。）屋舗南續明地安西彌十郎・伊丹加兵衛・粕屋與右衛門・多田新左衛門四人元屋舗場所返被下、地續一纏、南北割殘明地貳ヶ所有之、（此割殘明地貳ヶ所共正德六年ゟ享保六年迄之内被下屋舗ニ成。）同所東之方道向貳ヶ所明地內、北之方明地內藤傳十郎・美濃部彦左衛門兩人元屋舗場所返被下、南之方明地內戶田六兵衛・榊原金左衛門・三浦半之助・川勝藤兵衛（此藤兵衛屋舗者其後朝日三十郎。）・右來助六郎・塚原四郎左衛門・樋口又兵衛・松田孫左衛門・窪田伊兵衛、拾人元屋舗場所返被下、殘明地內小花和武太夫・小花和太兵衛屋敷被下、太兵衛南續者矢張明地ニ而有之、右屋敷々東之方道向中程有來堀源左衛門屋舗南之方明地內、岡部和泉守・沼間日向守兩人屋舗被下、日向守南續朝比奈平助・山中忠左衛門・飯高又兵衛三人元屋舗場所返被下、前書源左衛門屋敷北之方道向有來平田伊右衛門屋敷北續明地內、三橋太次右衛門・瀨名傳右衛門元屋舗場所返被下、兩人屋舗間ニ而、森川八左衛門・金森六左衛門屋舗被下、右傳右衛門北續有來鈴木六右衛門屋舗北續道向明地內、伊藤彌市郎元屋舗場所返被下、右屋舗々東之方有來三ヶ所明地者其儘有之。

一、寶永七寅年二月前書御堀端通三ヶ所明地之內、北之方明地松平阿波守・玉田忠四郎屋敷被下、南之方道向明地內、北之方松平甚九郎・南續本多伊豫守屋舗被下、南之方道向明地內、北之方伊豫守屋敷被下、（其頃伊豫守屋舗者貳ヶ所有之。）南續御堀端通東南折廻角迄酒井信濃守屋舗被下、同八卯年二月前書信濃守西續ニ而有之飯高又兵衛・朝比奈平助・山中忠左衛門、西之方道向樋口又兵衛・松田孫左衛門・小花和太兵衛・朝日三十郎・石來助六郎・塚原四郎左衛門屋舗被召上、同所元島田利兵衛・中澤八右衛門・大野重兵衛上ヶ地跡明地共一構ニ成、前田又五郎屋舗被下、同人屋舗北通ゟ東

之方酒井信濃守屋鋪境南之方ゟ折廻、土手通ゟ續新道出來、右新道北側元小花和太兵衛屋鋪跡之邊割殘地出來、（此割殘地正德元卯年若菜伊十郎屋鋪被下。）其外屋鋪主代り候所有之、享保七寅年八月御堀端通前書松平甚九郎屋鋪上ケ地、割屋鋪ニ成、岩田平十郎・鈴木丈右衛門・中島淺右衛門・橋本覺左衛門四人屋鋪被下、且享保八卯年前書麹町三町目谷通り東側中程ニる、伏見主水屋鋪上ケ地ニ成、奥村三平・村島清三郎屋鋪被下、其節清三郎屋鋪南之方有來割殘地內通路出來、殘地所年月不知佐々與右衛門御預り地ニ成。

一、享保九辰年二月御堀端通前書本多伊豫守屋鋪貳ケ所之內、北之方屋鋪者上ケ地ニ成、久保田武兵衛・有田忠右衛門・松平新九郎屋鋪被下、南之方伊豫守屋鋪者割替ニ成、北之方內藤賴母屋鋪被下、賴母南續者矢張伊豫守屋鋪ニる、同續酒井信濃守屋鋪并同所西之方道向前田丹後守（先又五郎）屋鋪共上ケ地ニ成、信濃守上ケ地內前書伊豫守屋鋪續之場所同人ゟ添地被下、添地西續長坂式部屋鋪被下、同人屋鋪南通ゟ伊豫守屋敷限り行留通路出來、右伊豫守添地南續東之方小花和伊織・西續早川十兵衛・布施孫兵衛屋鋪被下、西之方道向前書丹後守上ケ地內、東之方阿部出雲守・西續北條安房守・同續北之方大久保半三郎・南續武藤庄兵衛・佐脇十左衛門打越佐太夫、都合六人屋鋪被下、佐太夫・十左衛門屋敷東通り庄兵衛屋鋪限り行留通路出來、其外一體之屋鋪々主代り候所有之。

一、寬政四子年七月此邊類燒後、同年九月半藏御門外ゟ御堀端通田安御門外邊迄火除明地ニ成候節、此場所御堀端通北之方堀田豐前守屋鋪之助・岩田平十郎、右四人屋鋪、（是者寶永年中松平甚九郎屋鋪ニ而、其後上ケ地割屋鋪ニ成、追々主代ル。）南續金森六左

衛門・織田市十郎・湯上彌次右衛門三人屋鋪、是者寶永年中本多伊豫守屋鋪ニ而、其後上ケ地割屋鋪ニ成、追々主代ル。南之方道向荒川新右衛門・大久保長門守・小花和主馬先名伊織・早川内藏之助先名十兵衛四人屋鋪、是者寶永年中本多伊豫守・酒井信濃守屋鋪ニ而、其後上ケ地割屋鋪ニ成、追々主代ル。前書屋鋪々々御用地被召上、跡火除明地三ケ所出來、同年十一月南之方明地續有來稻生五郎左衛門元長坂式部屋鋪北續明地ニ而、荒川新右衛門替地被下、同人屋敷東通ゟ新道出來、且同年同月北之方明地内、三番町通より新道壹番町通り折廻角美濃部彦十郎替地被下、同五丑年ゟ前書火除明地一躰ニ向寄大名ゟ御預ニ成、同六寅年五月植物場地所御勘定所ゟ渡之、同七卯年四月澁江長伯御預り御藥園長伯一手持御預り渡之、向寄大名御預者相止、且前書荒川新右衛門屋敷北續新道内西之方、同五辰年十二月木原兵三郎御預地ニ成、文政元寅年六月右御預地村瀨岡右衛門屋敷、同八酉年田中十次郎屋敷ニ成。其外屋敷主代り候所有之候得共、寛政年中荒川新右衛門屋敷東之方新道出來候而已ニ而、一躰之道敷ゟ寶永年中より當時之形ニ有之。

延寶之頃ヨリ
元禄九子年迄之形

東

南

元禄十七年之形

東

南

西

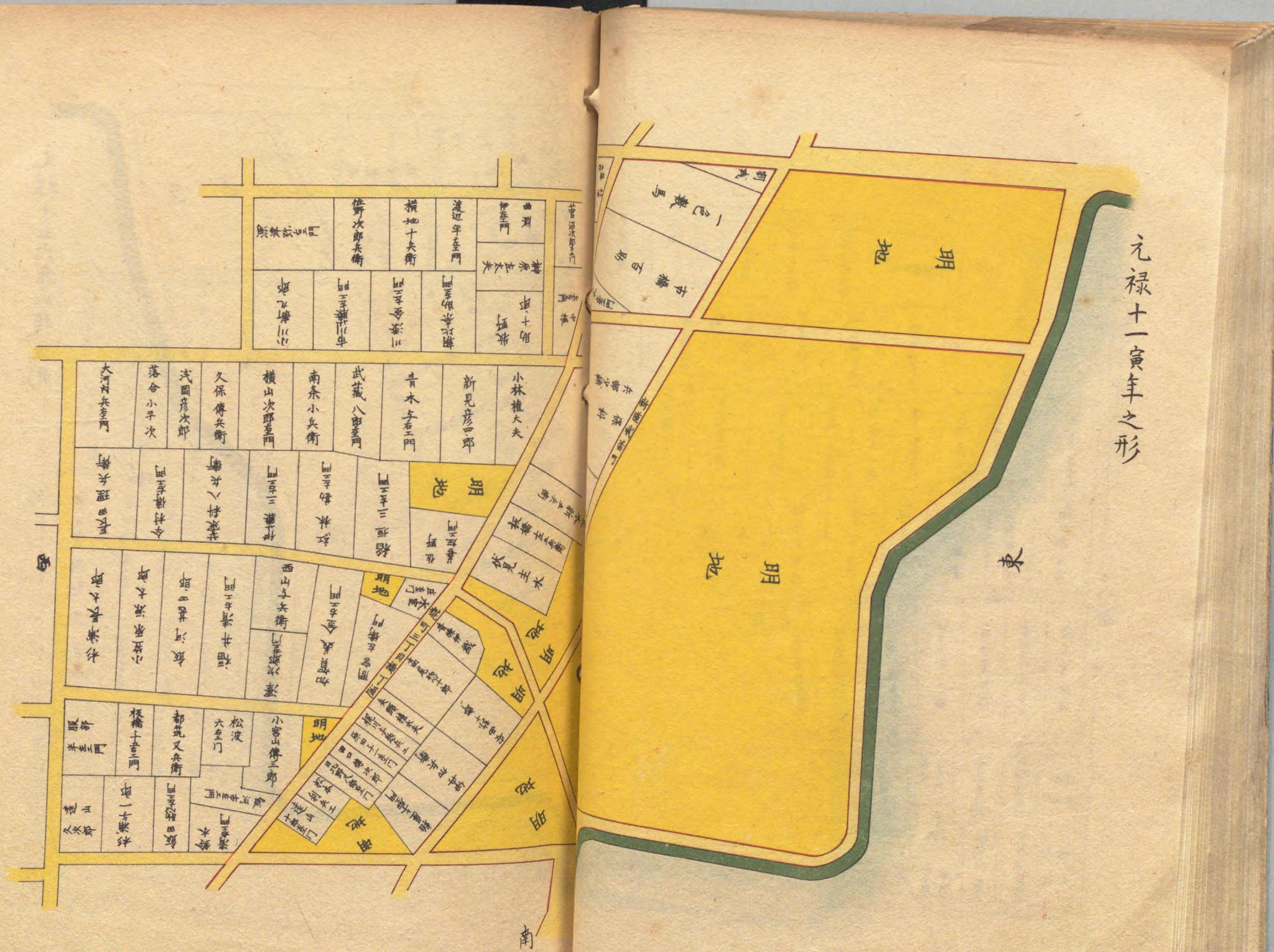
北

明地

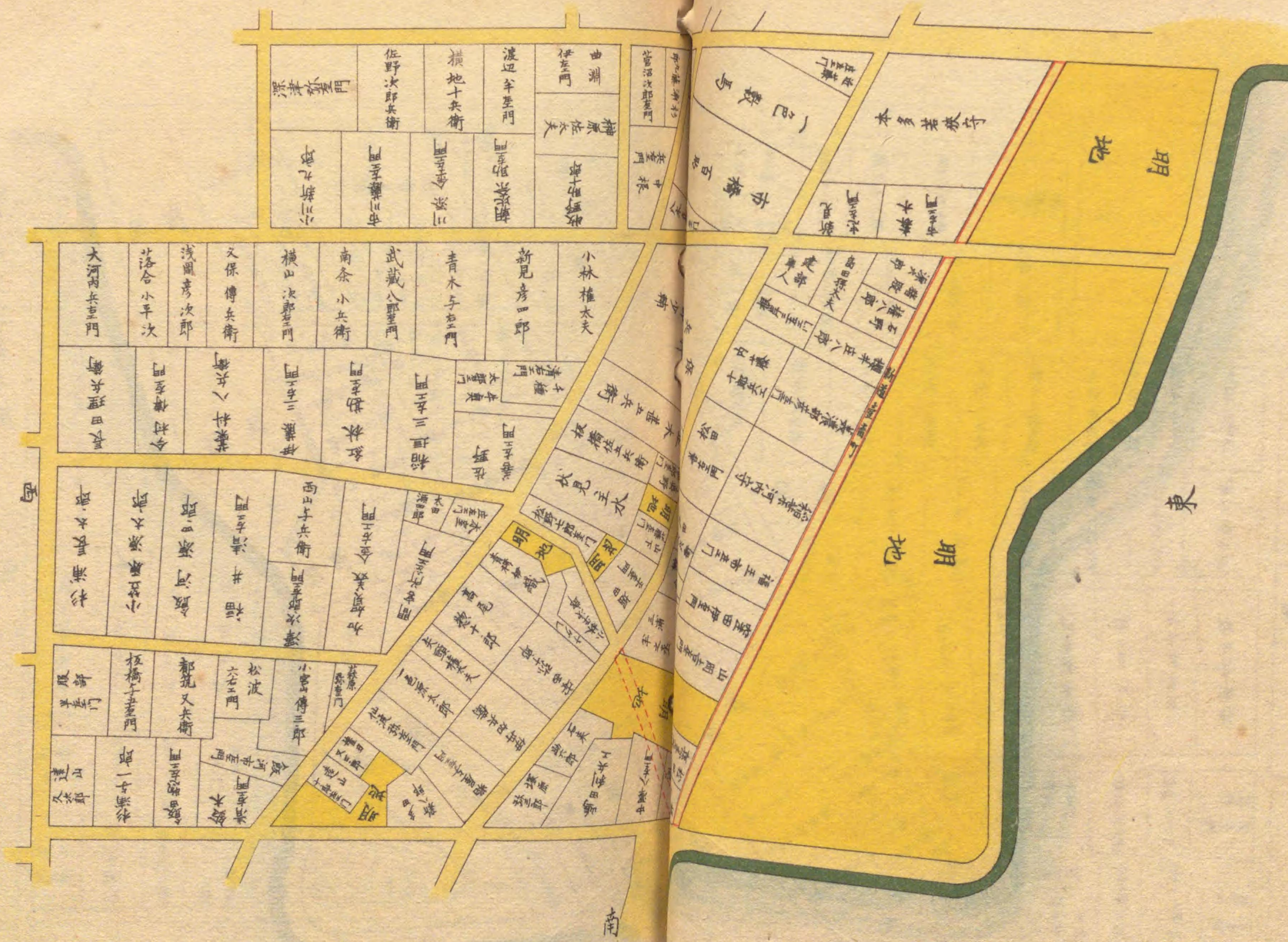
明地

明地

元禄十一寅年之形


東
南
明地
小林權大夫
新見彦四郎
青木左右エ門
武蔵八郎左門
横山次郎左門
南条小兵衛
久保傳兵衛
浅岡彦次郎
落合小平次
大河内兵左門
小川新九郎
市川藤左エ門
川澄金左エ門
朝比奈助左エ門
牧野
助十郎
佐野次郎兵衛
横地十兵衛
遠辺半左エ門
曲淵
伊左エ門
小宮山傳三郎
松波
六左エ門
都筑又兵衛
板橋十左エ門
鈴木
三郎兵衛
杉浦半一郎
飯田助左エ門
小笠原長太郎
飯河甚四郎
福井清左エ門
澤次郎左エ門
加賀爪金左エ門
西山子兵衛
杉浦長太郎
今村傳兵衛
落合理兵衛
大河内兵左エ門

元禄十五六年以後之形



寶永二三年之形

寶永五子年之形

東

南

西

北

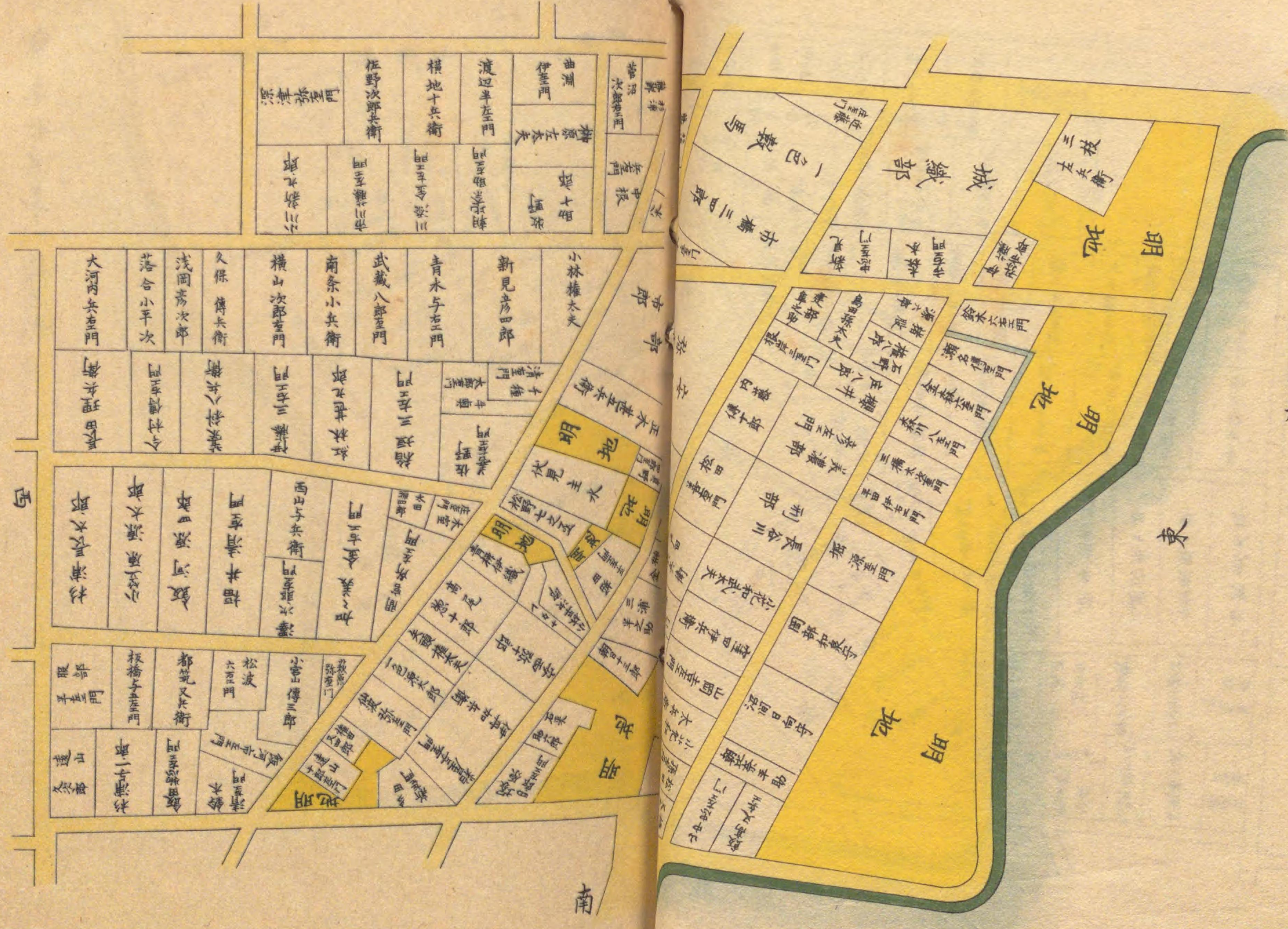
明地

明地

明地

明地

寶永六巳年之形


東
西
南
明地
明地
明地
明地
城織部
小林権太夫
新見彦四郎
青木与三右衛門
武藏八郎右衛門
南条小兵衛
横山次郎右衛門
久保傳兵衛
浅岡彦次郎
落合小平次
大河内兵右衛門

寶永七寅年以後之形

享保九辰年以後之形

東

南

西

寛政四子年之形

東

西

南

北

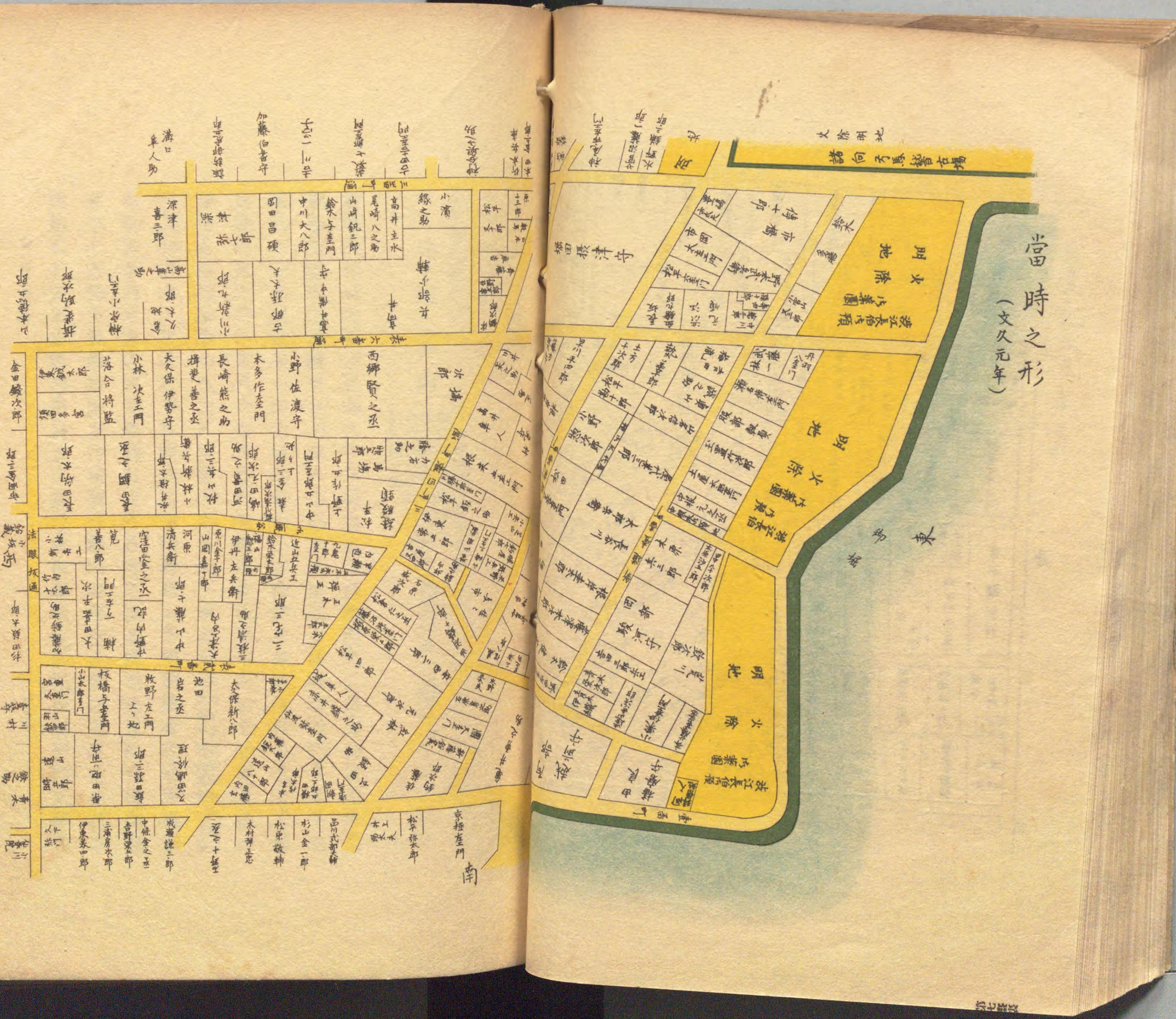
明地

火除地

東
西
南
北
火除明地
西郷筑前守
鳥居丹波守
深津弥七郎
佐野佐渡守
秋間東兵衛
長崎源之助
落合鉄吉
由良新六
松波久八郎
牧野熊五郎
板橋勝三郎
大久保筑後守

文化五辰年之形

當時之形
（文久元年）



文化五辰年

番町之内

半藏御門外麹町大通北側四町目横町際迄北之方御堀端壹番町右裏貳番町南側通四町目横町通ヲ限

屋敷々并道式共

右地所、延寶之頃ゟ元祿九子年頃迄ハ、半藏御門外北之方御堀端火消御役屋敷有之、北續長谷川隼人・小栗又兵衞・江原與次右衞門・米津千之丞・松平介之丞・江原一郎右衞門・柴山小左衞門屋敷地續ニ而、北之方通路道向東之方小栗八十郎・宮重作兵衞・小宮山孫十郎右三屋敷、北續山寺勘右衞門屋敷ニ而、同人屋敷北之方大下水有之、（此大下水當時御堀端壹番町永井内膳屋敷脇大下水と相見候得共不詳。）右大下水北之方筧彌惣右衞門屋敷より屋敷續有之、前書火消御役屋敷西之方道式ヲ隔、麹町壹町目町屋裏北續花房五郎左衞門・安藤平七・大橋平兵衞・加藤左内屋敷一纏之地續有之、北之方道向中根左兵衞・石川太郎右衞門・平岩金左衞門・鎌田藤助・大久保彦左衞門・安藤大

膳屋敷一纏之地續有之、北之方道向大木五郎右衛門・上村庄右衛門・戸田六兵衛・太田善太夫・塚原彌三郎・勝部半右衛門・小俣七郎右衛門・森川六左衛門・長尾庄右衛門屋敷ニ而、同人屋敷北之方行留道續崖地割殘有之、西續小林權太夫・佐橋儀左衛門・佐橋甚右衛門、同續南之方松波六藏・榎本小左衛門、北之方横地所左衛門・小田切太郎左衛門屋敷一纏之地續有之、且麹町貳町目町屋裏北續松平内藏助・築田半兵衛岡部久太郎・鈴木内藏助屋敷一纏之地續有之、北之方道向新見藤左衛門・小俣次郎左衛門・佐々木理助・小宮山四郎右衛門屋敷一纏之地續有之、南之方ゟ鈴木内藏助・久太郎・理助・四郎右衛門・庄右衛門屋敷ニ而、麹町三町目横町東側ニ有之、佐橋甚右衛門屋敷も右横町行當道向ニ而、南東ゟ北西ゟ筋違之屋敷ニ有之、右横町西之方道向麹町三町目・四町目町屋裏北續三町目横町之方岡野平左衛門・永井七左衛門、西續牧野攝津守・大橋

三太夫・松下三左衛門・門奈伊左衛門・江原三右衛門・辻太郎助・服部七郎左衛門・石谷十助屋敷一纏之地續ニ有之、其外北之方貳纏之屋敷續も如當時有之。

一、元祿十丑年半藏御門外ゟ飯田町鵜木坂邊迄廣場ニ成候節、前書麹町三町目横町東側通ゟ佐橋甚右衛門屋敷限、東之方御堀端迄屋敷々道式共廣場ニ成、町屋も如以前有之、前書筋違ニ有之候佐橋甚右衛門・佐橋儀左衛門上ヶ地之内、三町目横町通ヲ限、東之方も廣場内ゟ入、西之方も明地ニ成。

一、元祿十一寅年前書廣場之内、麹町壹町目・貳町目有來町屋裏之方新町屋出來、壹町目町屋限北之方御藥園ニ成、西之方貳町目町屋裏限、北之方南西折廻町屋出來、右町屋北續加藤庄兵衛・保木彌右衛門・野一色賴母・大岡宇右衛門屋敷ニ被下、北續も明地ニ成、右北之方山岡七右衛

門・中山傳五郎屋敷被下候場所迄、一纏之地續ニ成、四方道式出來、但、道式之内御堀端之方者廣道ニ成、北之方者當時御堀端壹番町ゟ貳番町之方江之道式ニ而、延寶之頃飯高市郎兵衛・内藤八郎左衛門伏見勘七郎・岡部左兵衛・寛彌惣右衛門屋敷跡之内ニ有之、右之譯者御堀端壹番町之部ニ記。其外屋敷主代り候所も有之。

一、元祿十二卯年前書御藥園跡、南之方ゟ本多大膳・山口勘兵衛・稻葉市右衛門・加藤兵助・大久保豐前守・柴山平九郎・高井八郎右衛門・小宮山友右衛門・内藤八郎左衛門屋敷被下、豐前守・平九郎屋敷西之方なたれ割殘明地等出來、且前書大岡宇右衛門屋敷北續明地之内、岡田五左衛門・永井勘九郎・森〇國ニ與惣右衛門トアルヲ正トス・與惣兵衛・油川五郎太夫・小林市郎兵衛屋敷被下、五郎太夫屋敷前脇ゟ市郎兵衛屋敷前之方ゟ本多大膳・山口勘兵衛・稻葉市右衛門・加藤兵助・大久保豐前守・柴山平九郎・高井八郎右衛門・小宮山友右衛門・内藤八郎左衛門屋敷被下、豐前守・平九郎屋敷西之方なたれ割殘明地等出來、且前書大岡宇右衛門屋敷北續明地之内、岡田五左衛門・永井勘九郎・森與惣兵衛・油川五郎太夫・小林市郎兵衛屋敷被下、五郎太夫屋敷前脇ゟ市郎兵衛屋敷前之方ゟ新道出來、右新道北之方村田長庵屋敷被下、同續割殘地出來、同續山下新兵衛屋敷被下、同人西續ゟ前書中山傳五郎・山岡七右衛門屋敷ニ成る、同續山名左兵衛・淺羽次右衛門屋敷被下、且前書麹町貳町目北裏町屋之内、南之方元祿十四巳年被召上、

西之方ゟ曲淵市郎兵衛・小川伊兵衛・揖斐新右衛門屋敷被下、殘ル西之方地所ゟ矢張町屋ニ成る有之、其外屋敷主代り候所も有之。

一、寶永五子年前書相殘候貳町目北裏西之方町屋、南之方ゟ島田利兵衛・中澤八右衛門・安部次兵衛屋敷ニ成、享保三戊年前書麹町四町目・五町目町屋北裏岡野平左衛門外九人一纏地所之内、安部主計元岡野平左衛門・永井十郎左衛門先七左衛門屋敷ゟ其儘有之、殘屋敷々西之方通路共被召上、松平采女正屋敷被下、其外屋敷主代り候所も有之。

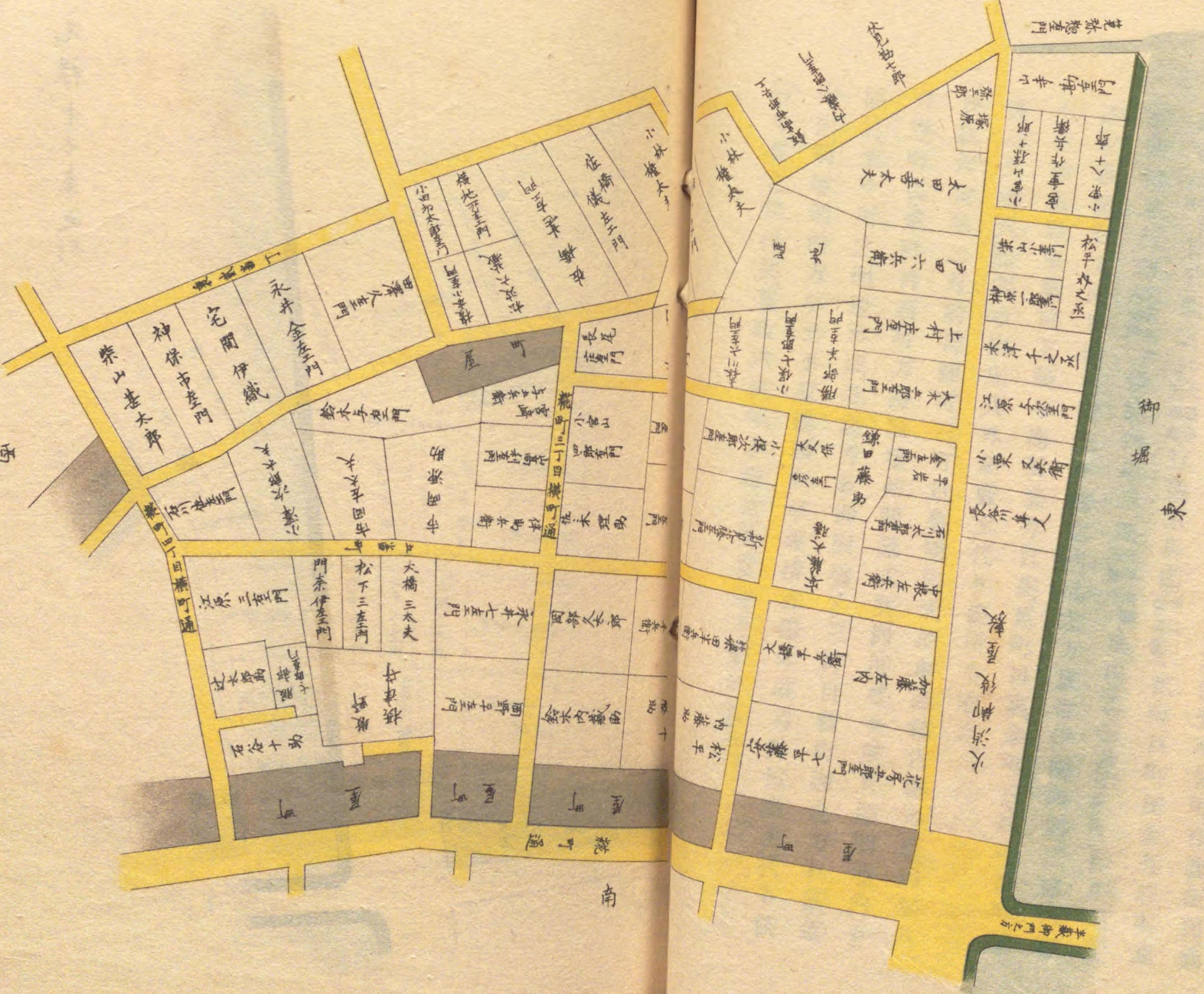
一、享保十三申年麹町壹町目ゟ八町目迄町屋北裏通火除廣道出來之節、前書本多大膳・揖斐七右衛門・小川伊兵衛・久志本左京元曲淵市郎兵衛・安部主計・永井七左衛門・松平采女正屋敷被召上、地所割替ニ成、壹町目町屋裏佐野式部・首藤又四郎、貳町目町屋裏久志本左京、三町目・四町目町屋裏松平采女正屋敷被下、御堀端ゟ右屋敷々南通廣道出來、但、此廣道年月不知麹町北横町通ヲ限、四ケ

所町方持明地ニ成。

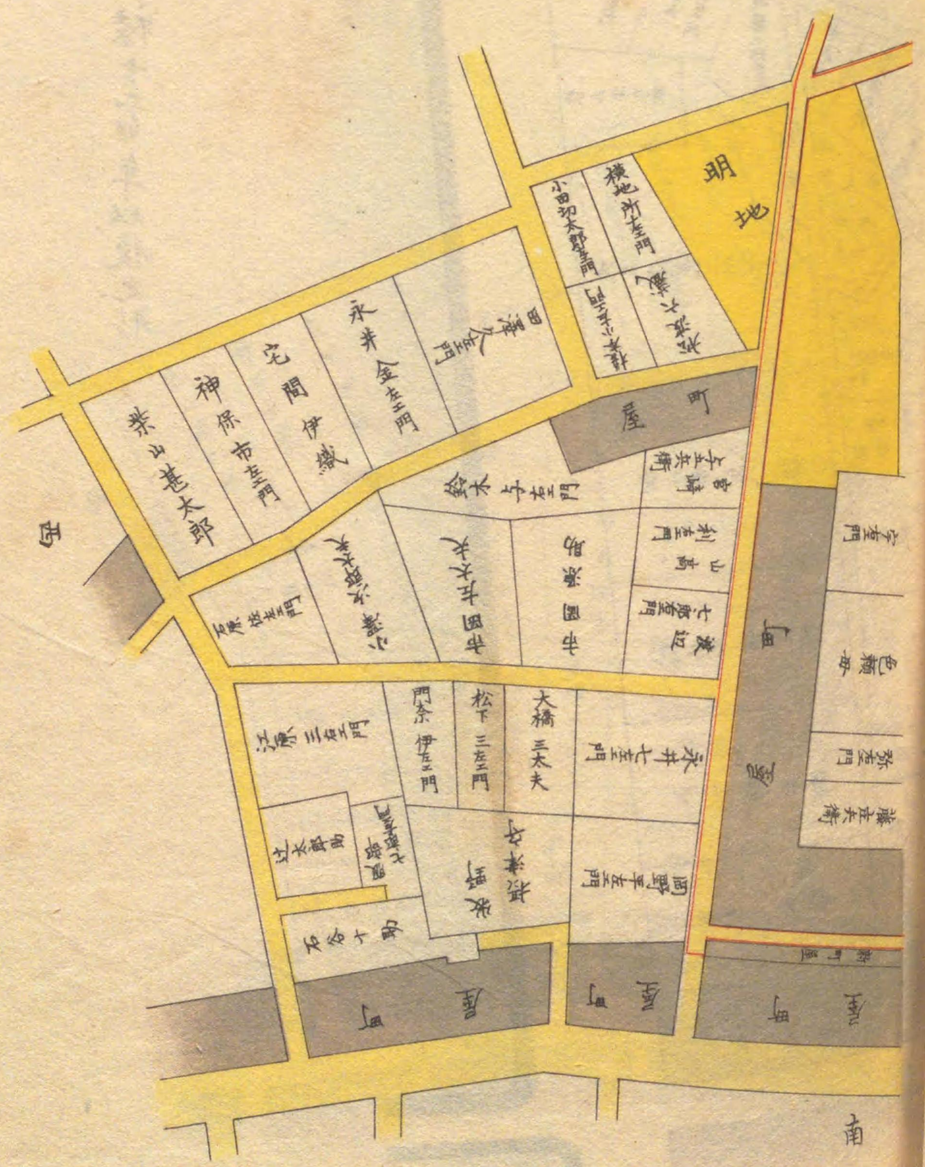
一、寛政四子年前書町方持明地北之方屋敷ゟ之内、壹町目町屋裏飯田能登守（元佐野式部）・曾我熊之助（元首藤又四郎）・巨勢求馬助（元山口勘兵衛）・貳町目町屋裏久志本左京・岡田忠三郎（元森川六左衛門）・伊庭四郎三郎（元保木彌右衛門）・島田乙三郎（先利兵衛）・松平采女正屋敷被召上、山口勘兵衛上ケ地之内、北之方東寄伊庭四郎三郎・西寄小花和主馬屋敷被下、殘ル地所壹町目裏、貳町目裏、參町目・四町目町屋裏三ケ所火除明地出來、其外屋敷主代り候所も有之。

一、寛政六寅年二月前書麹町三町目裏明地大的射込稽古場ニ成、同年八月壹町目・貳町目裏町方持明地并間道式共、同所貳ケ所火除明地内ゟ圍込、壹ケ所之明地ニ成、北之方ゟ御堀端ゟ三町目横町通之方ゟ新道出來、明地廻四方小土手取建、諸向弓馬稽古場ニ成、其外屋敷主代り候所も有之候得共、寛政六寅年ゟ道式も當時之形ニ有之。

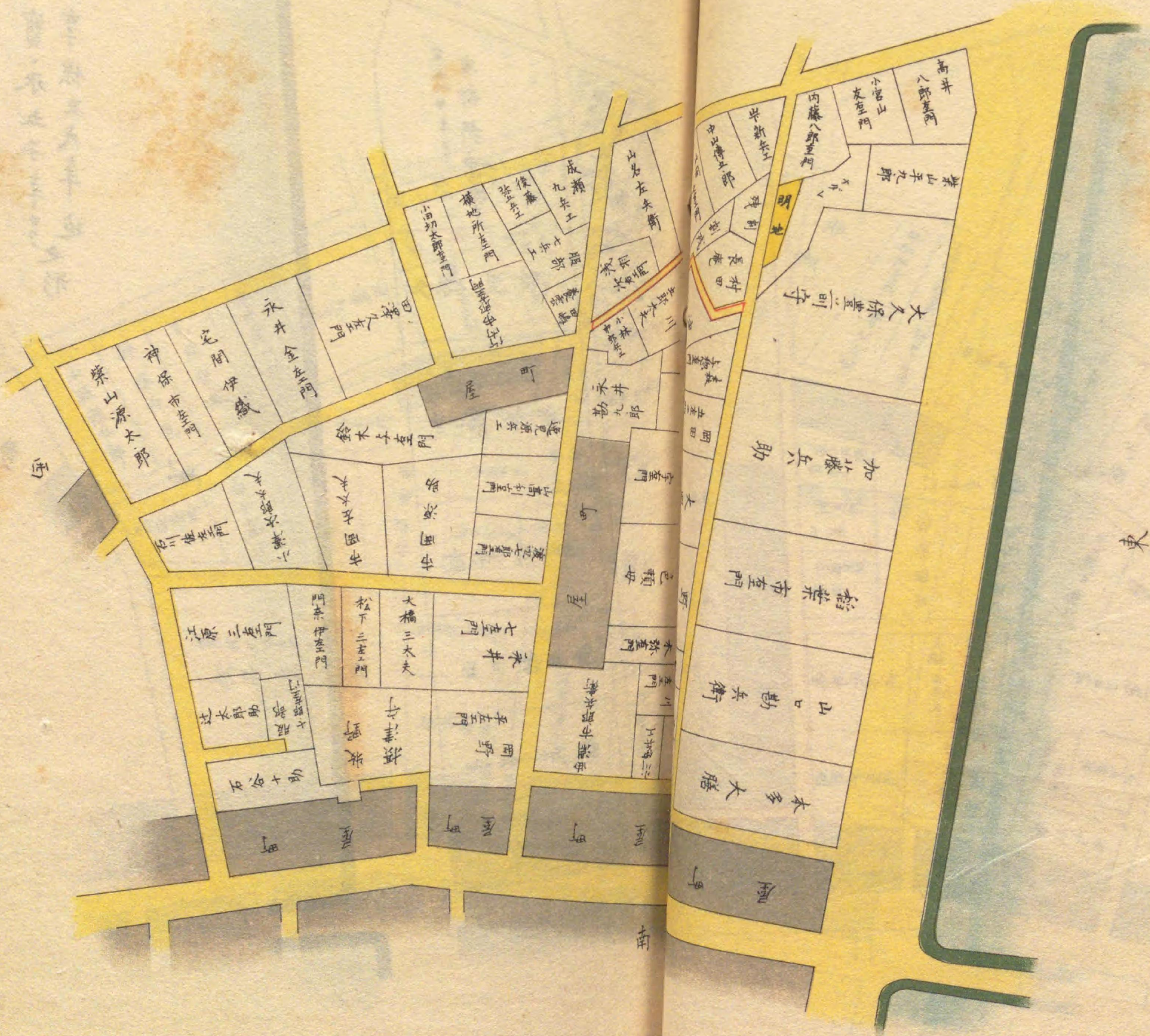
延寶之頃ヨリ元禄九子年迄之形



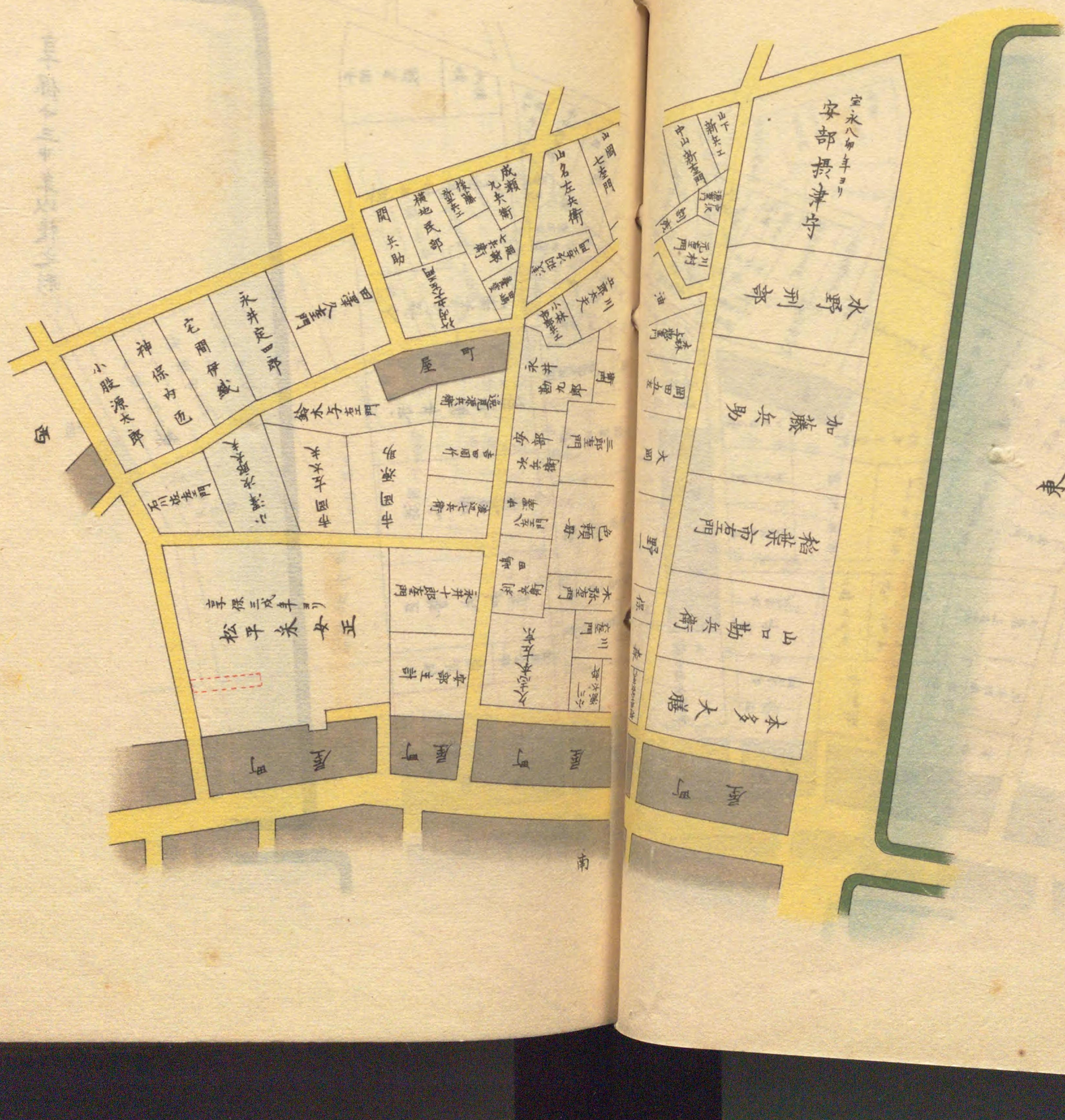
元禄十一寅年之形



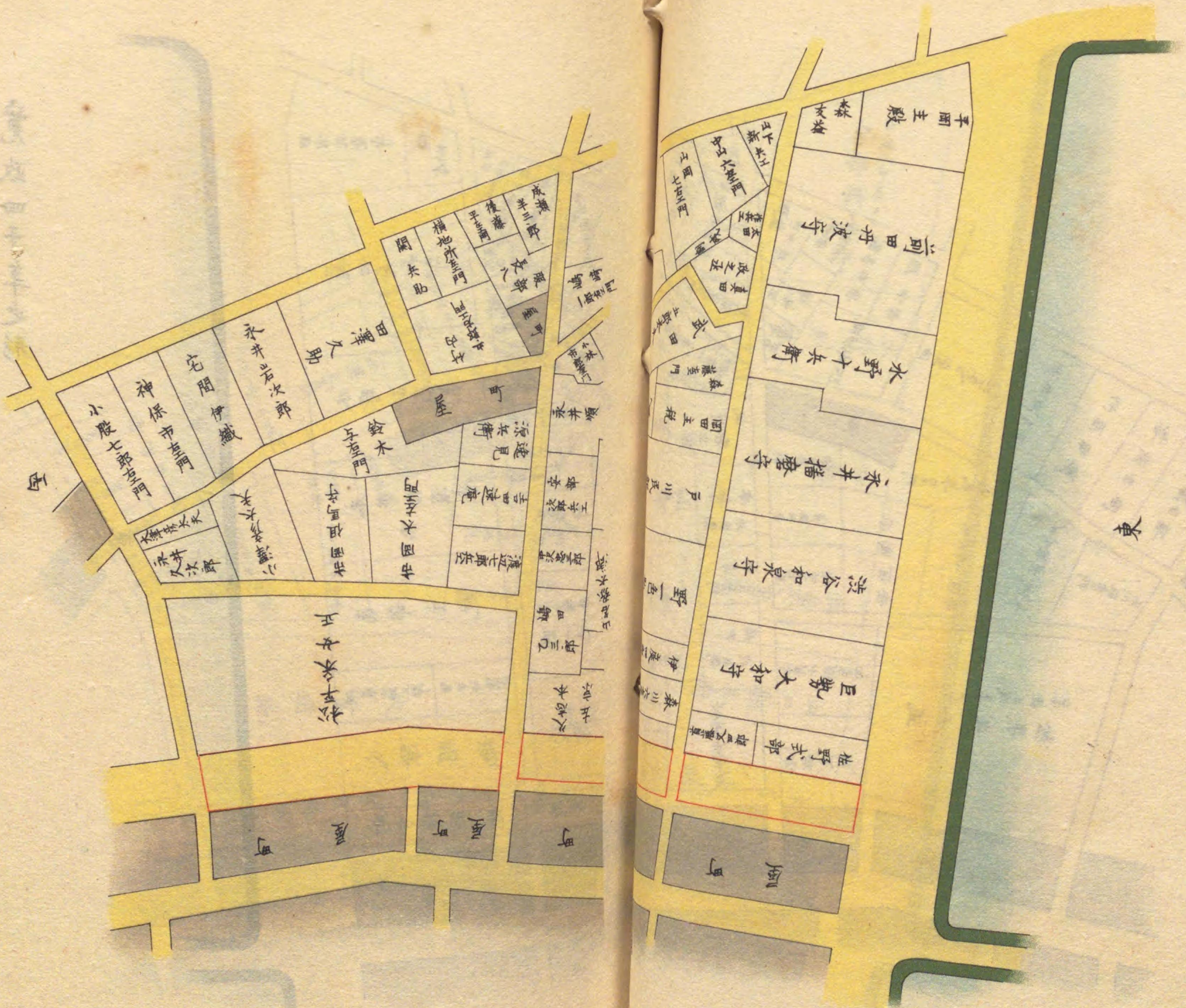
元禄十二卯年以後之形



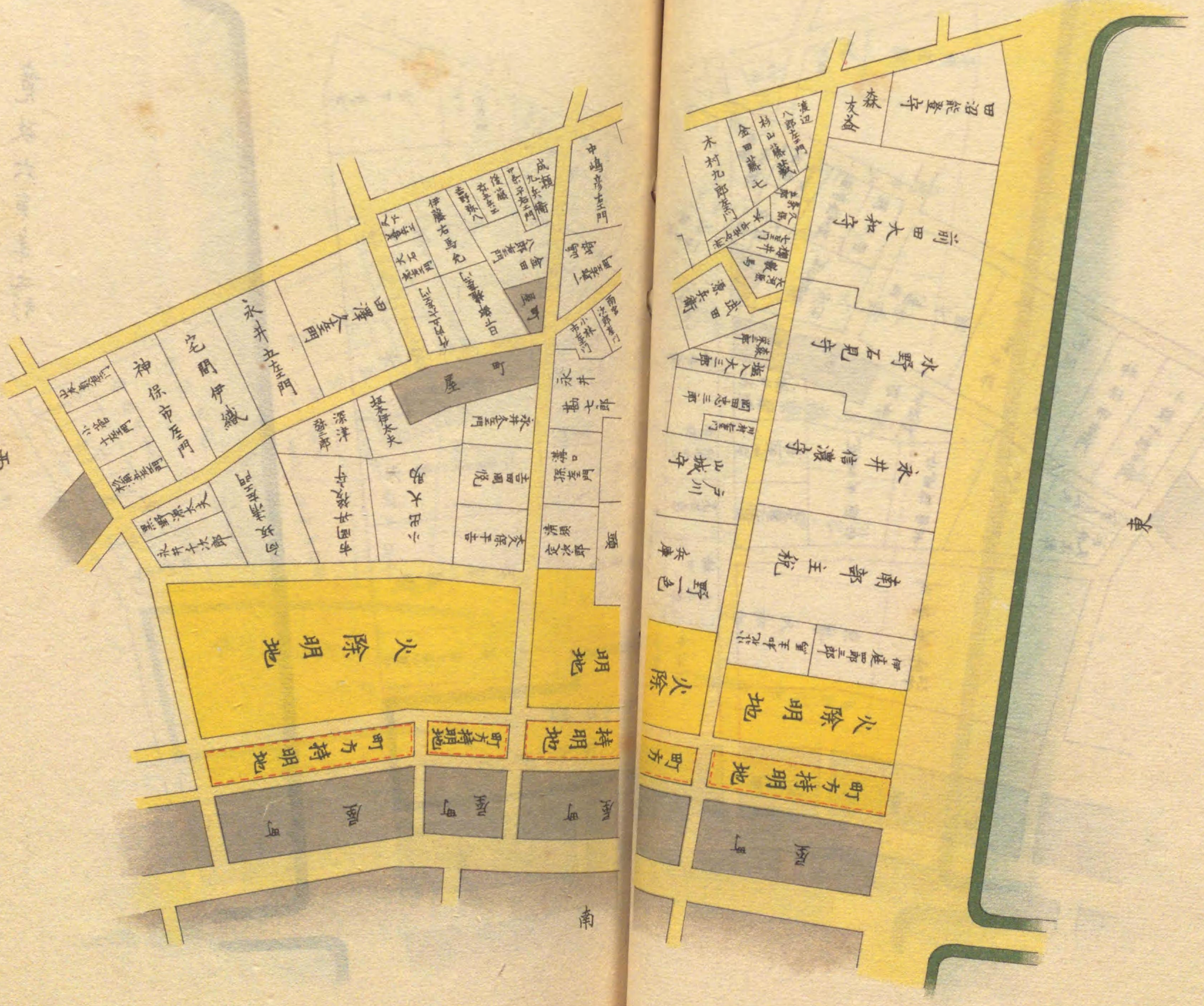
寶永五子年ヨリ
享保三戌年迄之形



享保十三申年以後之形

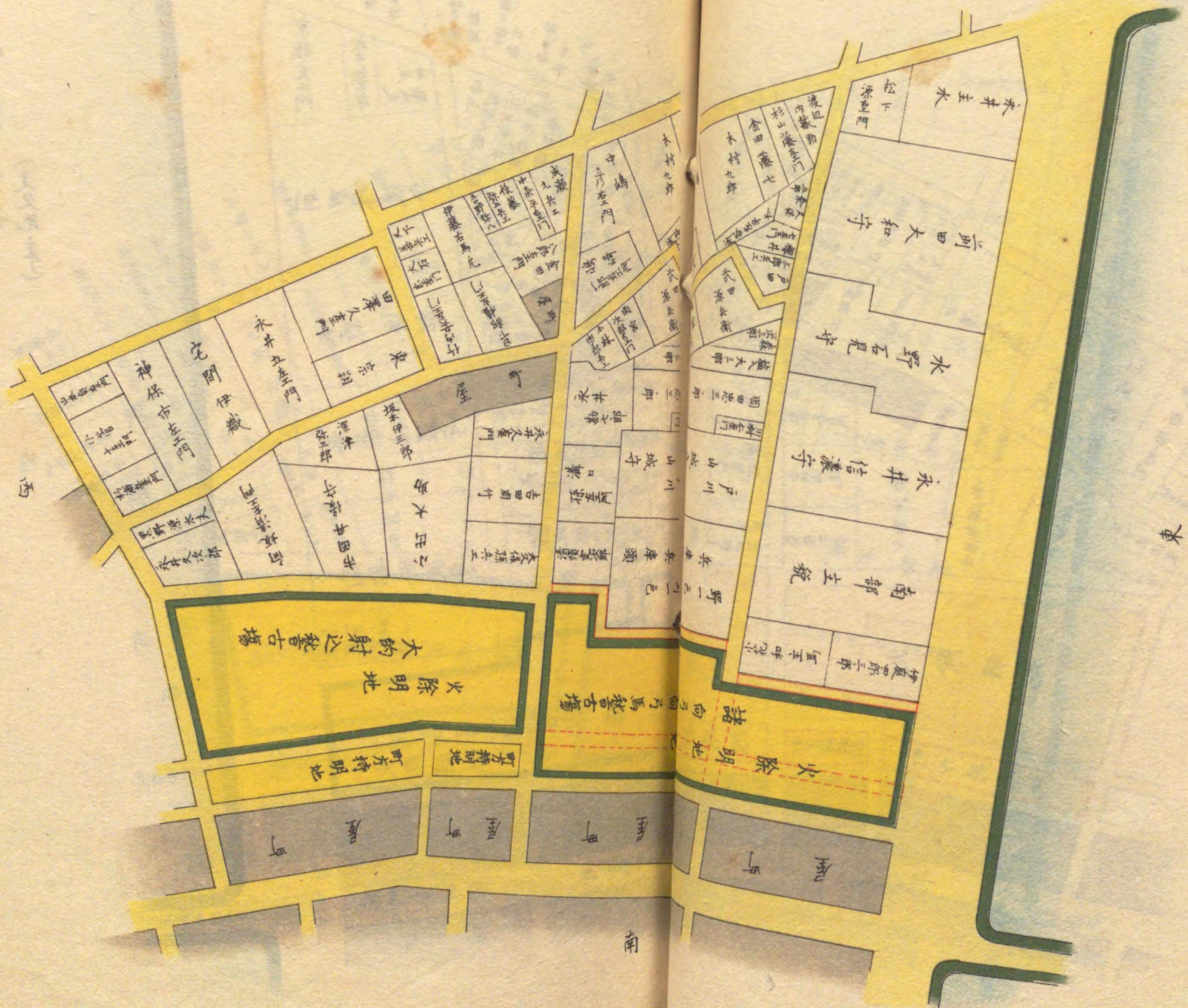


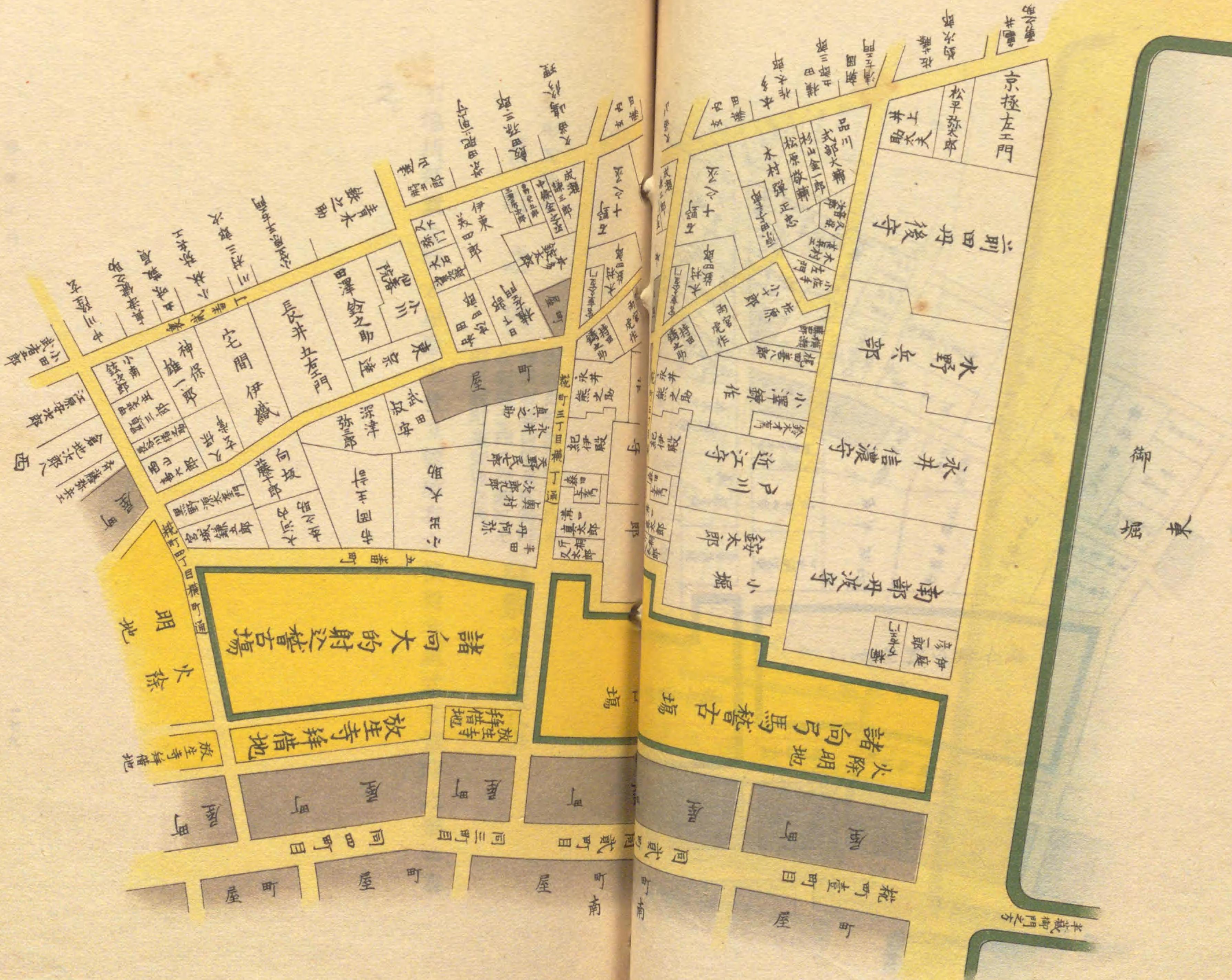
寛政四子年之形



東
西
南
前田大和守
水野石見守
永井信濃守
南部主税
宅間伊織
永井五左衛門
神保市左衛門
町屋
火除明地
火除明地
火除
明地
火除明地
町方持明地
町方持明地
町方持明地

寛政六寅年之形


西
南
東
水野石見守
永井信濃守
南部主殿
前田大和守
神保佐左衛門
宅間伊織
永井五右衛門
火除明地
大的射込稽古場
町方拝借地


諸向大的射込稽古場
放生寺拝借地
火除明地
諸向明地
弓馬稽古場
水野兵部
永井信濃守
戸川近江守
南部丹波守
鈴木太郎
長井五右衛門
町屋
御堀

當時之形（文久元年）

文化五辰年

番町之内

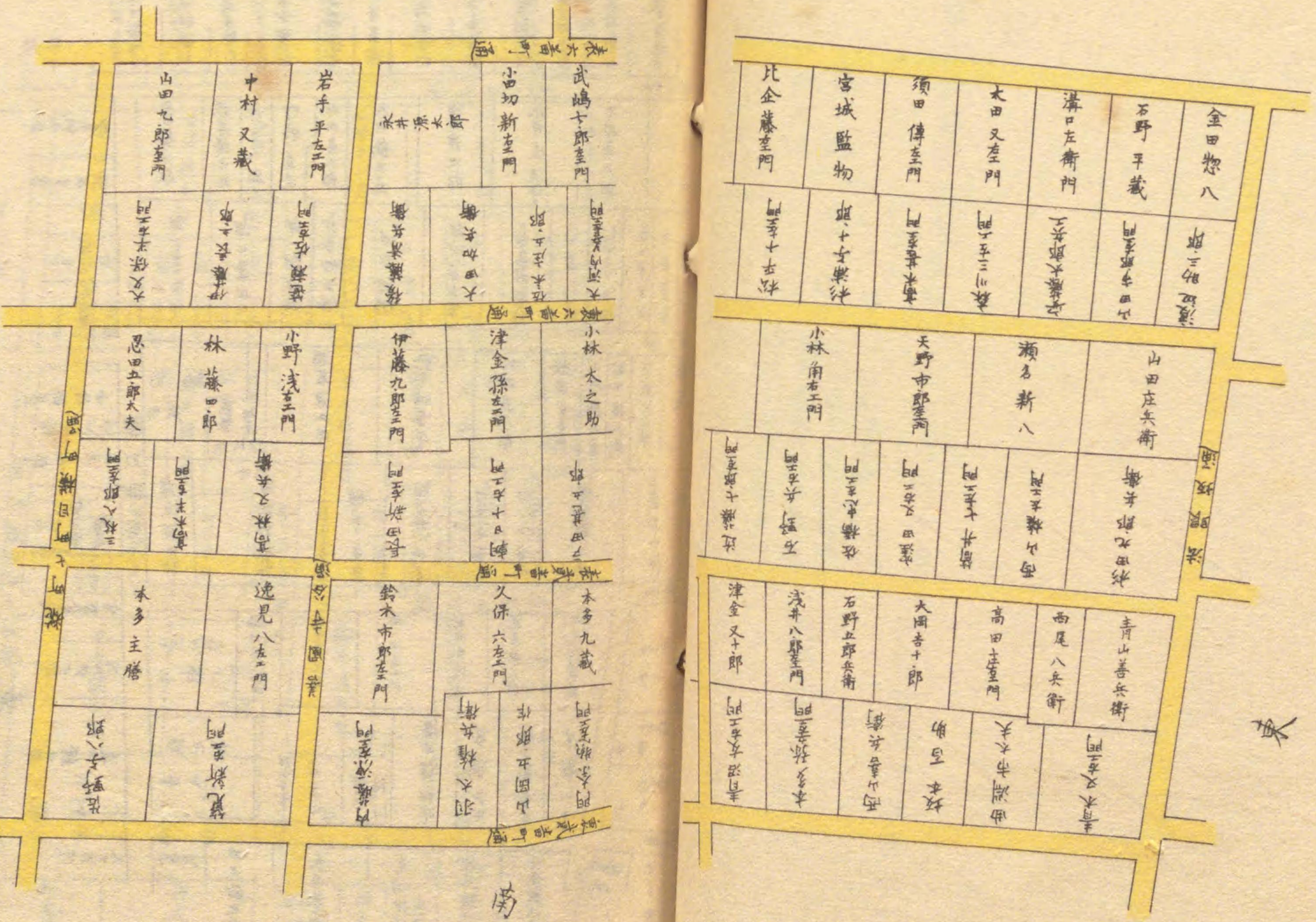
表六番町南側通之内ゟ
法眼坂通西側裏貳番町
北側通之内ヲ限麹町七
町目横町東側通之内

屋敷々並道式共

右地所、延寶之頃ゟ屋敷主代り候所有之候得共、道式ゟ當時之形ニ有之。

延寶年中之形

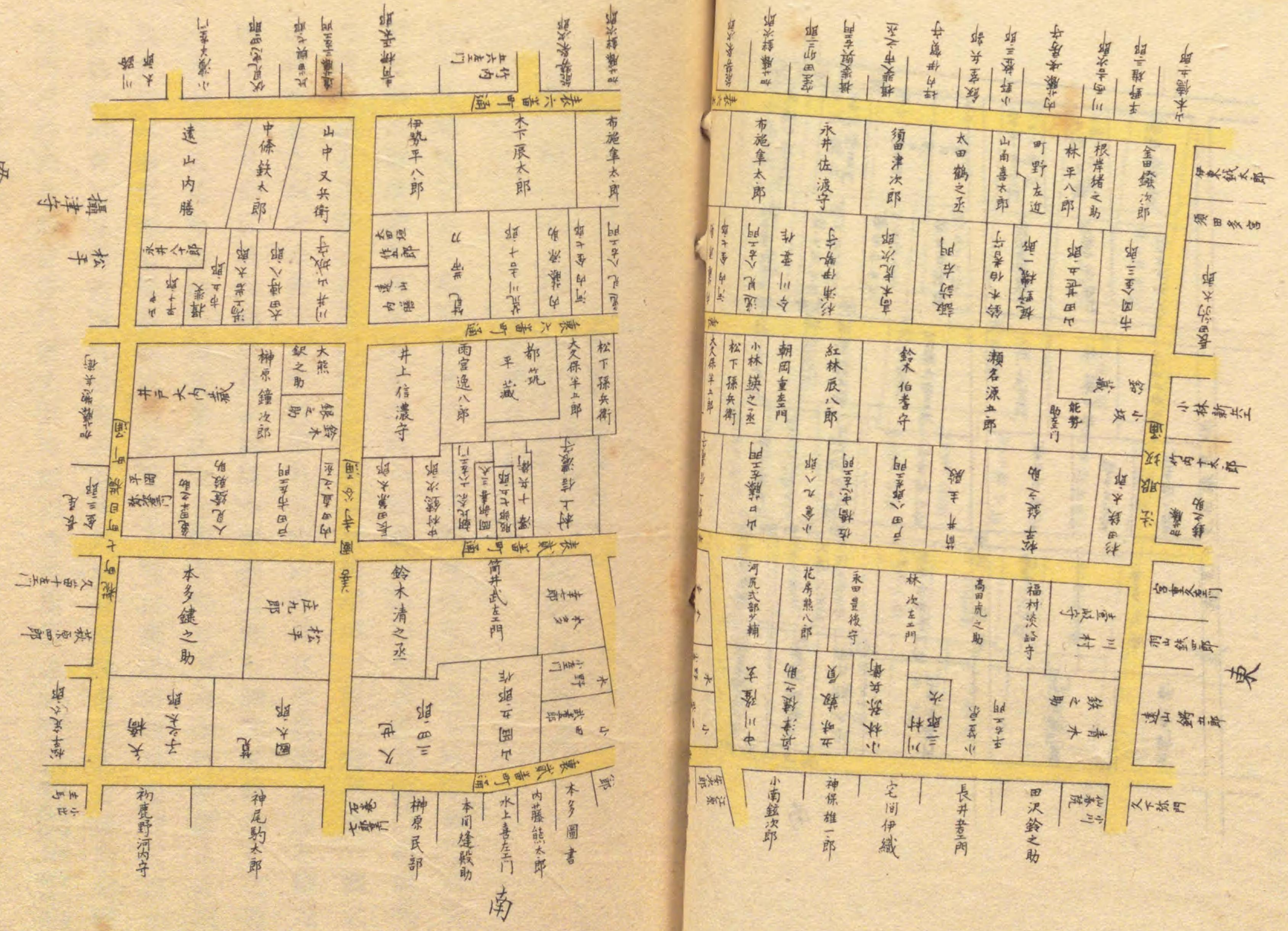
西



山田九郎右衛門
中村又蔵
岩手平左衛門
小田切新右衛門
恩田五郎大夫
林藤四郎
小野浅右衛門
伊藤九郎右衛門
津金孫右衛門
小林太之助
本多主膳
逸見八左衛門
鈴木市郎右衛門
久保六左衛門
本多九蔵
比企藤右衛門
宮城監物
須田伴右衛門
太田又左衛門
溝口左衛門
石野平蔵
金田惣八
小林角右衛門
天野市郎右衛門
瀬名新八
山田庄兵衛
津金又十郎
浅井八郎右衛門
石野五郎兵衛
大岡吉十郎
高田主右衛門
西尾八兵衛
青山善兵衛
東

南

當時之形
（文久元年）



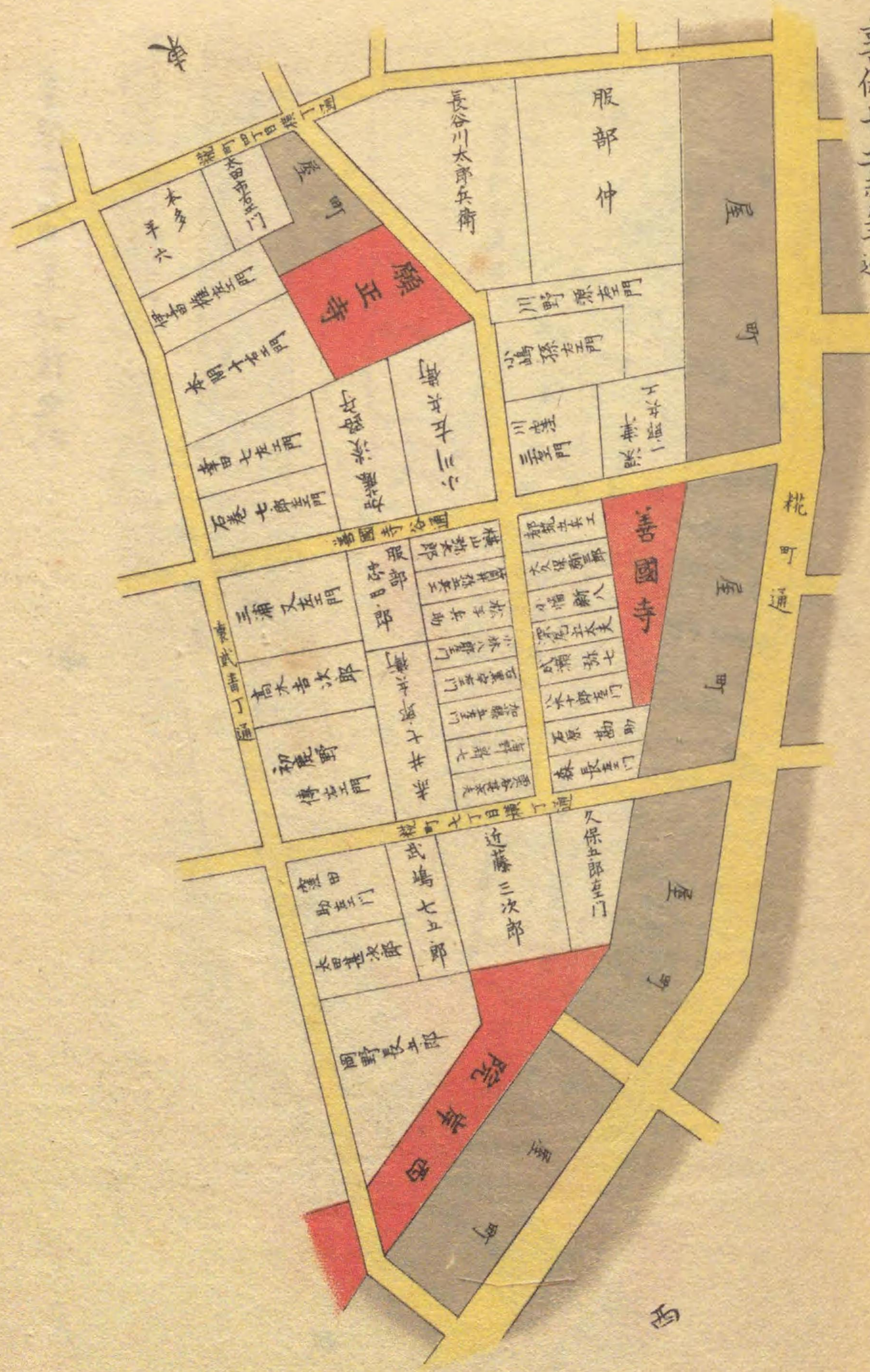
文化五辰年

番町之内

裏貳番町南側通之内江原留次郎屋敷ゟ麹町九町目迄同人屋敷ゟ四町目北横町通ヲ限

屋敷々並道式共

右地所延寶之頃ゟ、麹町四町目・五町目町屋裏、東之方北續服部仲・長谷川太郎兵衛屋敷有之、兩屋敷西續川野源右衛門・小島孫右衛門兩屋敷、西續北之方川窪三右衛門・南之方町屋裏續深津一郎兵衛屋敷一纏之地續ニ有之、西之方麹町五町目横町道向六町目町屋裏、東之方北續善國寺住居并都筑五兵衛屋敷ゟ西續小屋敷七軒一纏之地續ニ有之、西之方七町目横町道向町屋裏、東之方北續久保五郎右衛門屋敷ゟ北西裏貳番町通折廻し屋敷續ニ而、八町目・九町目裏之方西岸院住居迄一纏地續ニ有之、且前書四町目裏長谷川太郎兵衛屋敷北之方道向當時筧門三郎・細井豊前守屋敷ゟ、其頃願正寺住居有之、（但願正寺住居地享保三戌年被召上、曲淵與右衛門・木



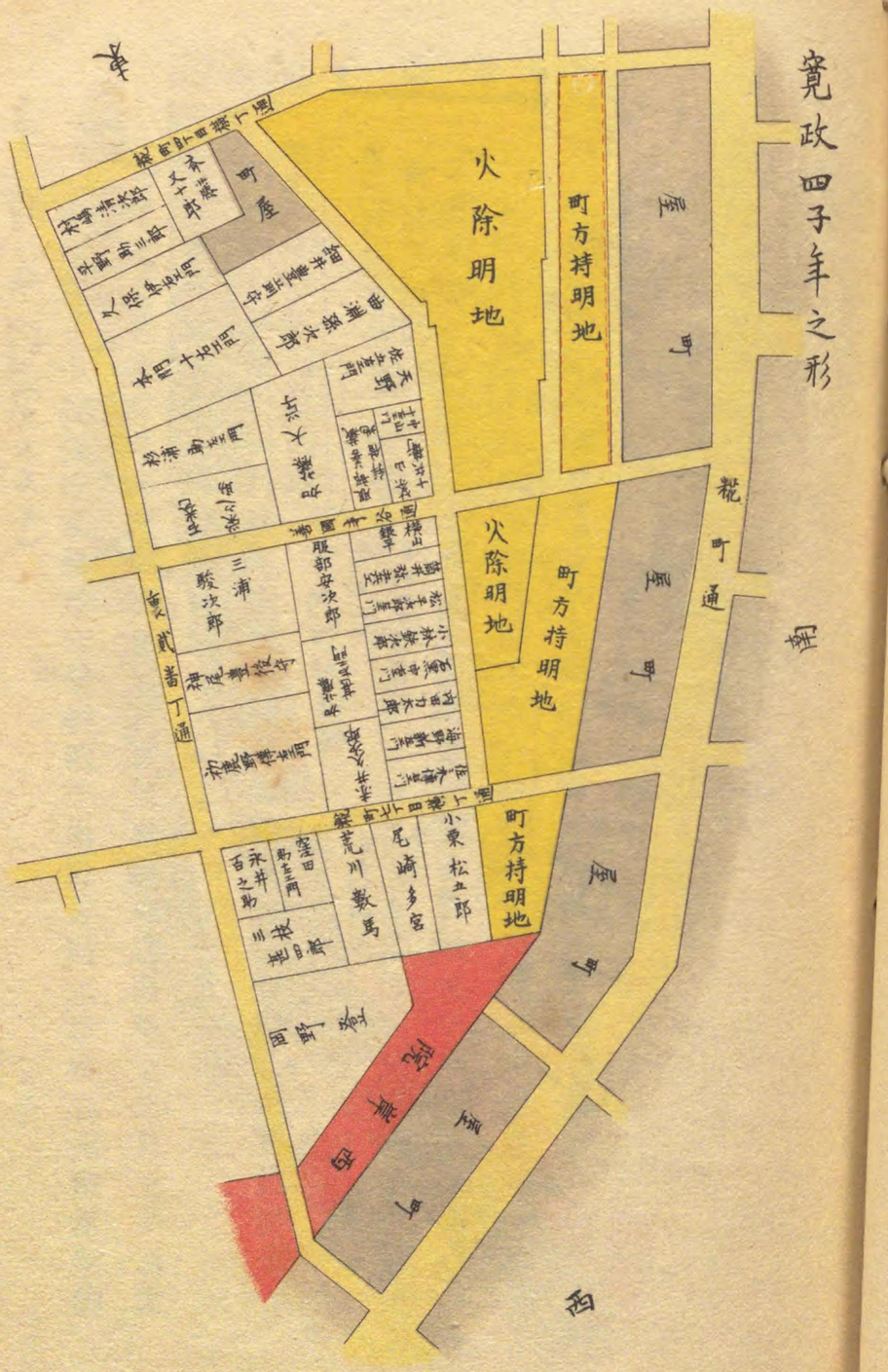
延寶之頃ヨリ享保十二未年迄之形

村鎌吉屋數被下。其外屋敷主代り候所も有之候得共、地續も如當時有之。

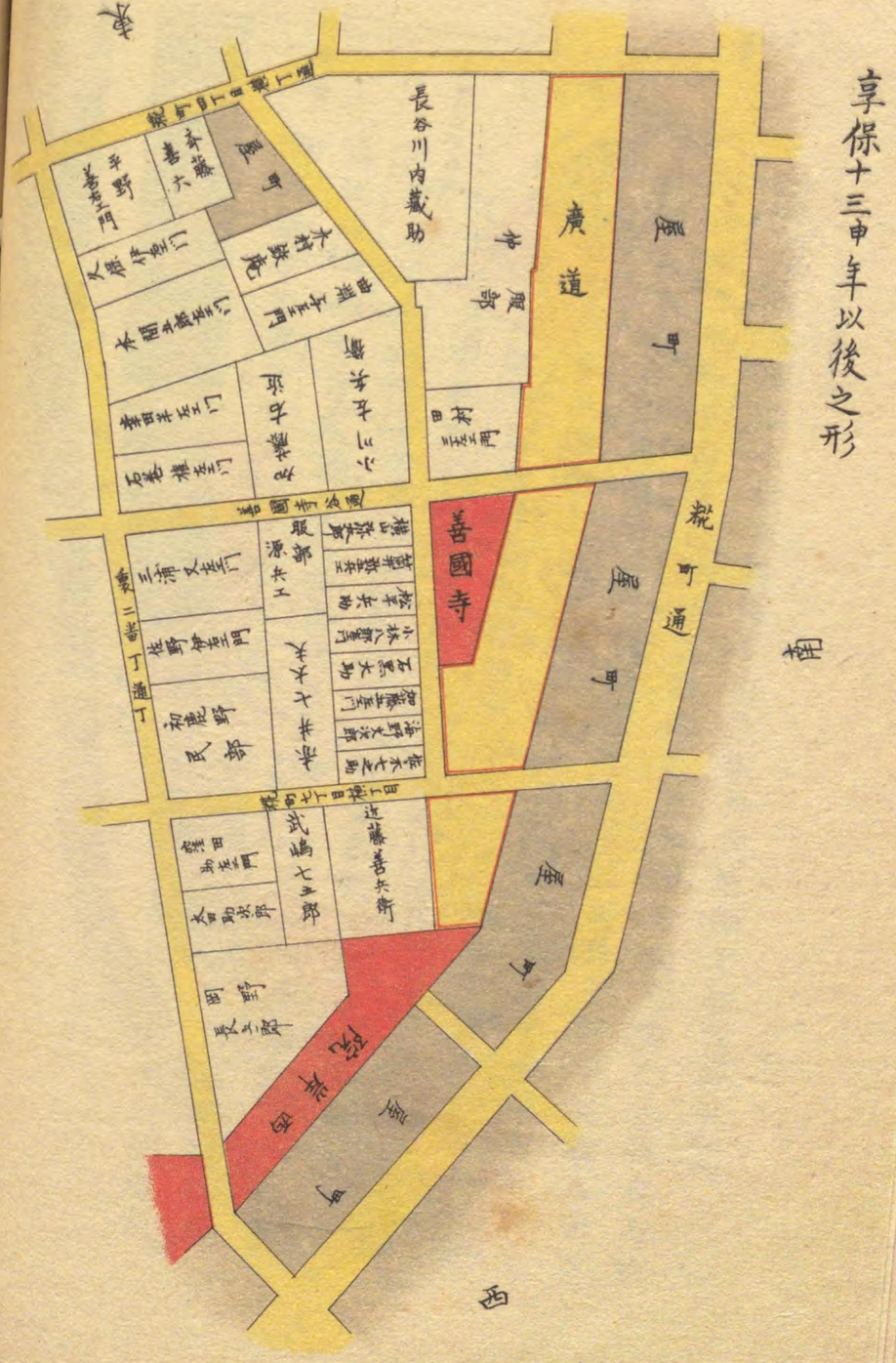
一、享保十三申年前書服部仲屋敷內南之方并川野源右衛門・小島孫右衛門・深津一郎兵衛屋敷・善國寺住居地・都筑五兵衛外七軒小屋敷・久保五郎右衛門屋敷共被召上、地所割替ニ成、川野源右衛門・小島孫右衛門上ケ地之內、北之方服部仲江代地被下、都筑五兵衛外七軒小屋敷上ケ地之內、東之方善國寺代地被下、四町目ゟ七町目町屋裏西岸院地境迄火除廣道出來、但此廣道其後年月不知町屋横町通道式ヲ限、三ケ所町方持明地ニ成。其外屋敷主代り候所も有之。

一、寛政四子年前書服部仲・長谷川三郎助先太郎兵衛・田村専次郎元川窪三右衛門・善國寺住居地共被召上、火除明地東西貳ケ所出來、其節四町目・五町目町屋裏町方持明地、南北貳筋新道出來、其外屋鋪主代り候所も有之候得共、寛政四子年ゟ道式も當時之形ニ有之。

寛政四子年之形



享保十三申年以後之形



文化五辰年

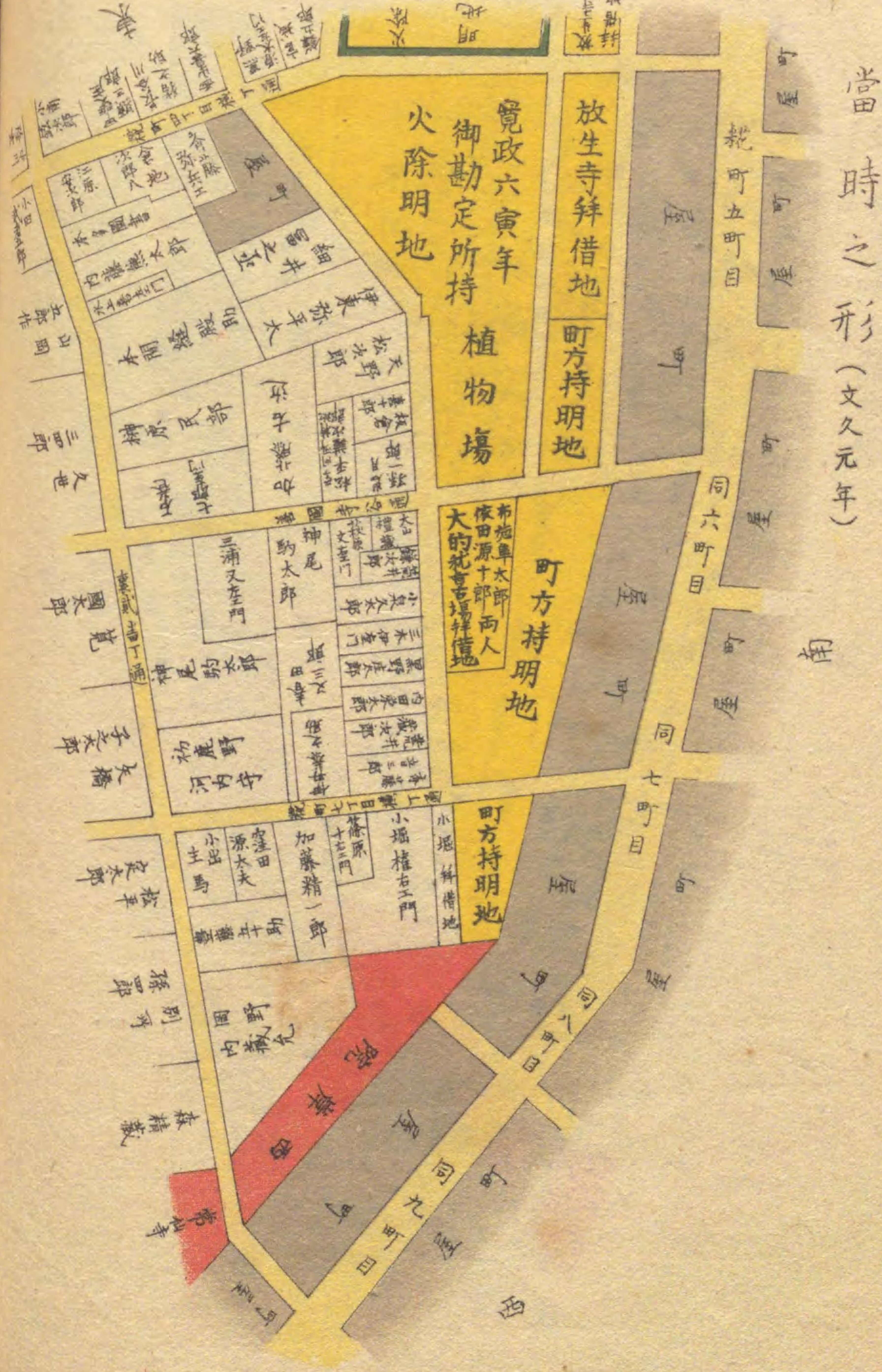
番町之内　屋鋪々並道式共

四谷御門内麹町大通北側同七町目通ゟ土手通迄東之方裏弐番町通ゟ同九町目迄續道式迄之内

右地所之内、四谷御門内土手通北之方ゟ折廻角當時加藤吉五郎屋鋪者、延寶以前ゟ有來ニ而、同所北續當時牧野若狭守・松平主馬・松下彦次郎・能勢主水・淺井道之丞屋鋪者、延寶以前ゟ元祿九子年迄小貫吉兵衛・榊原平兵衛・北續御先手組與力拾人屋鋪、北西之角小野淺之丞屋敷ニ而、其外一躰之屋敷續有之。

一、元祿十丑年十一月前書御先手組與力屋敷并小野淺之丞屋鋪共上ケ地ニ成、跡火消御役屋鋪ニ成。

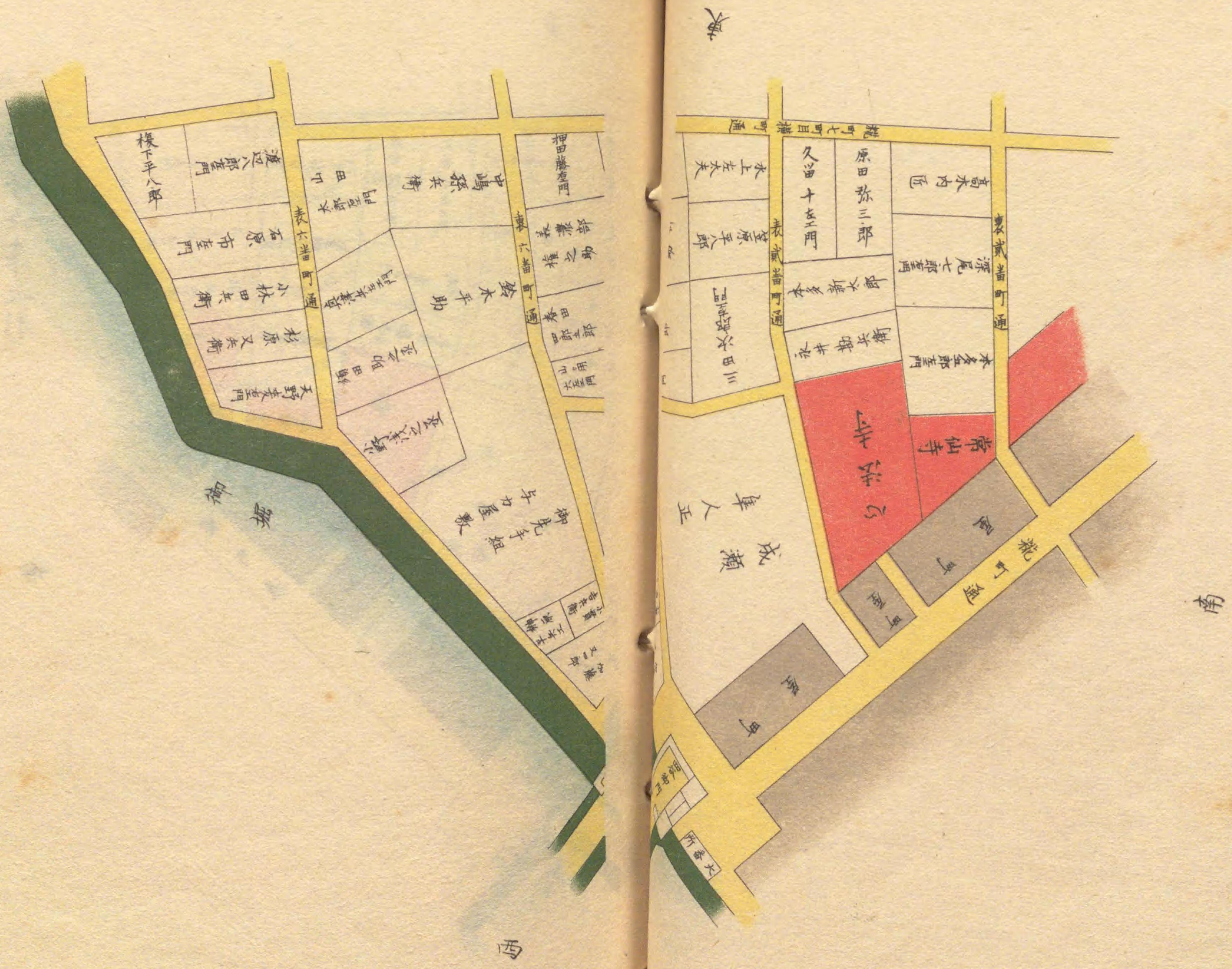
一、寶永元申年右火消御役屋鋪上り、跡割屋鋪ニ成、同年十二月土手通之方北角ゟ中程迄三枝攝津守屋鋪被下、南之方同二酉年二月御用屋鋪



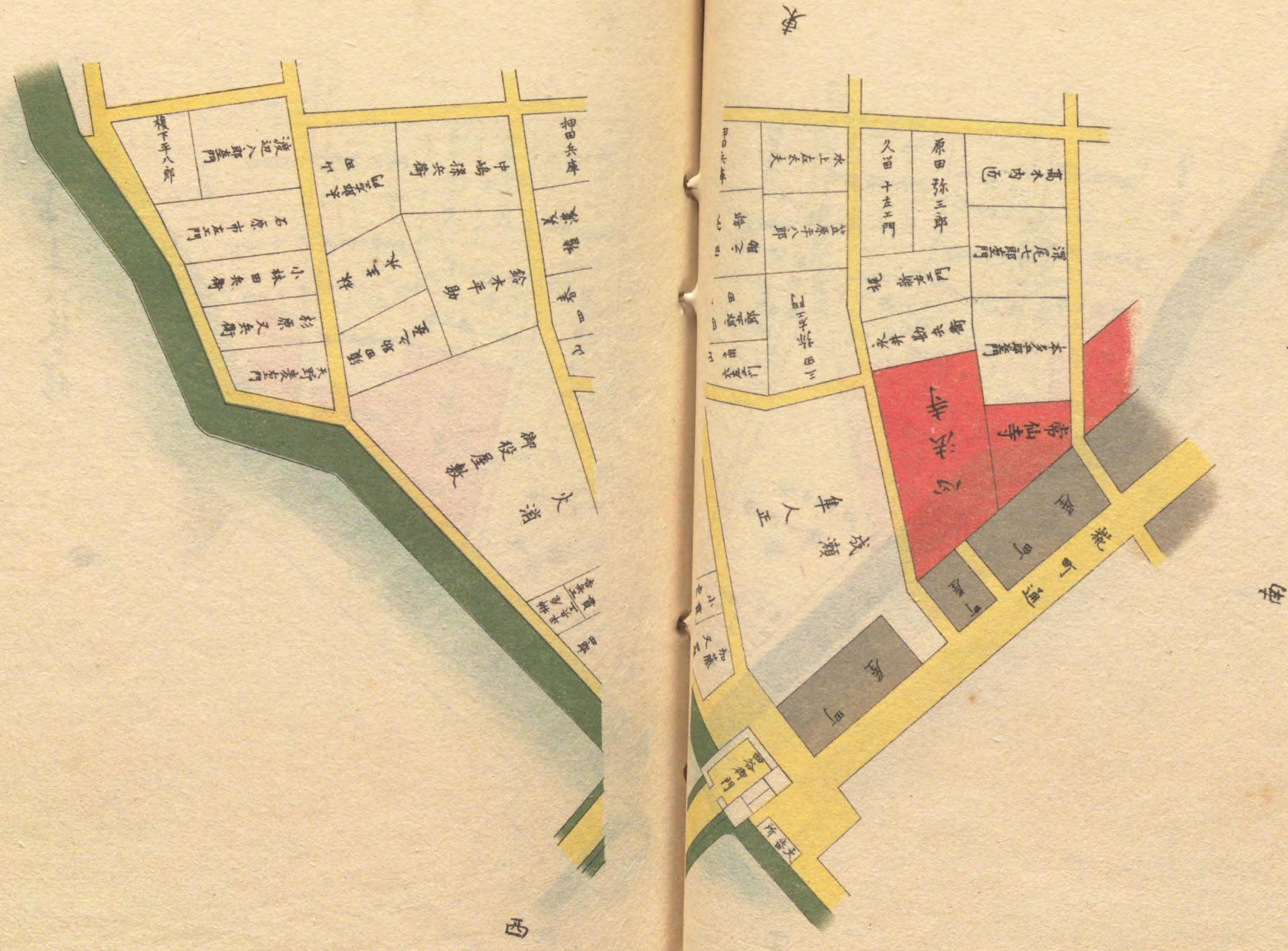
ニ成、東之方同年四月仁科五郎左衞門屋鋪被下、五郎左衞門屋鋪南續割殘地有之、正德三巳年之頃御用屋鋪者牧野能登守（當時若狹守）屋鋪被下、南續小貫吉兵衞・榊原平兵衞屋敷者、年月不知能登守屋鋪ゟ圍込ニ成、前書割殘明地享保十三申年田口忠助屋鋪被下、且攝津守・五郎左衞門屋敷む追々主代り、當時松平主馬・淺井道之丞・能勢主水・松下彦次郎屋敷ニ有之、同所北續當時火消御役屋敷者、延寶以前ゟ鈴木平助・中島孫兵衞山田太郎右衞門屋鋪ニ有之。

一、享保九辰年十二月右三人屋鋪上ケ地、火消御役屋鋪ニ成、其外一體之屋敷續ニる、追々主代り候所有之、且東之方當時間宮市郎兵衞・土山末五郎屋鋪者、元原田彌三郎屋鋪ニる、安永四未年上ケ地ニ成、內田主計・土山甚十郎屋敷被下、其節兩人屋鋪前行留通路出來、內田主計屋敷ハ其後主代り、當時間宮市郎兵衞屋敷有之、其外一體之道式者、延寶以前ゟ當時之形有之。

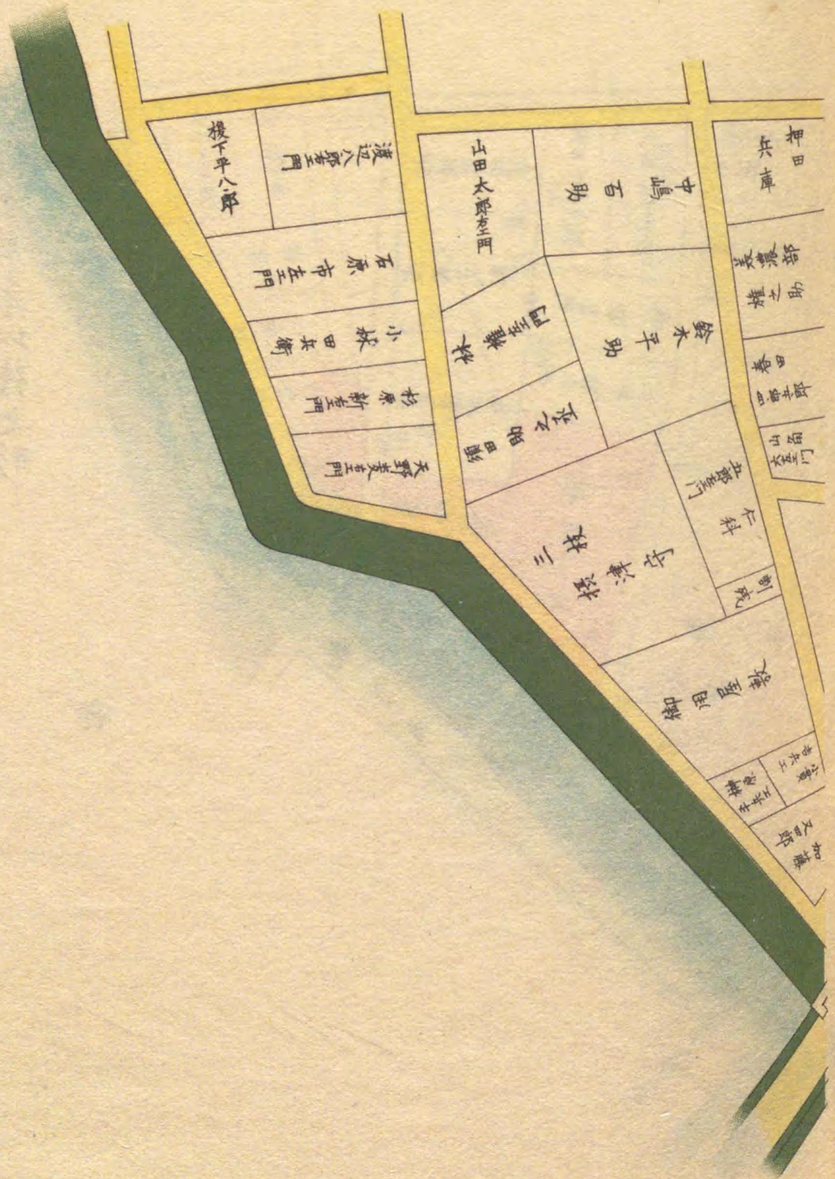
延寶之頃ヨリ元禄九子年迄之形

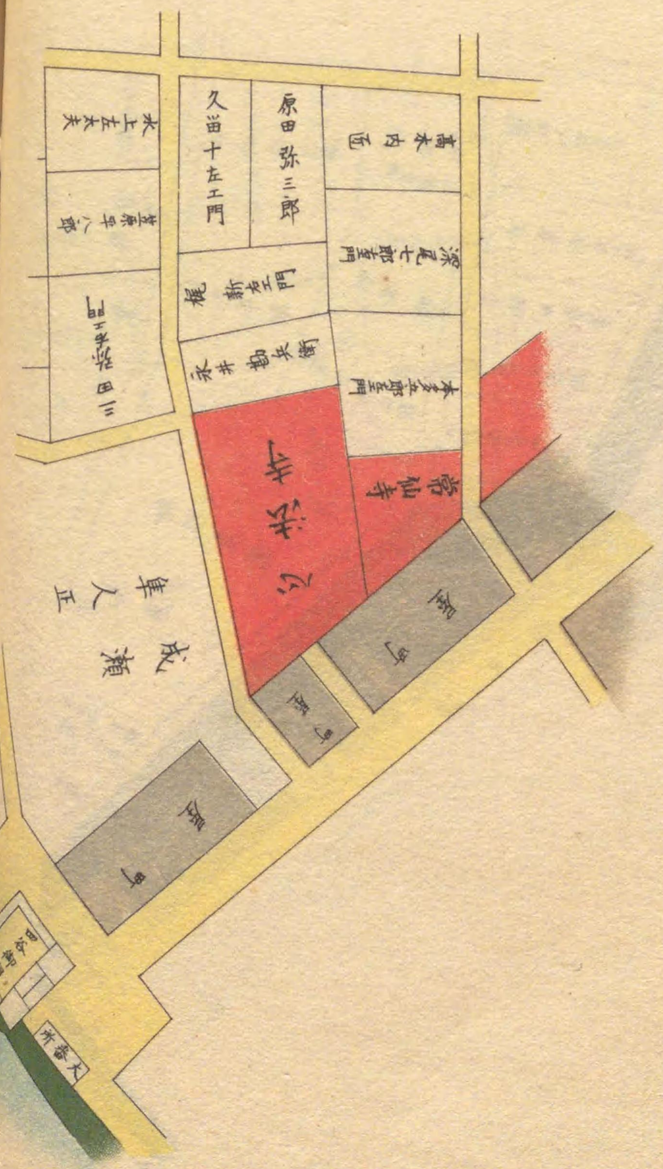


元禄十七年之形



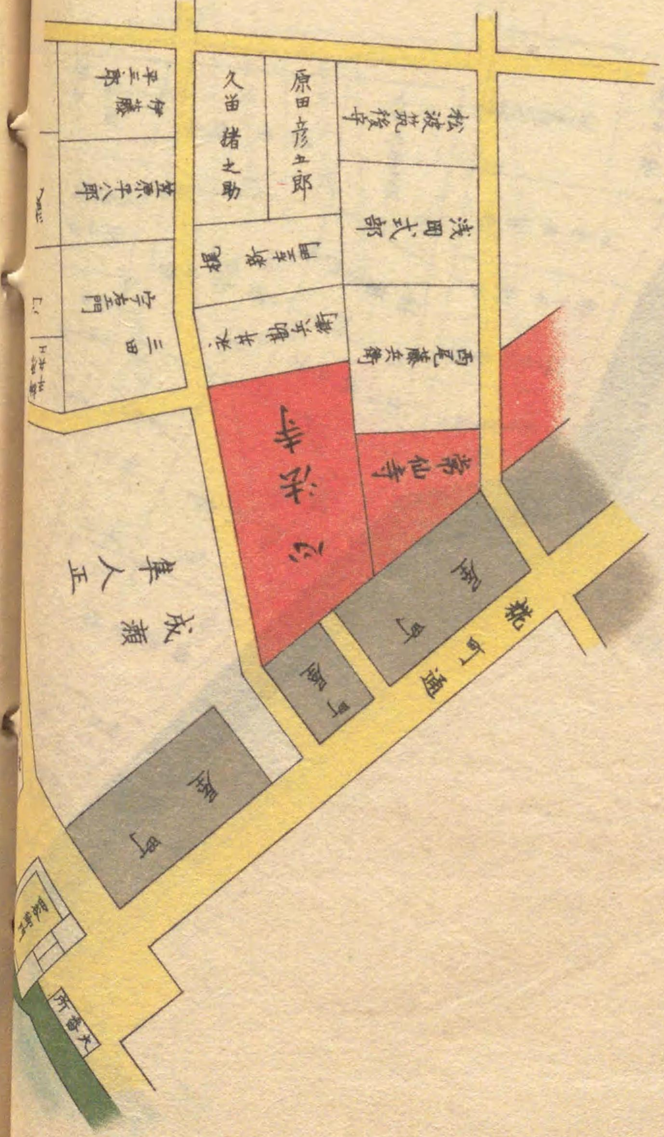
寶永元申年以後之形





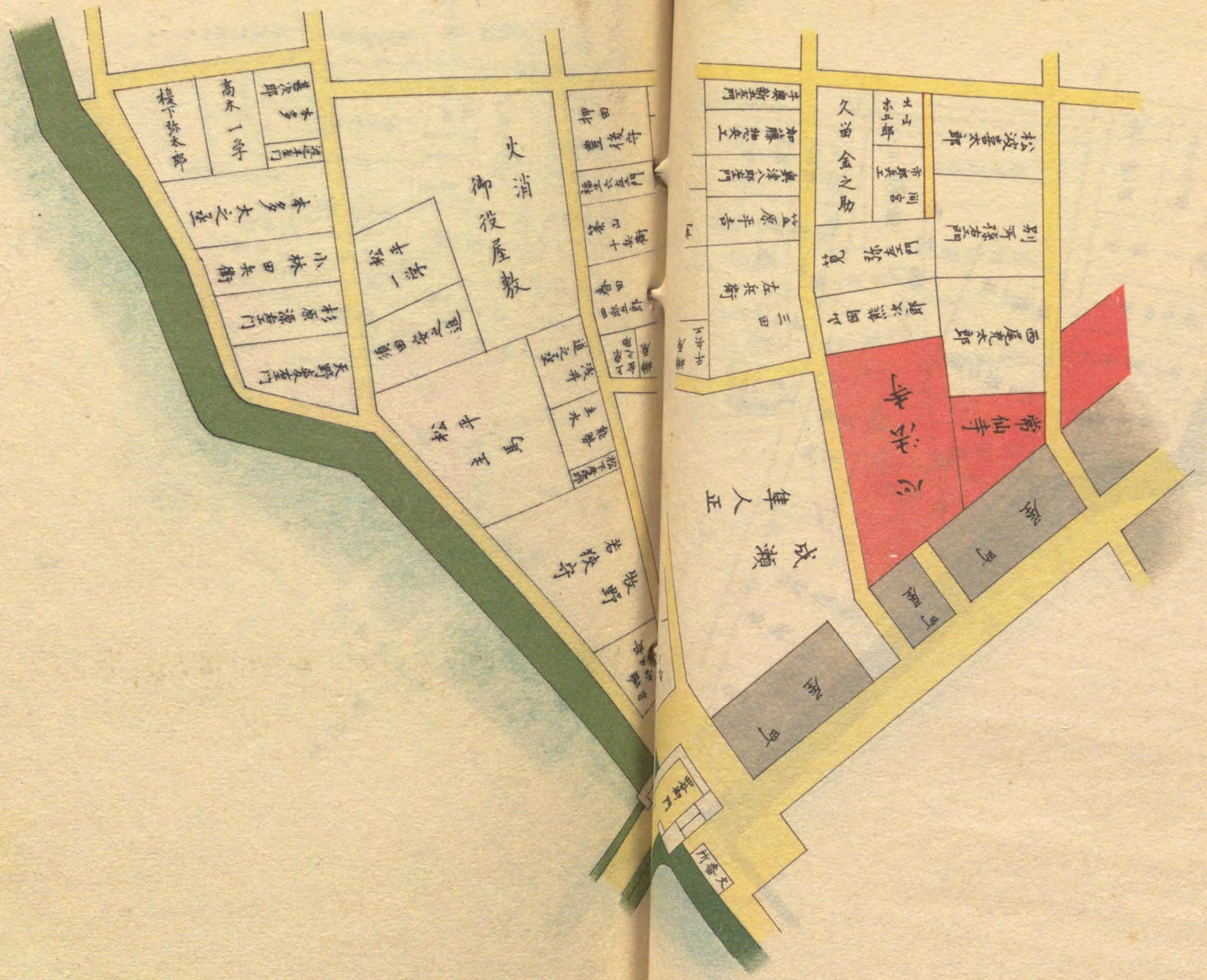
享保九辰年以後之形

西



南

文化五辰年之形


東
南
火消役屋敷
馬場
成瀬隼人正
勝仙寺
久留島金之助
三田
小林
本多太之進
本多下野守
本多上野介
本多内記
本多伊豆守
本多大和守
本多出雲守
本多主殿頭
本多豊後守
本多中務大輔
本多美濃守
本多備後守
本多能登守
本多安房守
本多越中守
本多飛騨守
本多内匠頭
本多隠岐守
本多佐渡守
本多遠江守
本多信濃守
本多丹後守
本多肥後守
本多対馬守
本多土佐守
本多阿波守
本多筑後守
本多因幡守
本多伯耆守
本多日向守
本多大隅守
本多薩摩守
本多長門守
本多安芸守
本多周防守
本多長門守
本多大膳亮
本多修理亮
本多内蔵助
本多図書頭
本多采女正
本多左近将監
本多左衛門佐
本多左京亮
本多右京亮
本多右衛門佐
本多右近将監
本多右馬助
本多右兵衛督
本多右衛門督
本多右大臣
本多右大将
本多右中将
本多右少将
本多右中弁
本多右少弁
本多右大弁
本多右中納言
本多右大納言
本多右内大臣
本多右太政大臣
本多右関白
本多右摂政
本多右太閤
本多右征夷大将軍
本多右源氏長者
本多右藤氏長者
本多右平氏長者
本多右橘氏長者
本多右菅原氏長者
本多右大江氏長者
本多右清和源氏長者
本多右村上源氏長者
本多右桓武平氏長者
本多右仁明源氏長者
本多右文徳源氏長者
本多右光孝源氏長者
本多右宇多源氏長者
本多右醍醐源氏長者
本多右朱雀源氏長者
本多右冷泉源氏長者
本多右円融源氏長者
本多右花山源氏長者
本多右一条源氏長者
本多右三条源氏長者
本多右後一条源氏長者
本多右後朱雀源氏長者
本多右後冷泉源氏長者
本多右後三条源氏長者
本多右白河源氏長者
本多右堀河源氏長者
本多右鳥羽源氏長者
本多右崇徳源氏長者
本多右近衛源氏長者
本多右後白河源氏長者
本多右二条源氏長者
本多右六条源氏長者
本多右高倉源氏長者
本多右安徳源氏長者
本多右後鳥羽源氏長者
本多右土御門源氏長者
本多右順徳源氏長者
本多右仲恭源氏長者
本多右後堀河源氏長者
本多右四条源氏長者
本多右後嵯峨源氏長者
本多右後深草源氏長者
本多右亀山源氏長者
本多右後宇多源氏長者
本多右伏見源氏長者
本多右後二条源氏長者
本多右花園源氏長者
本多右後醍醐源氏長者
本多右光厳源氏長者
本多右後光厳源氏長者
本多右後円融源氏長者
本多右後小松源氏長者
本多右称光源氏長者
本多右後花園源氏長者
本多右後土御門源氏長者
本多右後柏原源氏長者
本多右後奈良源氏長者
本多右正親町源氏長者
本多右後陽成源氏長者
本多右後水尾源氏長者
本多右明正源氏長者
本多右後光明源氏長者
本多右後西源氏長者
本多右霊元源氏長者
本多右東山源氏長者
本多右中御門源氏長者
本多右桜町源氏長者
本多右桃園源氏長者
本多右後桜町源氏長者
本多右後桃園源氏長者
本多右光格源氏長者
本多右仁孝源氏長者
本多右孝明源氏長者
本多右明治源氏長者
本多右大正源氏長者
本多右昭和源氏長者
本多右平成源氏長者
本多右令和源氏長者

當時之形（文久元年）